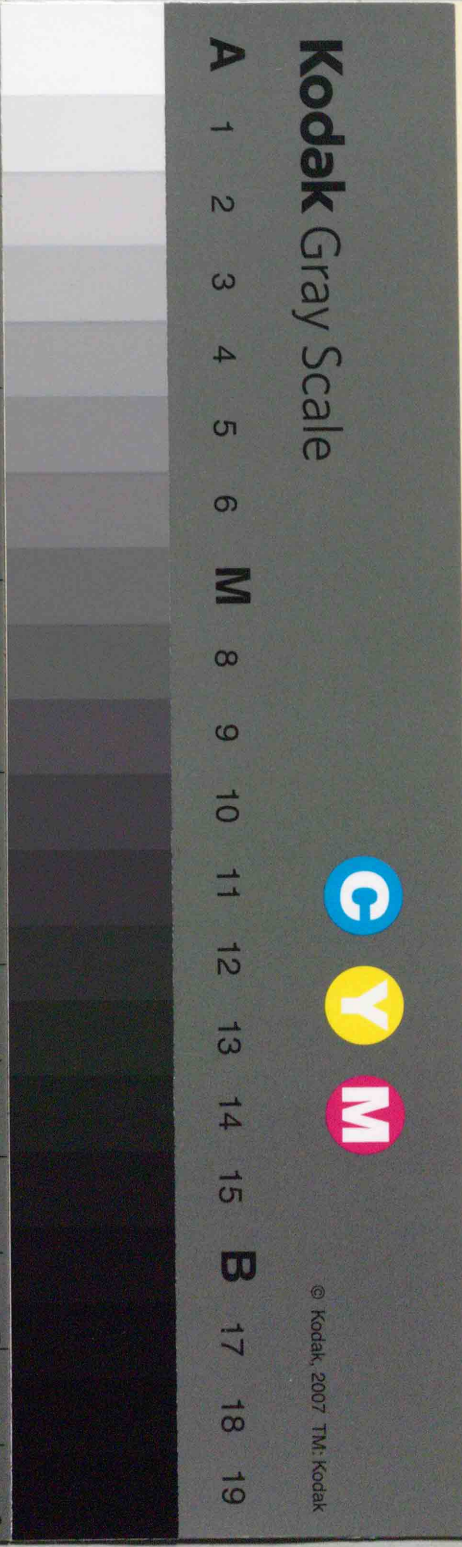
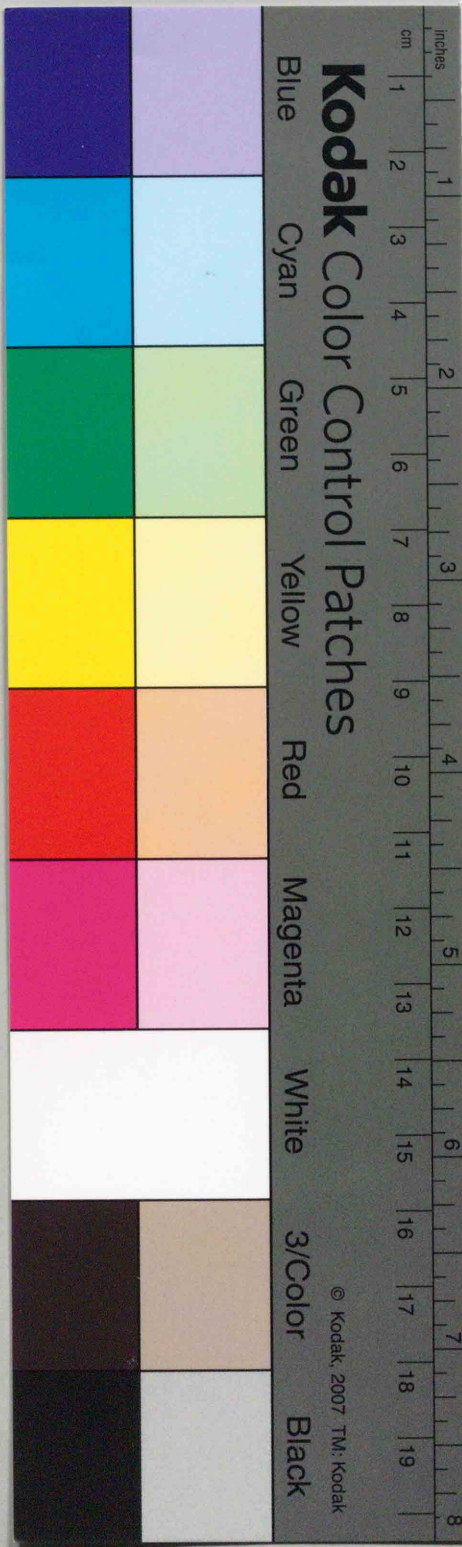
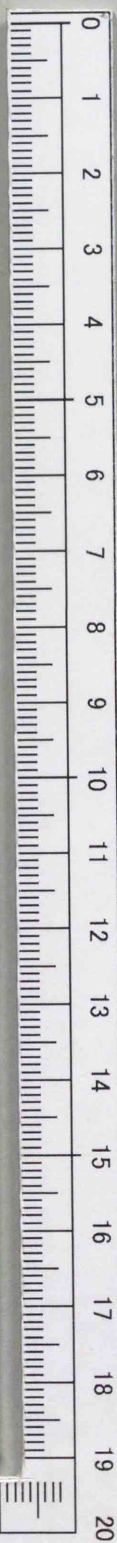


# 尋常小學國史附圖

第六學年用

教科書文庫  
4  
210  
31-1930  
0130458333



43257  
教科書文庫  
4  
210  
31-1930  
01304  
58333

中央図書館



|            |
|------------|
| 教科書文庫      |
| 4          |
| 210        |
| 31-1930    |
| 0130458333 |

# 尋常小學國史附圖

廣島高等師範學校訓導 菊地勝之助編

第六學年用

|       |
|-------|
| 登録番号  |
| 26512 |
| 分     |
| 375.9 |
| 類     |
| K     |

版 藏 店 書 川 立

広島大学図書

0130458333

この附圖を使用する方へ

一 この附圖は尋常六學年の國史の自習用としてつくつたもので、年代圖・繪畫・寫眞・地圖・系圖並に自習問題・語句の解釋・表解等は、すべて國史教科書と密接な連絡をこつて選び、これを一課毎にまごめて自習のしやすいやうにしたものです。

一 この附圖の繪畫・寫眞・地圖・系圖等は、みんなよりごころのもの、しかも趣味に富むものを選んで國史教科書を學ぶ助けとなるやうに仕組みました。國史を調べる場合に、十分この附圖と引き合せなさい。

一 卷頭の年代圖は尋常小學國史(上・下)に現はれた主なる歴史のここがらをそれ〴〵年代順にならべ、その上世界の歴史と照し合せて、人物の活動した時代なり、事件のあつた年代

なりが一目ではつきりわかるやうになつてをります。教科書で人物なり事件なりを學んだ際には、必ずこの年代圖によつてたしかめるやうにしなさい。

一 卷末にかかげた自習問題・語句の解釋及び表解等は、共に國史の豫習・復習の用にそなへたものです。

自習問題は其の課の主なる歴史事項を問題として出したものですからこれによつて習つたことをまごめて御覽なさい。

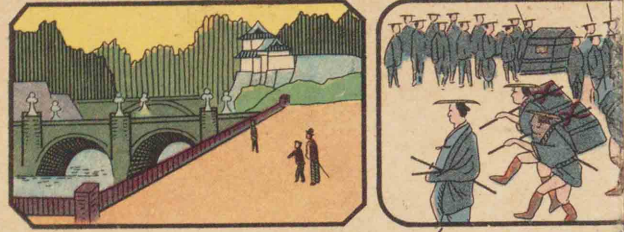
語句の解釋は教科書の難語句をぬき出して解釋を加へてありますから、教科書を豫習する場合に字引になります。表解は其の課の概要をつまみ出して簡明に書き分けたものですから、國史を記憶する時の参考になります。

# 尋常科 小學國史附圖 目次

|      |                |            |   |
|------|----------------|------------|---|
| 第三十三 | 織田信長           | 二          |   |
| 第三十四 | 第三十五           | 豐臣秀吉(一)(二) | 三 |
| 第三十六 | 第三十七           | 德川家康(一)(二) | 四 |
| 第三十八 | 德川家光           | 五          |   |
| 第三十九 | 後光明天皇          | 六          |   |
| 第四十  | 德川光圀           | 七          |   |
| 第四十一 | 大石良雄           | 八          |   |
| 第四十二 | 新井白石           | 九          |   |
| 第四十三 | 德川吉宗           | 一〇         |   |
| 第四十四 | 松平定信           | 一一         |   |
| 第四十五 | 本居宣長           | 一二         |   |
| 第四十六 | 高山彦九郎と蒲生君平     | 一三         |   |
| 第四十七 | 攘夷と開港(一)(二)(三) | 一四         |   |
| 第四十八 | 孝明天皇           | 一五         |   |
| 第四十九 | 武家政治の終(一)(二)   | 一六         |   |
| 第五十  | 明治天皇           | 一七         |   |
| 三    | 明治維新           | 一八         |   |
| 二    | 西南の役           | 一九         |   |
| 一    | 憲法發布           | 二〇         |   |

|      |           |                    |    |
|------|-----------|--------------------|----|
| 第五十四 | 自修問題と學習事項 | 二一                 |    |
| 二    | 第五十三      | 大正天皇崩御             | 二二 |
| 一    | 第五十二      | 並に關東大震災            | 二三 |
| 二    | 一         | 皇太子殿下の攝政と御成婚       | 二四 |
| 一    | 一         | 皇太子殿下の御外遊          | 二五 |
| 一    | 一         | 皇太子殿下の出來事          | 二六 |
| 一    | 一         | 歐洲の大戦と我が國(一)(二)(三) | 二七 |
| 一    | 一         | 天皇の即位              | 二八 |
| 一    | 一         | 大正天皇               | 二九 |
| 一    | 一         | 明治天皇の崩御            | 三〇 |
| 一    | 一         | 韓國聯合               | 三一 |
| 一    | 一         | 明治三十七八年戰役(一)(二)(三) | 三二 |
| 一    | 一         | 條約改正               | 三三 |
| 一    | 一         | 明治二十七八年戰役(一)(二)    | 三四 |
| 一    | 一         | 明治二十七八年戰役(一)(二)    | 三五 |
| 一    | 一         | 天皇御在位將軍在職對照表       | 三六 |
| 一    | 一         | 卷頭                 | 三七 |
| 一    | 一         | 歷史年代表・御歷代御系圖       | 三八 |

—(目次終)—



|   |      |      |     |     |     |
|---|------|------|-----|-----|-----|
| 2500  | 2400 | 皇    |     |     |     |
| 124   | 123  | 122  | 121 | 119 | 113 |
| 今   | 大    | 明    | 孝   | 光   | 東   |
| 上   | 正    | 治    | 明   | 格   | 山   |
| 現   |      | 明治時代 | 戸時代 |     | 德川氏 |
| 代   |      | 大正時代 | 氏川德 |     |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>通商條約(二五二一)</li> <li>大政奉還(二五二七)</li> <li>清法戰爭(二五三九)</li> <li>露日戰爭(二五四四)</li> <li>日清戰爭(二五五〇)</li> <li>日露戰爭(二五七四)</li> <li>獨戰(二五七四)</li> </ul>  |      |      |     |     |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>米國使節來朝(二五二一)</li> <li>德川綱吉</li> <li>元祿時代</li> <li>松平定信</li> <li>本居宣長</li> <li>高山彦九郎</li> <li>尊王論</li> <li>國學ノ勃興</li> <li>德川齊昭</li> <li>外艦ノ來朝</li> <li>武家政治ノ終</li> <li>憲法發布</li> <li>教育勅語</li> <li>日清戰爭</li> <li>日露戰爭</li> <li>日韓併合</li> <li>明治天皇ノ崩御</li> <li>大正天皇ノ御發祥</li> <li>日露戰爭</li> <li>シベリヤ出兵</li> <li>南洋諸島委任統治</li> <li>皇太子御即位</li> <li>關東地方大震災</li> <li>日露國交復活</li> <li>大正天皇ノ崩御</li> <li>昭和改元</li> <li>南京事件</li> <li>支那出沒動トモリスラ發祥</li> <li>日獨通商條約締結</li> </ul> |      |      |     |     |     |
| 支那共國  |      | 韓    | 英   | 清   | 世   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ベートル大帝</li> <li>ニートン</li> <li>重刀法則發見</li> <li>フランクリン</li> <li>新機軸發明</li> <li>ベスタロチ</li> <li>ワシントン</li> <li>汽船發明</li> <li>九ボレオン</li> <li>ビクトリア文帝</li> <li>スエズ運河開通</li> <li>普佛戰爭</li> <li>支那大革命</li> <li>歐洲大戰</li> <li>ハルビン和會議</li> <li>華盛頓會議</li> <li>支那動亂</li> <li>セネガの電報</li> <li>書議</li> </ul>   |      |      |     |     |     |
| 1900  |      | 一九   | 一八  | 一七  | 一〇  |





御歷代御系圖

神武 綏靖 安寧 懿德 孝昭 孝安

孝靈 孝元 開化 崇神 垂仁 景行

成務 日本武仲 哀應 神

仁德 履正 中 顯宗 仁賢 武烈

允反 恭正 安康 清寧 安閑 敏達

雄略 安略 清體 欽明 崇峻

天智 天武 天智 弘文 持統 元正 桓武

孝德 孝和 孝和 清和 醍醐 村上天

平城 嵯峨 和 光孝 宇多 醍醐 村上天

圓融 泉 融 一條 後一條 後冷泉 白河 堀河

鳥羽 崇德 高倉 安德 後堀河 四條

近衛 白河 二條 守貞 後堀河 四條

後深草 伏見 後伏見 光明 順德 仲恭

龜山 後宇多 後醍醐 後村上 長慶 後龜山

崇光 榮仁 貞成 後花園 後土御門 後柏原

後光嚴 後光嚴 光明 光明 順德 仲恭

後醍醐 後村上 長慶 後龜山

後土御門 後土御門 後土御門 後土御門

後土御門 後土御門 後土御門 後土御門

後土御門 後土御門 後土御門 後土御門

後土御門 後土御門 後土御門 後土御門

後土御門 後土御門 後土御門 後土御門

後土御門 後土御門 後土御門 後土御門

後土御門 後土御門 後土御門 後土御門

後土御門 後土御門 後土御門 後土御門

後土御門 後土御門 後土御門 後土御門

後土御門 後土御門 後土御門 後土御門

後土御門 後土御門 後土御門 後土御門

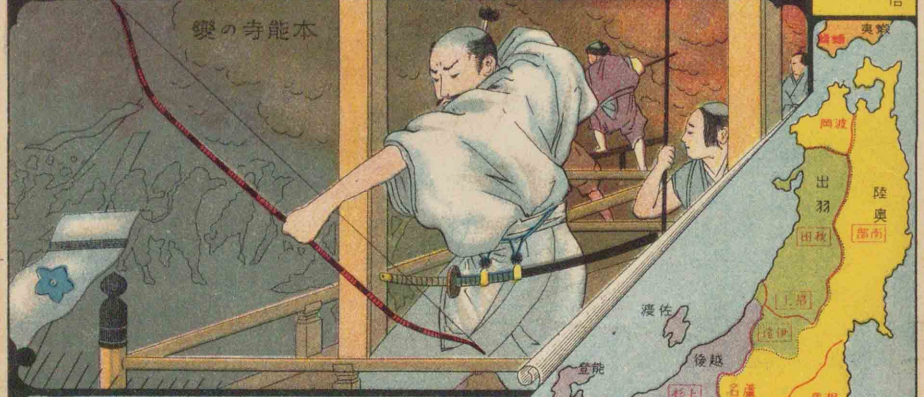
後土御門 後土御門 後土御門 後土御門





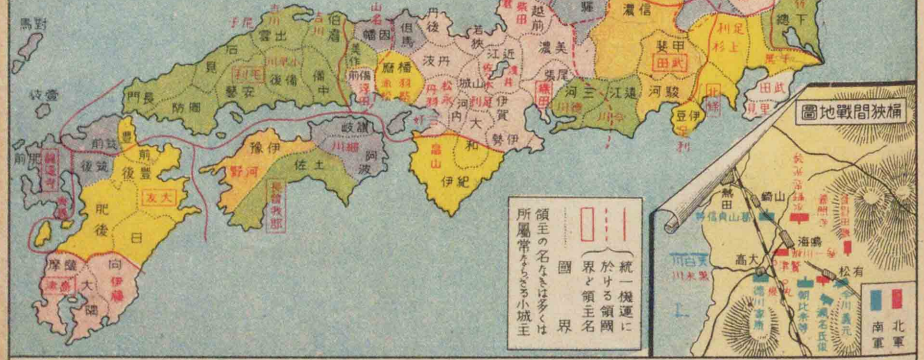


戦の間狭桶



變の寺能本

圖地櫓割雄群



織田氏略系  
 平重盛—資盛—織田信秀—信長—信忠—信秀  
 信孝

**織田信長**  
 織田信秀の子で常に大志をいだいてゐた。今川義元を亡してから威名忽ち四方にひろがった。勤王の志深く御費用を奉つて皇居を修理し朝廷の御爲に盡した。後其の臣明智光秀に攻められ本能寺で自殺した。

**桶狭間の戦**  
 永祿三年五月織田信長風雨に乗じて今川義元を攻めて之を亡した。圖に於て倒れてゐるのは信長の臣服部小平太で組討してゐるのは義元と信長の臣毛利新助である。新助は遂に義元の首を討取つたのである。

**本能寺の變**  
 織田信長が自ら弓矢を取つて叛臣明智の軍と奮戦してゐる所である。

| 家治   |      | 家慶   |      | 家重   |      | 家治   |      |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 後桃園  | 後陽成  | 仁家   | 孝綱   | 吉明   | 喜慶   | 宣家   | 吉宗   |
| 德川家康 | 秀忠   | 家光   | 綱吉   | 家治   | 家重   | 徳川家康 | 徳川家康 |
| 徳川家康 | 秀忠   | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 |
| 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 |
| 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 |
| 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 |
| 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 | 徳川家康 |

**五 江戸時代**

後陽成 後水尾 明正 後光明 後西院 靈元 東山 中御門 櫻町 桃園 後櫻町

**四 安土桃山時代**

義持 義教 義政 義尚 義澄 義種 義晴 義輝

**三 室町時代**

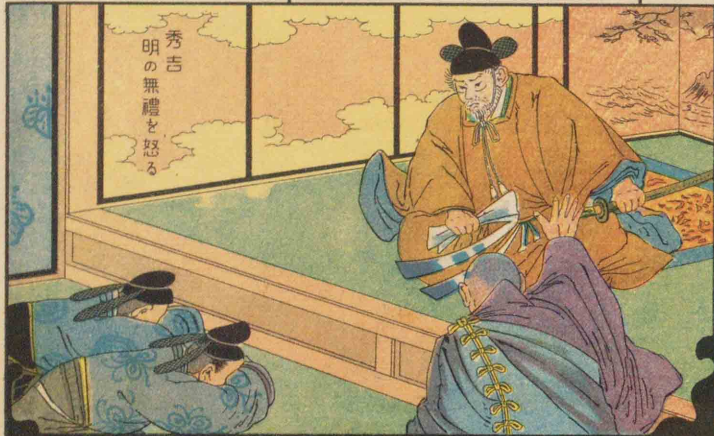
後小松 稱光 後花園 後土御門 後柏原 後奈良 正親町

**二 吉野時代**

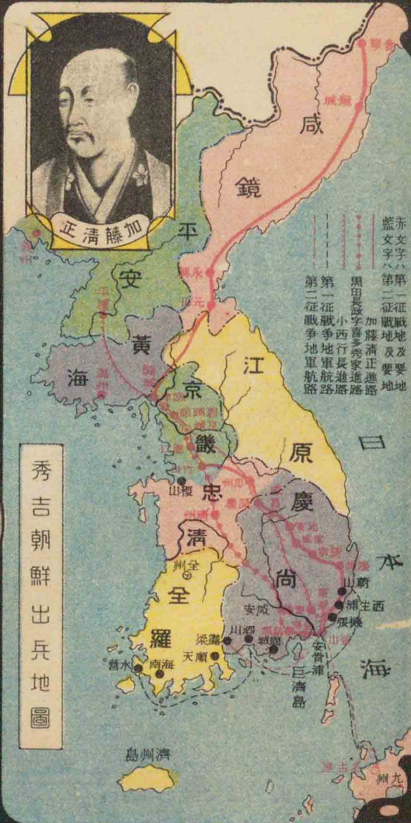
後醍醐 後村上 長慶 後龜山

源頼朝 頼朝 藤原頼經 頼朝 宗尊親王 惟康親王 久明親王 守邦親王

後鳥羽 土御門 順徳 仲恭 後堀河 四條 後巖 後深草 龜山 後宇多 伏見 後後 後後 後花園 後醍醐 後三



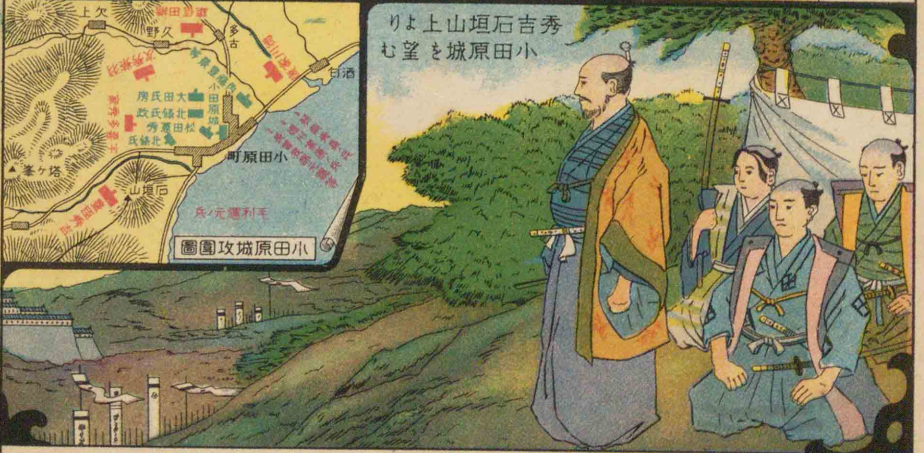
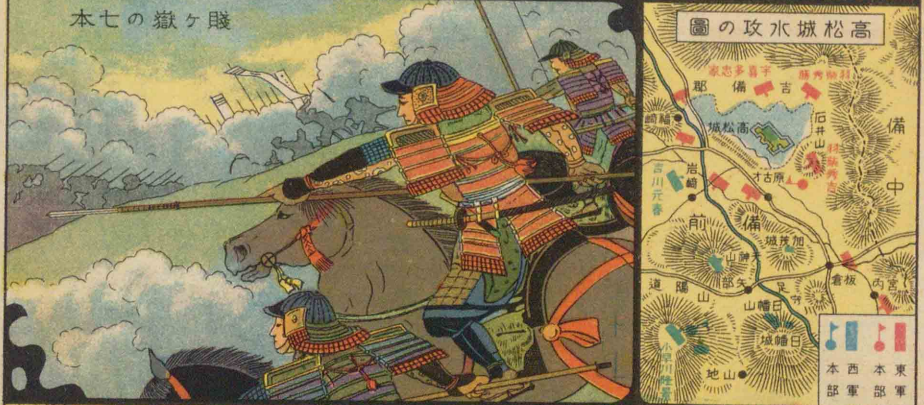
豊臣氏略系  
 木下彌右衛門  
 農夫の女(大政所)  
 筑阿彌  
 木下彌助  
 秀次  
 秀吉—秀頼  
 秀長  
 女家康の後妻



**秀吉明の無禮を怒る**  
 慶長元年の秋秀吉大阪城で明の講和使を引見した。然るに其のたらす所の國書に「汝を封して日本國王となす」とあつた秀吉大に怒つて其の無禮を責め明使をおひかへした。圖は其の様を描いたので下壇に平伏して居るのは明使の揚方亨と沈惟敬である。

**清正の虎狩**  
 本圖はかの仁と勇の徳をかね具へた加藤清正が朝鮮で勇壯な虎狩をして居る所である。

**碧蹄館の戦**  
 碧蹄館は京城の北四里の所にある。明將李如松が十萬の大兵を以て攻めて来た時我が小早川隆景が之をむかひ戦つて大に敗つた。本圖はその激戦の繪である。

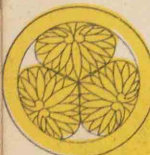


**矢矧川の橋上**  
 本圖は秀吉十六歳の時矢矧川の橋上で蜂須賀小六といふ野武士と言ひ争つて居る所である。

**大阪城**  
 天正年間豊臣秀吉の築いた城で規模宏大所謂難攻不落の名城である。當時に於ける隆々たる秀吉の威光を語つて居る。

**賤ヶ嶽の七本槍**  
 天正十一年三月秀吉は近江に入り賤ヶ嶽に陣し四月佐久間盛政の陣地に押寄せた。此の時秀吉方の七將は槍を揮つて突入し大勝を博した。世に賤ヶ嶽の七本槍といふ。

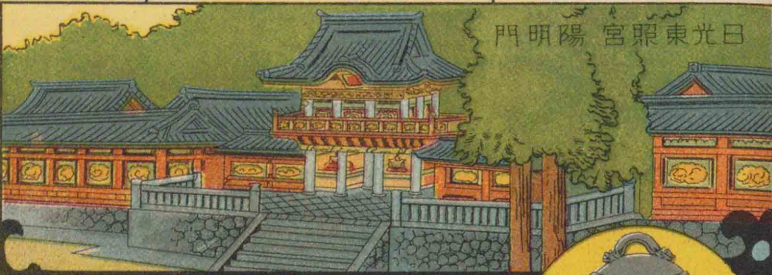
**小田原城を望む**  
 本圖は秀吉が今石垣山上にあつて小田原城を見下し奥州から上つて来た伊達政宗に攻圍の様を説明して居る所である。



徳川氏略系(一)

源氏家—義國—新田義重—義季—松平廣忠—徳川家康

秀忠—家光  
秀康—家康  
頼宣—頼朝  
頼房—頼朝



日光東照宮 陽明門

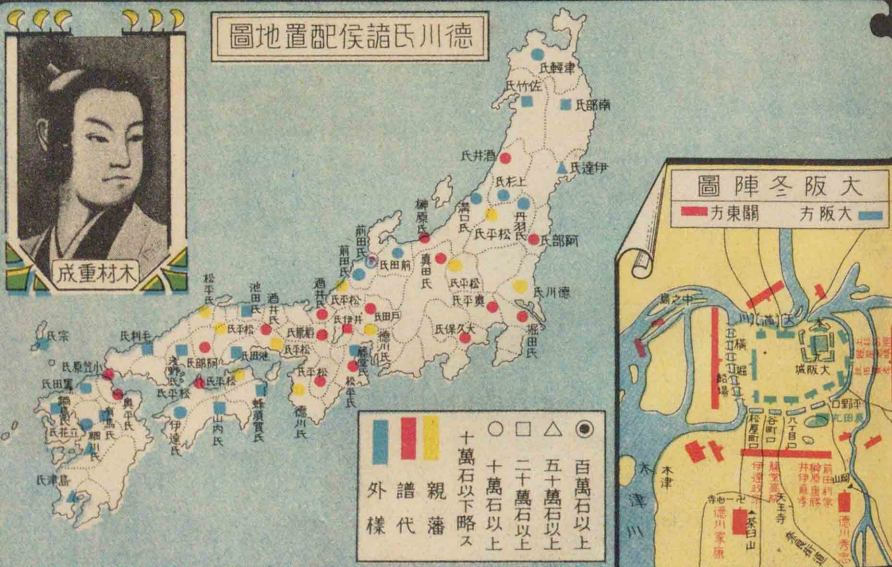


方廣寺の巨鐘

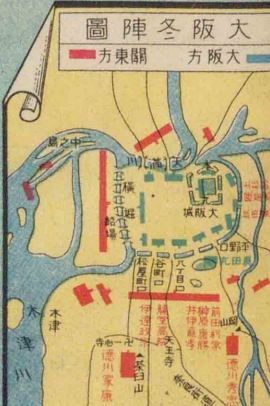
所庶幾者 國家安康  
四海施化 萬歲傳芳  
君臣豐樂 子孫殷昌

大坂夏の陣

徳川氏諸侯配置地圖



成重材木



大坂冬の陣地圖

**日光東照宮**  
下野の國の日光にある。徳川家康を祀れる社殿その壯麗なことは實に天下無双である。

**大坂の役**  
大坂の役には冬の陣と夏の陣がある。本圖は夏の陣に於ける敵味方の奮戦の有様を描いたのである。此の戦は勿論家康の勝利に歸し城遂に陥つて秀頼母子は城中で自殺し、豊臣氏は遂に亡んだのである。

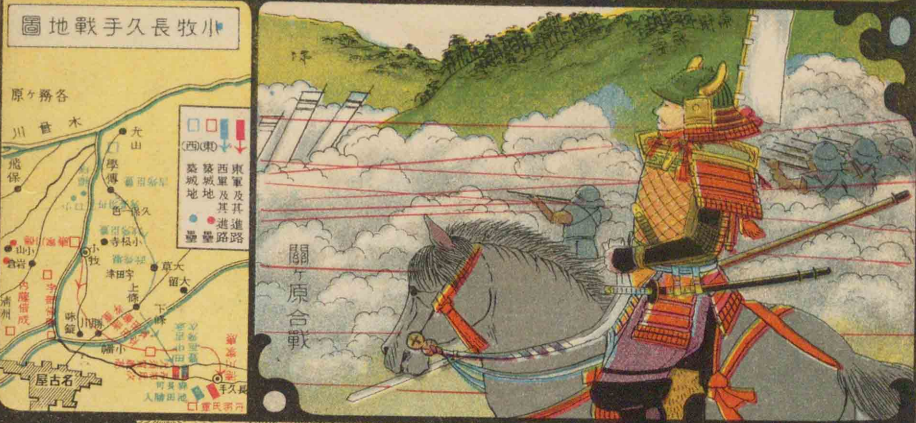
**木村重成**  
智勇兼備の名將である。元和元年大坂夏の陣に秀頼のために奮戦して遂に忠死した。年二十一。

**方廣寺の巨鐘**  
大坂役の種となつた巨鐘で今も京都の方廣寺に残つて昔を語つて居る。

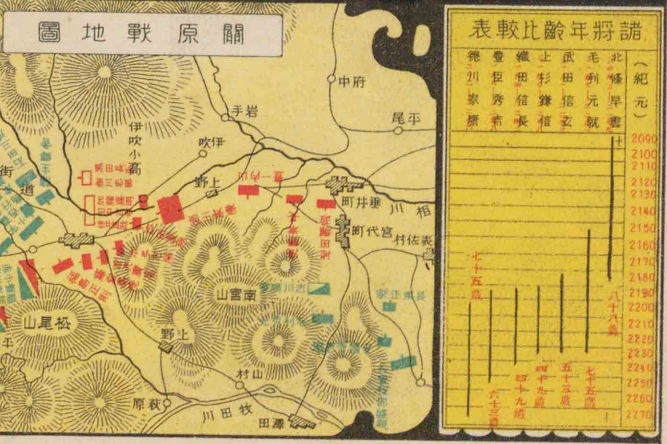
康家倍河原石合戦を見る



康家川徳



小牧長久手戦地圖



關原戦地圖



石三成

諸將年齢比較表 (紀元)

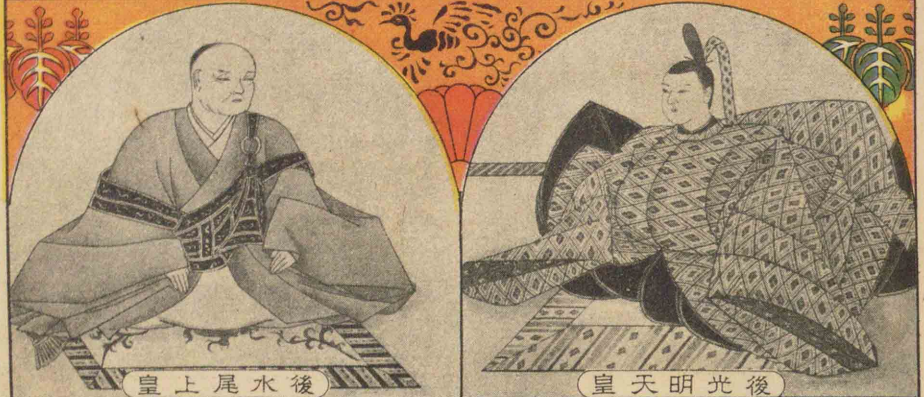
|      |      |
|------|------|
| 徳川家康 | 2090 |
| 豊臣秀吉 | 2100 |
| 織田信長 | 2110 |
| 徳川秀忠 | 2120 |
| 豊臣秀長 | 2130 |
| 徳川家康 | 2140 |
| 豊臣秀長 | 2150 |
| 徳川家康 | 2160 |
| 豊臣秀長 | 2170 |
| 徳川家康 | 2180 |
| 豊臣秀長 | 2190 |
| 徳川家康 | 2200 |
| 豊臣秀長 | 2210 |
| 徳川家康 | 2220 |
| 豊臣秀長 | 2230 |
| 徳川家康 | 2240 |
| 豊臣秀長 | 2250 |
| 徳川家康 | 2260 |
| 豊臣秀長 | 2270 |

**石合戦**  
本圖は徳川家康が下野の背に負はれて安倍川の河原で石合戦を見て居る所である。僅か十歳の家康が小勢方の勝利を豫言して今川義元を驚かしたのである。

**關原の合戦**  
慶長五年九月西軍石田三成と東軍徳川家康とが美濃の關ヶ原で戦つた。實に天下分目の戦であつたが遂に家康の勝利に歸し、ここに天下の形勢が定つたのである。本圖は今兩軍激戦の光景である。

**石三成**  
近江の人。幼から伶俐で豊臣秀吉に深く用ひられた。秀頼の代になつて同志を集めて家康と關原に戦つて遂に破れ三條の河原で殺された。

皇天明後 九十三第



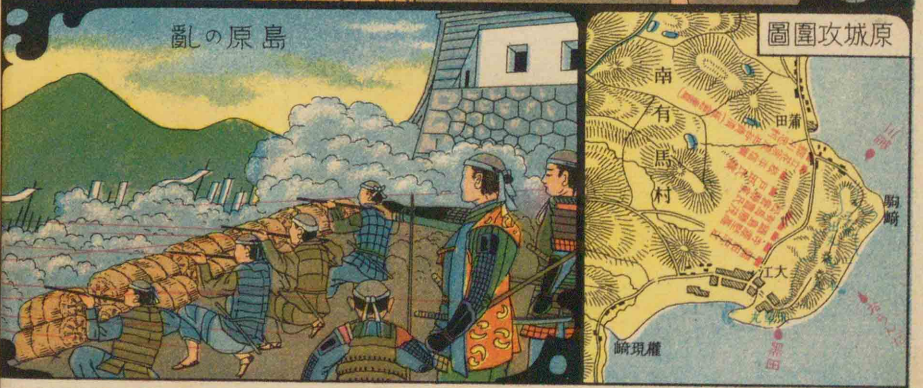
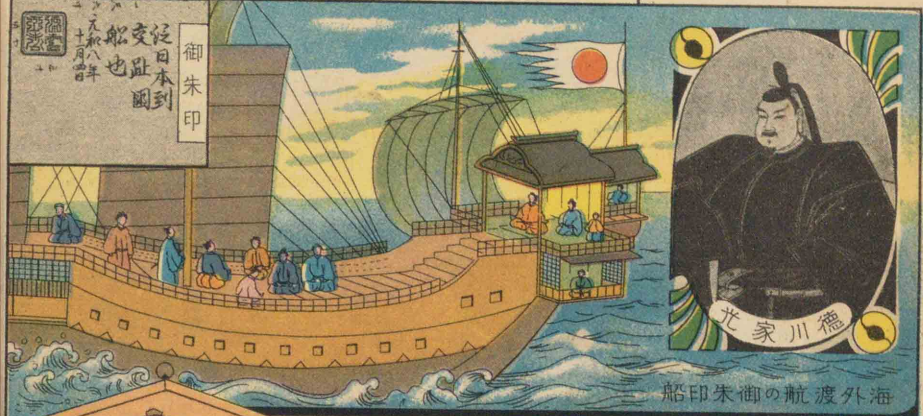
**後水尾上皇**  
賢明な御方で常に幕府の専横を憤り給うた。將軍家光が御意に逆ひ奉つた時「あし原や」の和歌をよんで俄に位を譲り給うた。

**後光明天皇**  
御年十一で御位に即き給うた。且深質英明で嚴格且深く學問を勵み常に幕府の専横を抑へて皇威を張らうと志し給うた。併し御在位僅か十二年間で崩御天下深く惜み奉つた。

**天皇と雷鳴**  
本圖は天皇が雷鳴の日に宮殿の椽に端坐して御性癖を矯め給ふ所である。

**所司代の恐縮**  
本圖は京都所司代板倉重宗が後光明帝に擊劔の修練をお止めになるやう御勧めした時天皇が言下にしりぞけ給ふ所である。

光家川徳 八十三第



**徳川家光**  
徳川第三代の將軍である。賢明で且勇氣に富んだお方であつた。徳川幕府は家光に至つて權威益々あがり制度も亦よく整うたのであつた。

**御朱印船**  
徳川幕府の初頃特に幕府の許可を得て海外の諸國と貿易せし船をいふ。

**踏繪を行ふ**  
徳川家光基督教を嚴禁しようが爲木版又は銅版に耶穌の像をほり之を踏ませて信者であるか否やを檢し踏まない者は斬に處したのである。

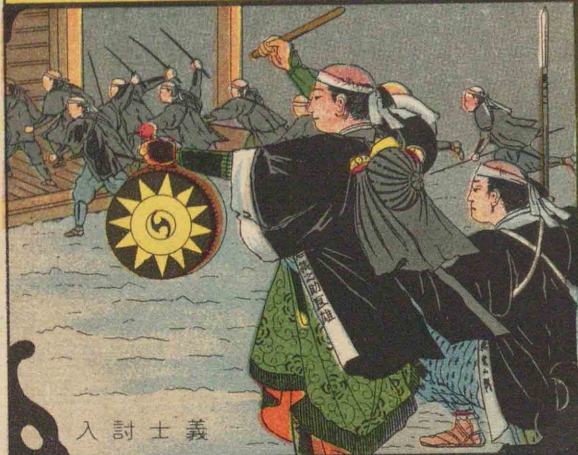
**島原の亂**  
圖中に見ゆる城は島原城で今叛徒が板倉重昌等の軍に對し頑固に抵抗し居る所である。

雄良石大 一十四第



雄良石大

俗風の代時祿元



入討士義



長矩義央を  
城中に傷く



吉良義央を見出す



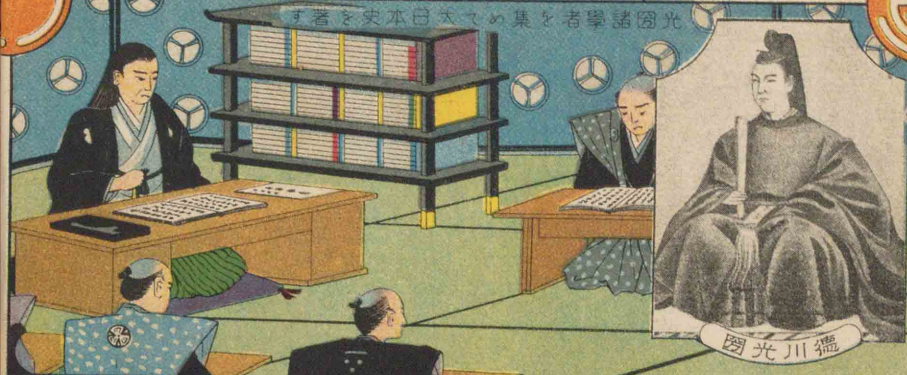
義士の奮闘

**元祿時代の風俗**  
元祿時代に於ては士民共に奢侈遊惰に流れ武士は町人風を學びまた男子にして白粉を粧ひ眉を細くして婦女の態をまねるなど妖艶に墮落したのである。本圖はその一般を描いたのである。

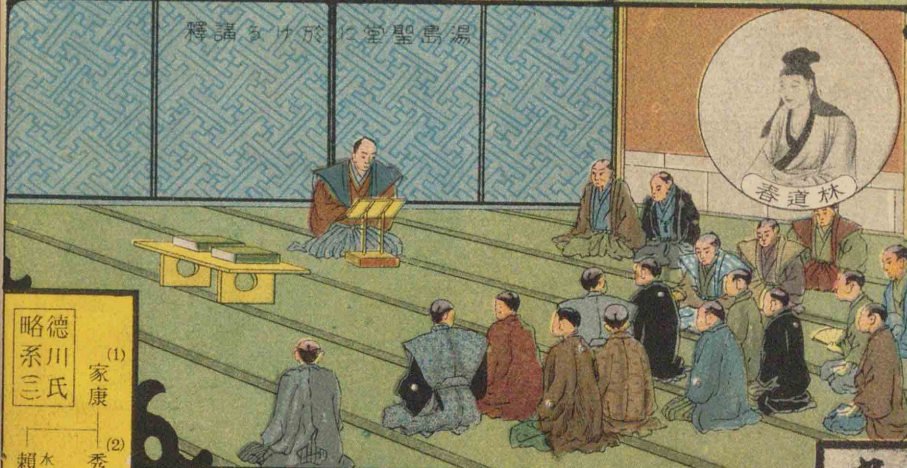
**長矩義央を傷く**  
本圖は淺野長矩が吉良義央の仕業に深く憤激し殿中で一刀を抜いて傷つけた所である。長矩を抱いて居るのは梶川與三兵衛である。

**義士の復讐**  
元祿十五年の冬義士大石良雄は同志四十六人と共に吉良の邸内を襲ひその首を切つて立派の主君の無念を晴した。本圖は其の一端を示したのである。

徳川光圀 十四第



徳川光圀



林道春



徳川光圀

- 徳川氏系略
- (1) 家康
  - (2) 秀忠
  - (3) 家光
  - (4) 家綱
  - (5) 綱重
  - (6) 家宣
  - (7) 家継
- 水戸家 頼房 光圀 綱吉

**大日本史を著す**  
徳川光圀は尊王心の深いお方であつた。當時我が國によい歴史の本が少なくて國民の多くが國體の大義を辨へない所から天下の學者を集めて大日本史を著して大義名分を正し國體を明かにされた。

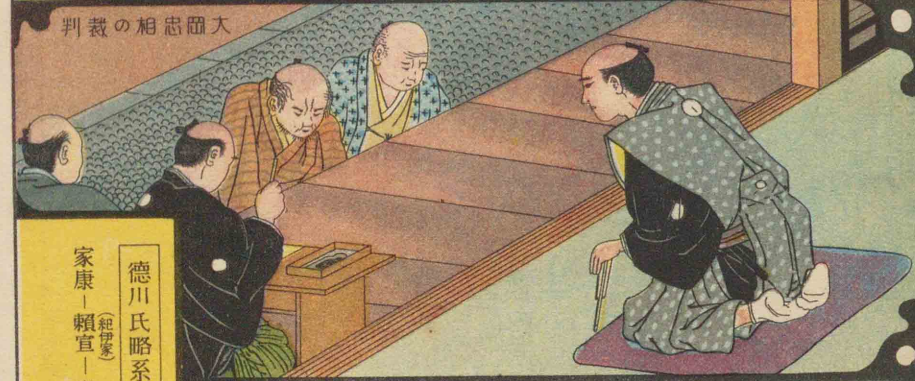
**聖堂の講釋**  
元祿三年に綱吉將軍が元の弘文館を湯島に移し新に聖廟(大成殿)や校舍を建て之を聖堂と稱した。毎年春秋の釋奠には將軍自ら臨んで嚴肅な儀式をあげ又幕臣の爲に經書の講釋をなされた。本圖は今幕臣に講義して居る所である。

**儉約を教ふ**  
本圖は徳川光圀が儉約の必要を知らしめる爲に女中に紙漉場を見させて居る所である。



るは給を箱鐔りよ父宗吉

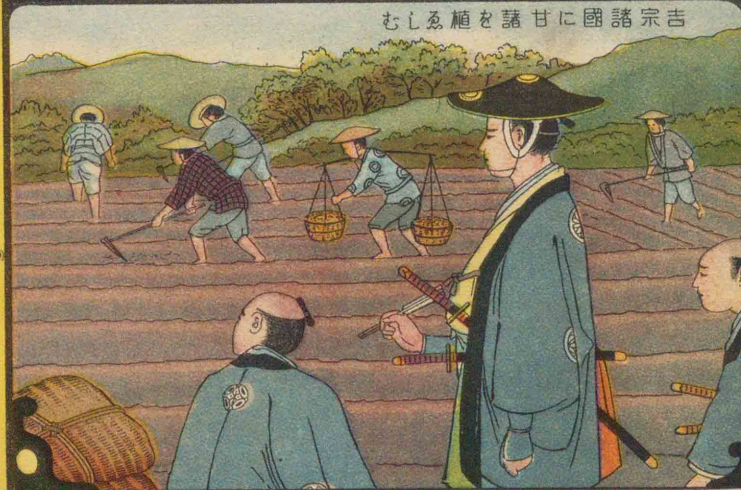
宗吉川徳



判裁の相忠岡大

徳川氏略系(三)  
家康—頼宣—光貞

綱教  
綱職  
綱重  
宗武  
宗尹  
吉宗  
家治  
重好  
定信  
治濟  
家齊



むしる穂を諸甘に國諸宗吉

**鐔箱を給ふ**  
徳川吉宗は幼時から賢明な人であつた。曾て父が鐔箱を集めて刀の鐔箱を示し其の内の一つを望みにまかせて與へたに吉宗は自分のお附の者に分ち與へる考で残りの全部を望んだのである。本圖はその場面である。

**大岡忠相の裁判**  
大岡忠相は天下の名奉行であつた。本圖は伊勢の農民と紀伊の農民とが田地を争つたに、忠相は公平に裁判して山田の農民の勝とする所である。

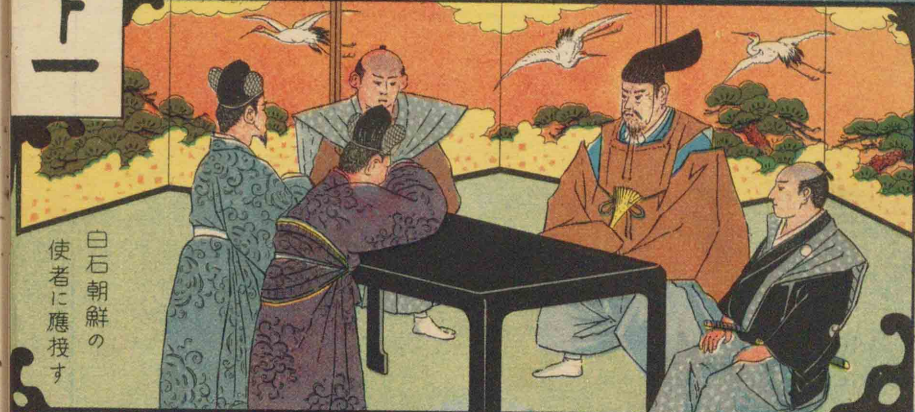
**甘藷を植ふる**  
將軍吉宗は深く心を産業に用ひ殊に甘藷の栽培を諸國に勧められた。本圖は吉宗自ら試作されてゐる所である。



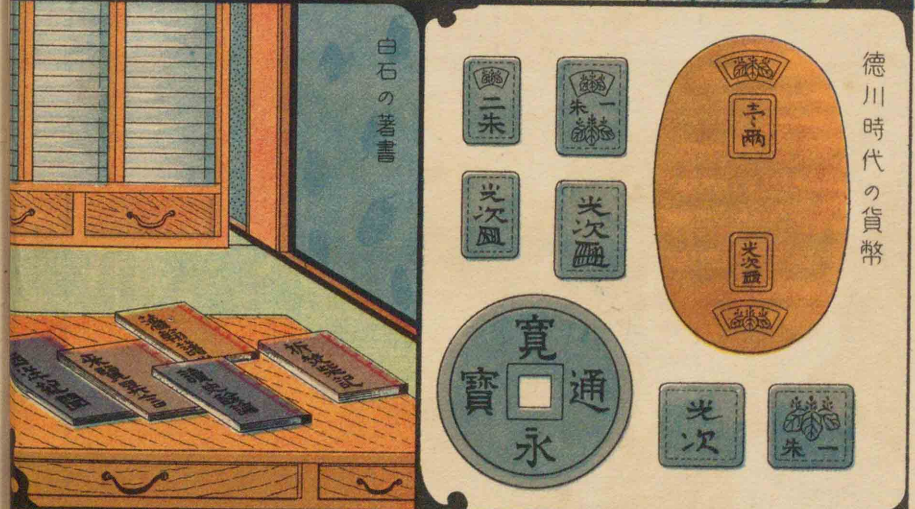
白石幼時の苦學

石白井新

天下一

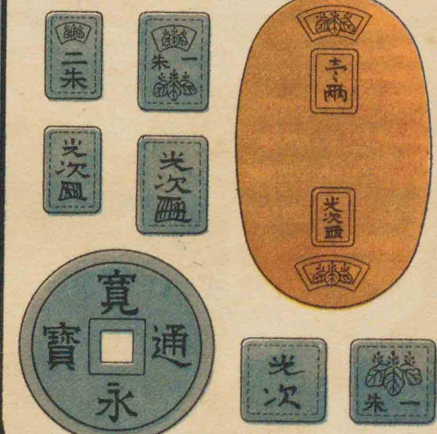


白石朝鮮の使者に應接す



白石の著書

徳川時代の貨幣

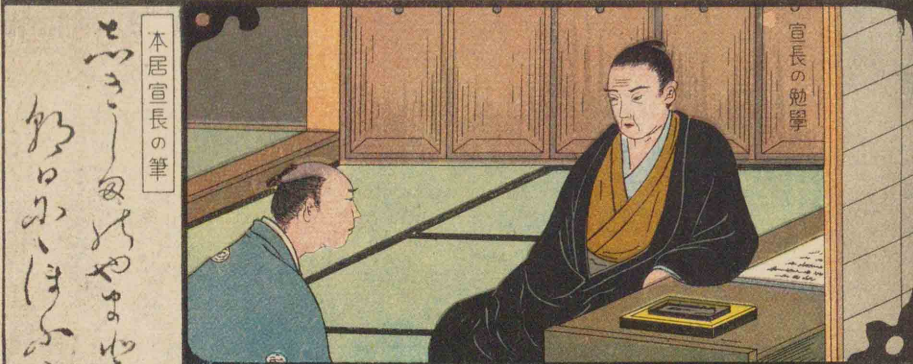


**白石幼時の苦學**  
新井白石は九歳の頃から日課を定めて字を習つた。本圖は睡氣を催す水をかぶつて習ひ続けて居る所を示したのである。

**天下一**  
白石が六歳の頃に「苦もなく詩を誦しまた遊びながら「天下一」の文字を常に書いて居たと云ふ。

**白石と朝鮮の使者**  
これまで朝鮮から使者の來た時には幕府は厚く之を優遇したのがあつたが白石は之は却つて我が國の體面を損するものとし將軍に勸めて其の待遇法を改めた。朝鮮の使者大に不平を抱き抗議したが白石其の至當を論じて従はさせた。

**白石の著書**  
總部數三百餘部。



ときよむれやまの山櫻花  
 ときよむれやまの山櫻花

宣長の著  
 古事記傳

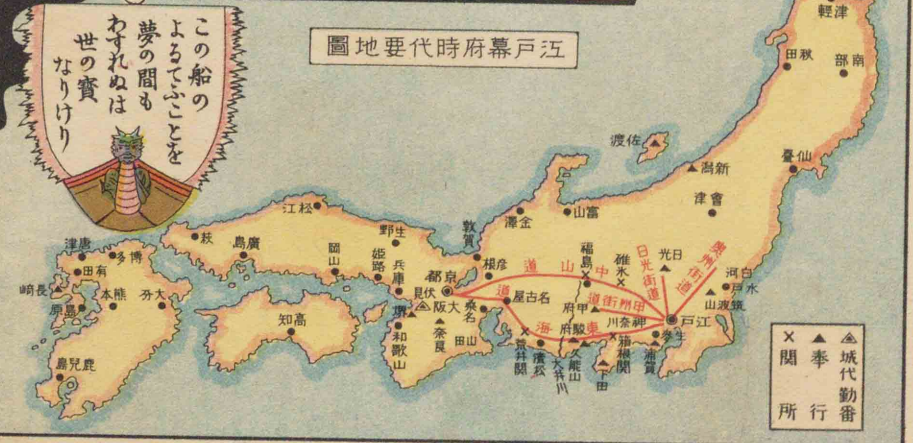
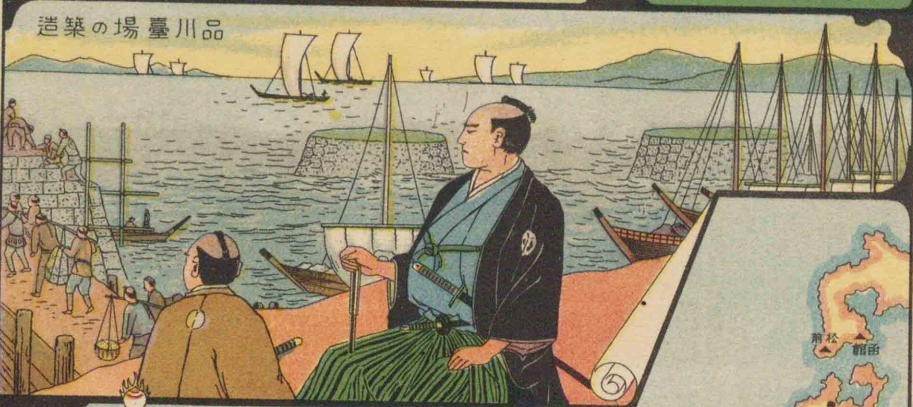
我國の道は一寸ちを置きて  
 あだし小道によらぬ人も



荷田春滿の歌  
 ふみわけよ倭にはあらぬ唐鳥の  
 跡を見るのみ人の道かは  
 加茂真淵の歌  
 もろこしの人に見せばやみよしの  
 吉野のやまの山櫻花

**國學者**  
 僧契仲・荷田春滿・賀茂真淵・本居宣長・平田篤胤はいづれも國學者でこの人々によつて國史・國文が研究され従つて我が國體が明かになり尊王愛國の精神が勃興するに至つたのである。

**宣長の勉學**  
 本居宣長は伊勢の國松坂の人。幼時から學問を好み古史・古文を研究して、我が國體の本義を明かにし大に敬神尊王の精神を發揮された。著書多き中にも古事記傳は三十五年の間心血をそいで完成した大著述である。實に我が學界の大恩人である。圖は書齋に於て人に道を説いてゐる所である。



**松平定信**  
 徳川吉宗の孫で幼い時から賢い人であつた。白河藩主となつてよく領内を治めた。幕府に入るや勤儉を勧め文武の道を奨励しまた皇居の御造營につとめるなど名臣の間に高き人であつた。

**天明の大飢饉**  
 天明年間には諸國一般に大風雨・大洪水・大地震・大早魃等天災しきりに起り従つて飢饉また相つぎ人民が饑渴に泣き暴動起りあつた。圖は其の一部を現はしたのである。

**臺場の築造**  
 松平定信は意を大に海防に用ひられ不完全ながら各地の沿岸に臺場を築かれた。圖は今品川沖にそれを築いて居る所である。

高彦山九郎と蒲生主君 第六十四第



竹内式部尊王の大義をととなふ

高彦山九郎

高彦山九郎に居室に参す

彦九郎の歌  
われをわまとおほしめすかや  
すべらきの玉の御殿のかさうれしさ



君平の歌

比叡の山見おろすかたへそあはれなる  
けふ九重の敷とあらわれけ

蒲生主君の山陵を廢す

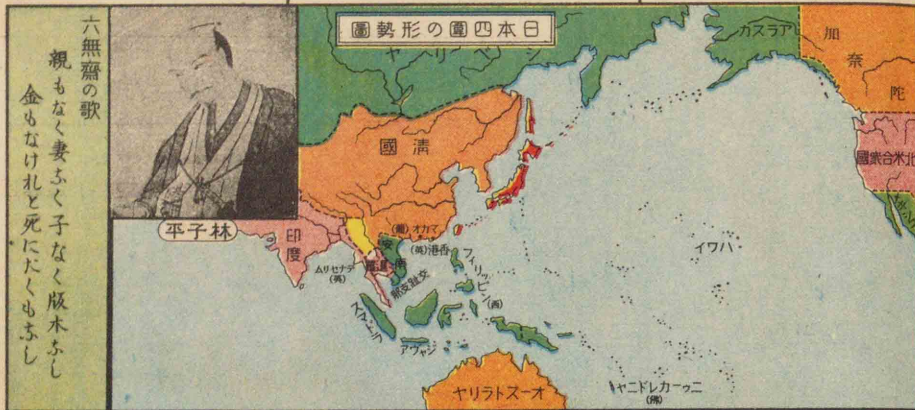
蒲生主君

**大義をととなふ**  
竹内式部は越後國新潟の人で勤王家であつた。圖は公卿に對して大義を説き名分を明かにして居られる所である。後幕府の忌む所となつて遂に八丈島に流され途中で病死した。

**蓬に皇居を拜す**  
高山彦九郎は上野國新田の人で尊王家である。諸國を巡つて尊王の大義を説き京都に上る毎に御所の門前又は三條の橋の上で跪いて皇居を拜して涙を流した。圖は三條橋上に於てのそれである。

**陵の荒廢を慨**  
蒲生君平は下野國宇都宮の人で勤王家である。圖は山陵の荒廢を慨き巡拜して居る所である。

第十四十七と開港 第一



日本四圍の形勢圖

六無齋の歌  
親もなく妻ふく子なく版木ふし  
金もなければと死にたくもふし



子平海國兵談を繕はす

日本北邊の地圖



徳川昭齊

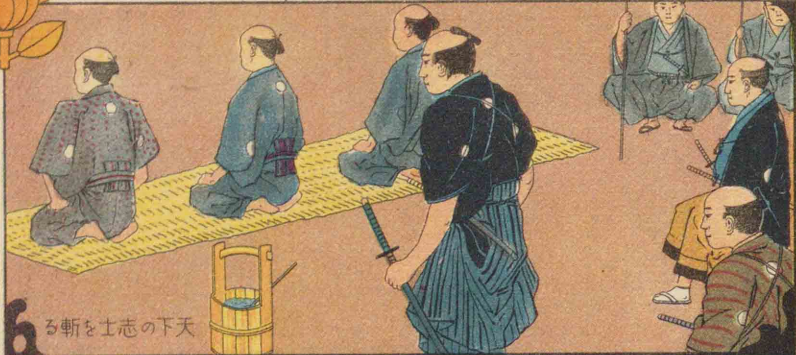
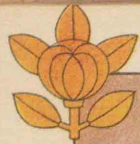
弘道館

**子平と海國兵談**  
寛政の三奇人の一人である。本圖は今子平が海國兵談を著はして居る所である。海國兵談は世界の大事に應じて我が國の海防を嚴重にすべき所以を論じた書物である。

**大砲を鑄る**  
徳川昭齊は水戸藩主で當時攘夷論者の親玉であつた。本圖は齊昭が海防に備へようが爲に盛に大砲を造つてゐる所である。其の後大砲七十四門を造つて幕府に獻じ世人の耳目を驚かした。

**弘道館**  
水戸市にある。天保九年藩主齊昭が建てられた學校である。天下の士四方から集り盛に文武の道を講じた。



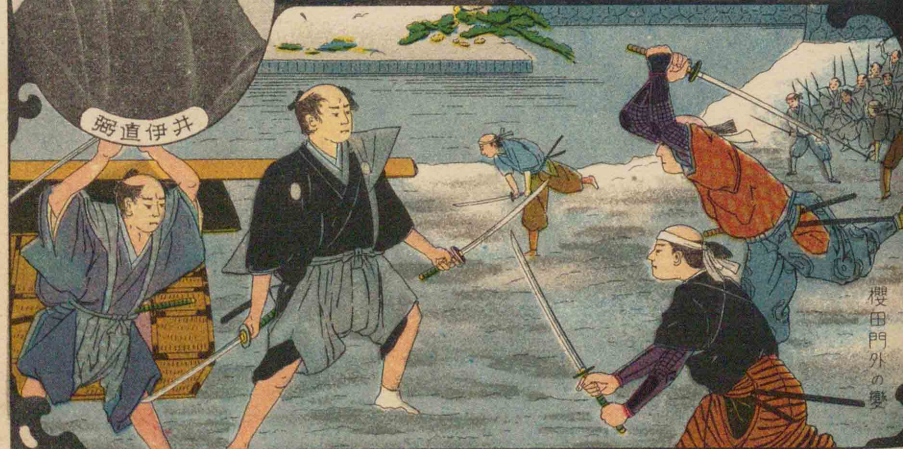


る斬を士志の天下

徳川氏略系(四)  
 家康 頼宣 頼房 光圀  
 (11) 家齊  
 (12) 家慶  
 (13) 家順  
 (14) 家茂  
 (15) 慶喜



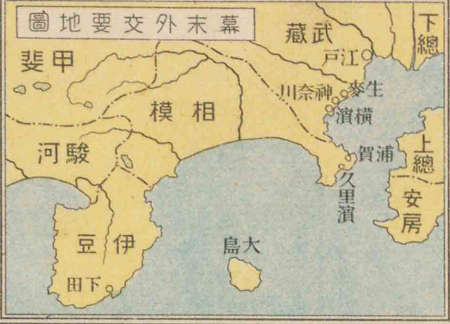
吉田松陰を犯すに赴く



伊井直躬

櫻田門外の變

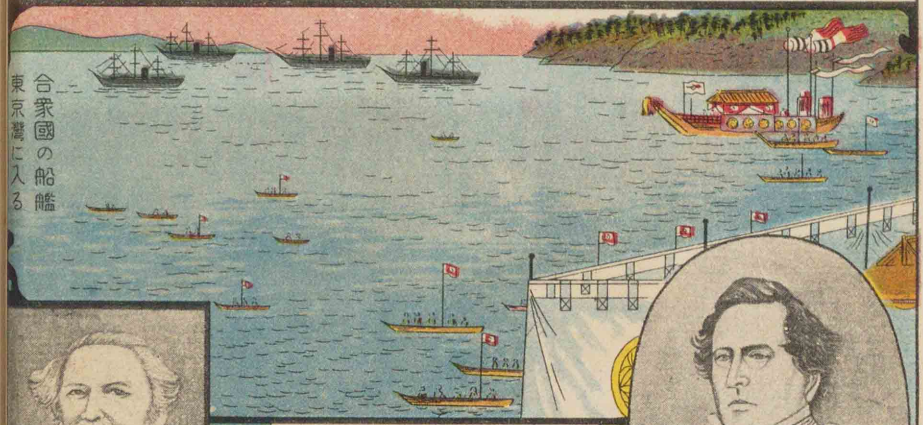
**志士を斬る**  
 安政年間、井伊直弼天下の志士數十人を捕へて或は流し或は斬つた。世之を安政の大獄といつた。圖は今志士を斬る所である。  
**松陰米艦に赴く**  
 吉田松陰は長藩士で志士の一人である。松下村塾を開いて天下の英才を養成した。常に國事を憂へ外國の事情を探らうと志して居たが、たまたま米艦の來たのを幸として彼の國に渡航しようとしたが禁を破りし故を以て罰せられた。圖は今禁を犯して米艦に赴かうとする所である。  
**櫻田門外の變**  
 本圖は萬延元年三月三日井伊直弼が櫻田門外で水戸の浪士に襲はれて殺される所である。



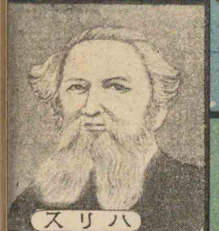
英長野高



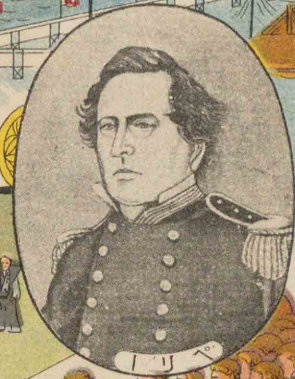
山崋邊渡



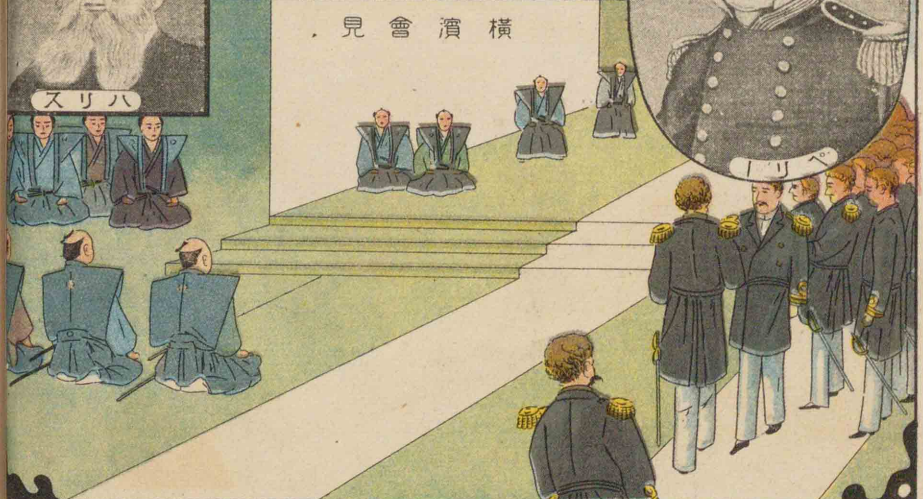
合衆國の船艦 東京灣に入る



スリハ



高野長英



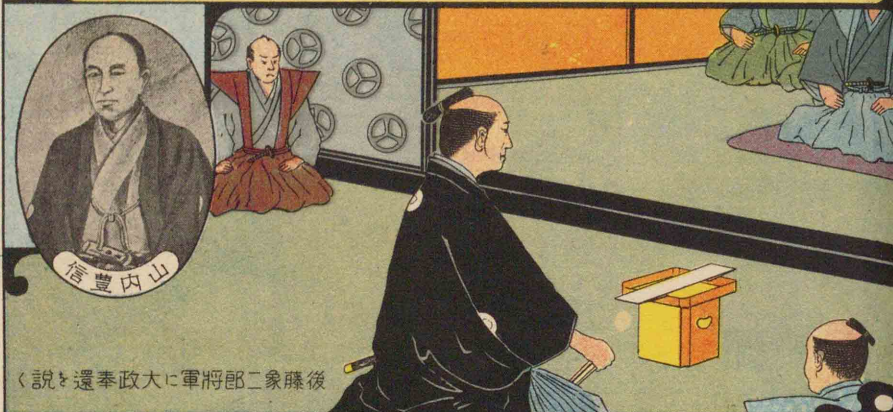
見會濱横

**渡邊崋山**  
 三河の藩士で當時に於ける開港論者の一人であつた。  
**高野長英**  
 陸中水澤の入で崋山と同じく開港論者の一人であつた。  
**米艦再び来る**  
 安政元年正月ペリイは軍艦七隻を率ゐて再び來て江戸灣に入つた。本圖は其の光景である。  
**横濱會見**  
 安政元年二月十日横濱に於て使節ペリイと談判を開始した。日本側の委員は林大學頭・町奉行井戸覺弘等であつた。彼等の使節互に譲合つて三月三日に愈々和親條約が結ばれた。本圖は其の光景である。  
**ハリス來る**  
 安政元年米國總領事として來たのである。

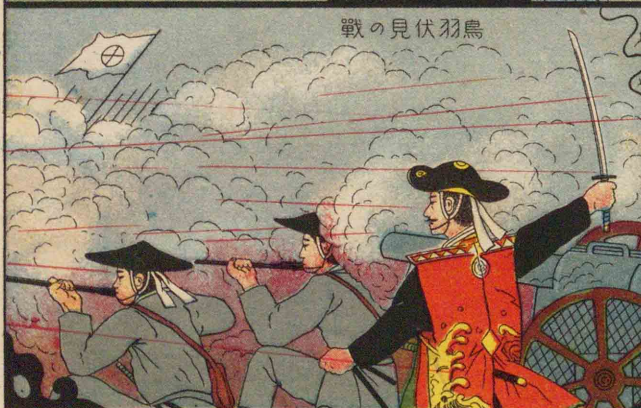
(一) 終の治政家武九十四第



臣功の後前新維



く説き還奉政大に軍將郎二象藤後



戦の見伏羽鳥

圖地戦見伏羽鳥

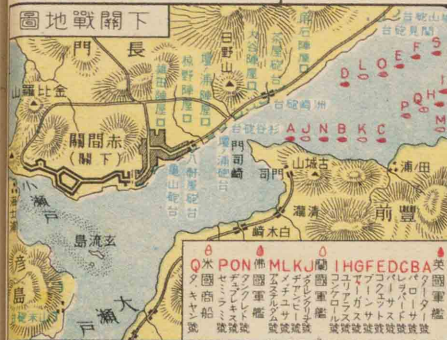


**山内豊信**  
土佐の藩主である常に皇室の衰微を憂へ屢々幕府に建議した。慶應三年十月信書を將軍慶喜に送り政權の返上を勧め慶喜遂に其の言に従うた。明治維新の大業に對し盡す所甚大であつた。

**大政奉還を説く**  
本圖は後藤象二郎が藩主山内豊信の命を奉じ建白書を將軍慶喜に奉つて大政奉還を勧め居る所である。

**鳥羽伏見の戦**  
徳川慶喜大政を奉還するや會津・桑名等の藩士は不平を抱き慶喜をおし立てて京都に入らうとした。小松宮彰仁親王は薩長等の兵と共に之を鳥羽伏見にむかへて撃破つた。

皇天明孝八十四第



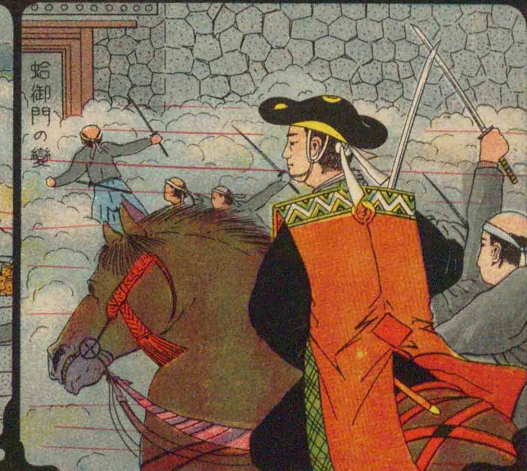
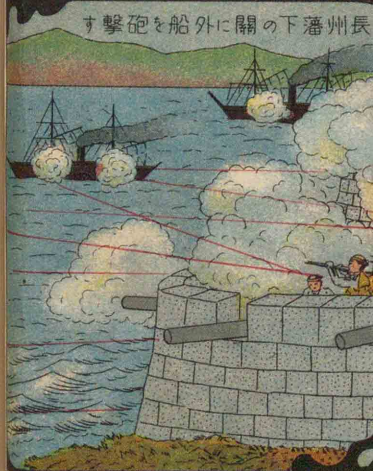
孝明天皇神宮を運拜し給ふ



くぞりふに州長卿七



す撃砲を船外に關の下藩州長



**孝明天皇**  
天皇は常に國家を憂へさせ給ひ、殊に外交の騒がしかつた時などは勅使を伊勢に遣し御親筆の願文を神宮に奉つて國家の無事を祈り給うた。

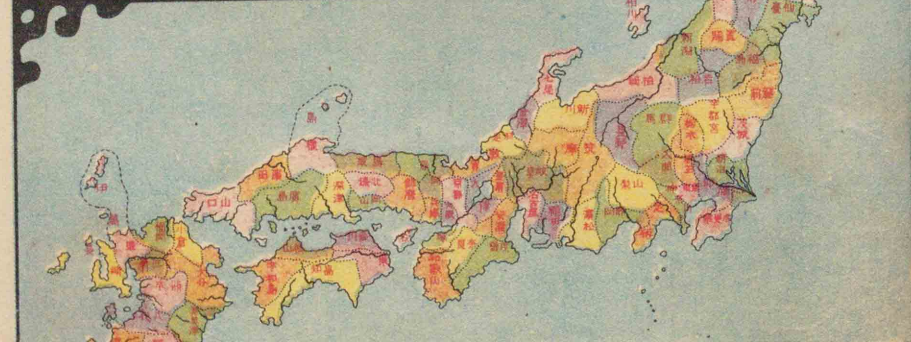
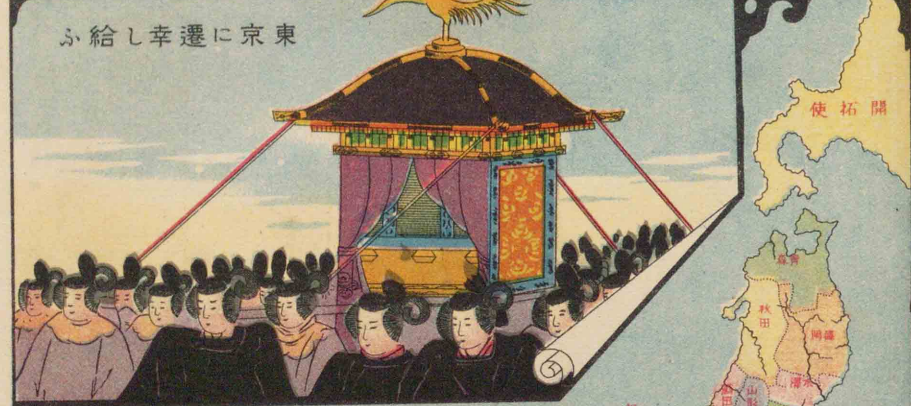
**七卿退く**  
文久三年御所を守つてゐた長藩士等は朝議が一變したのて京都から夜に乘じて退いた。此の時七卿も退いた。

**蛤御門の變**  
長州藩の一隊が蛤御門を犯して居る所である。一隊の指揮者は來島又兵衛である。

**外船を砲撃す**  
本圖は文久三年五月十日長藩が攘夷實行の率先者として下關を通過する米國の商船を砲撃してゐるところである。

治

皇天治明 十五第  
新維治明 一

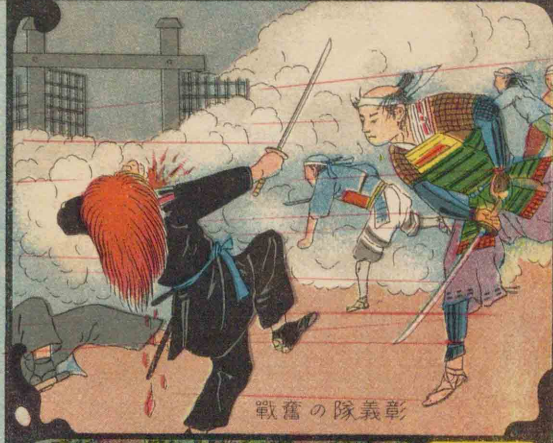
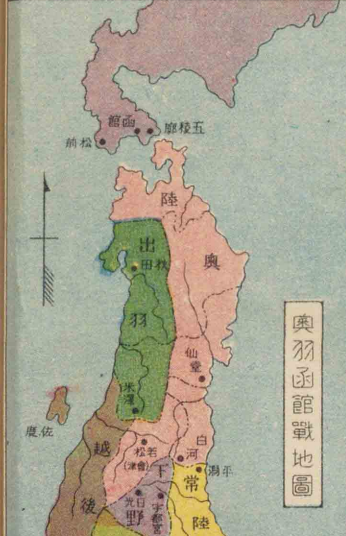
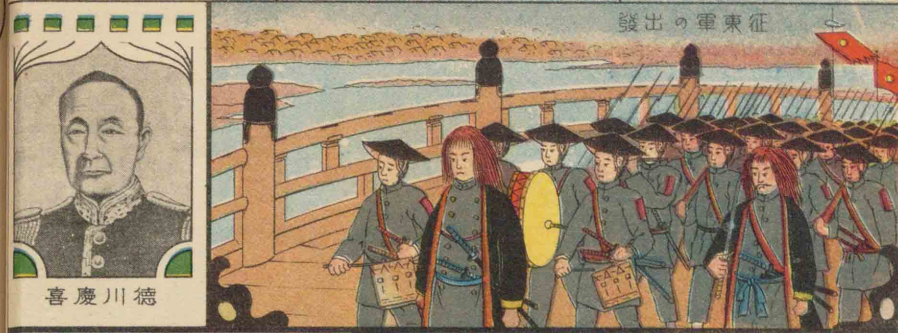


縣置藩廢 圖之縣二十七府三使一

**御誓文を賜ふ**  
明治天皇は實に不世出の明帝でおはしました。明治元年三月紫宸殿に出でまして文武の諸臣を率ゐて御みづから新政の大方針五事を天地の神々に誓ひ又之を國民に示し給うた。世之を五箇條の御誓文と稱し申た。明治大政の基がここに於て定つたのである。

**東京に御遷幸**  
明治元年九月二十日鳳輦ゆるやかに京都御所を出でまし途中遙に伊勢の神宮を拜して東海道を下りたまひ十月十三日東京に御着宮城に入らせ給うた。沿道の民これを拜しいづれも感涙を流して喜び奉つた。

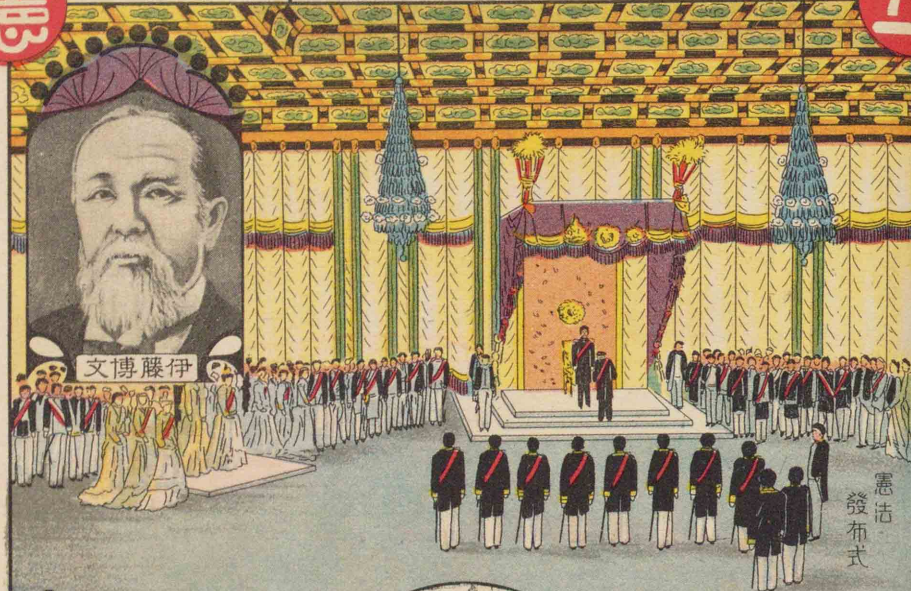
(二)終の治政家武九十四第



**征東軍の出發**  
鳥羽伏見の戦に敗れた慶喜は大阪から海路江戸に逃げ歸つた。朝廷は有栖川宮熾仁親王を東征大總督とし大軍を率ゐて江戸に向はさせ給うた。本圖は其の時の光景である。

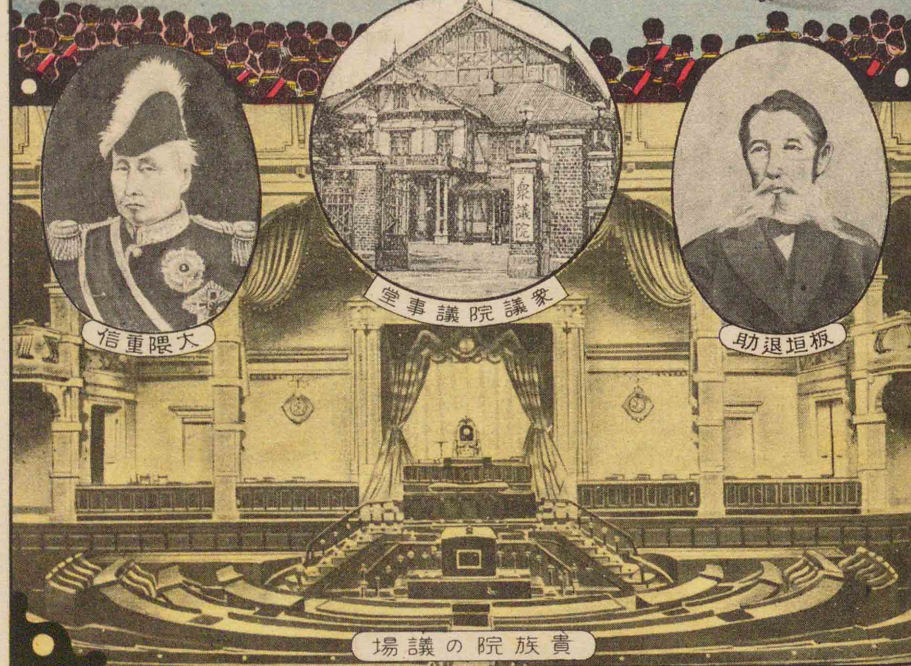
**彰義隊の奮戦**  
將軍慶喜が江戸城を官軍に渡すや幕府の舊臣は彰義隊を組んで上野に立籠つて反した。圖は今官軍と奮戦して居る所である。

**白虎隊と若松城**  
會津藩主松平容保は若松城に據つて反した。官軍は諸道から進んで之を攻めた。時に少年白虎隊は花々しく戦つたが遂に力盡き生残つた十六人は飯盛山に上つて悉く自及した。



伊藤博文

憲法發布式



大隈重信

家議院議事堂

板垣退助

貴族院議場

**憲法發布式**  
 本圖は明治二十二年二月十一日明治天皇は正殿に出て厳かに憲法發布式を行はせ給ふ所である。正面天皇の御前で憲法をお受けしてゐるのは總理大臣黒田清隆である。

**伊藤博文**  
 山口縣の人で憲法の制定を初め國家の政治に參與し明治天皇を輔佐して大功ありし偉人である。明治四十二年兇漢の爲に斃れた。享年六十九。

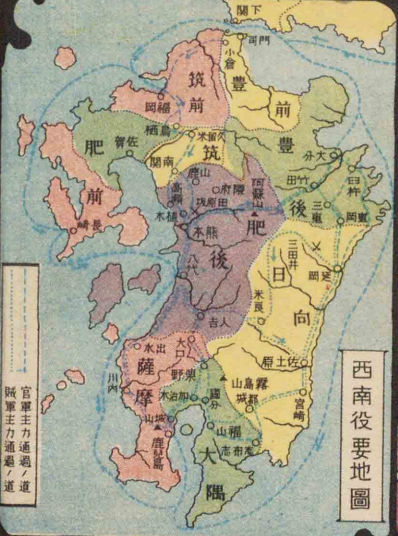
**板垣退助**  
 土佐藩士で自由黨を組織し國民に政治思想を鼓吹した功臣である。

**大隈重信**  
 佐賀藩士で政事家として學者として我が國の文化に貢獻した人。大正十一年一月逝く。享年八十五。



征韓論

西郷隆盛の銅像



西南役要地圖



田原坂の戦



西郷隆盛終焉之地



田原坂附近の戦地圖

**征韓論**  
 明治維新の大業成るや朝廷は使を朝鮮に遣はして好を修めようとしたが國王は我が國書を輕視し且屢々禮を失つたから茲に征韓論が起り西郷隆盛等は其の親玉であつた。併し歐米から歸つた岩倉具視等是不賛成であつた。圖は今御前に於て兩黨が激論をして居る所である。

**隆盛の銅像**  
 東京の上野公園にある。

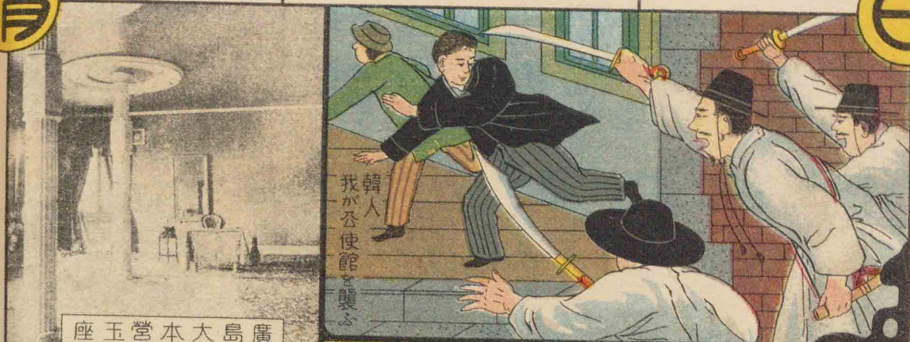
**田原坂の戦**  
 明治十年の西南役に賊軍は田原坂の要害によつて官軍を防いだ。官軍は抜刀隊を組んで突貫し遂に奪ひ取つた。圖は其の光景である。

**終焉之地**  
 隆盛の終焉の地は鹿兒島市にある。

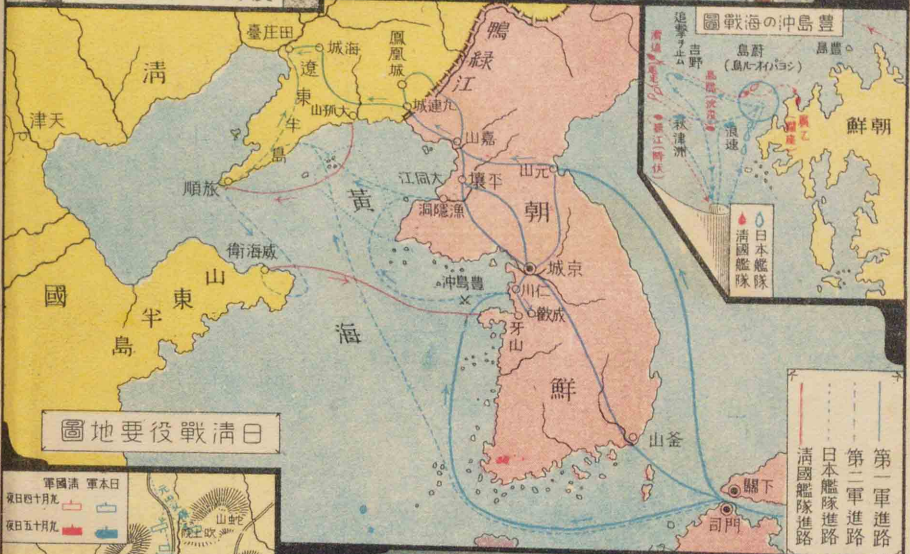
(一) 役戦年八七十二治明 四

青

一



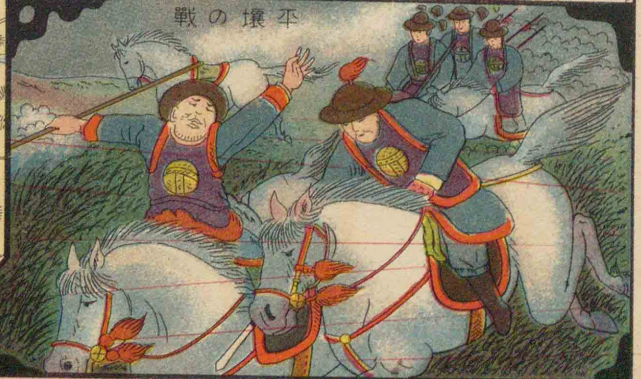
座玉營本大島廣



圖地要役戰清日



圖戰の壤平



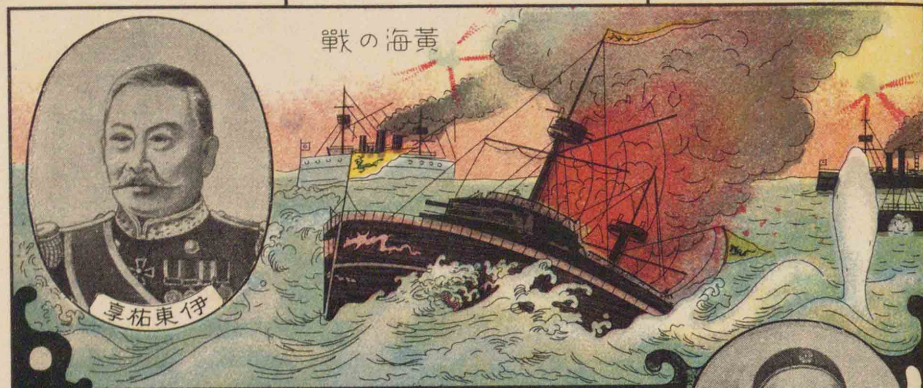
戦の壤平

**公使館を襲ふ**  
本圖は明治十七年朝鮮の事大黨が我が公使館を襲ふ所である。此の時の公使は竹添進一郎であつた。

**廣島大本營趾**  
明治二十七八年戦役の時明治天皇は大本營を廣島に進め第五師團司令部を以てそれに充て給ひ日々軍務を執らせ給うた。今は尊い記念として大切に保存してある

**平壤の戦**  
清兵は平壤を固めて我が軍の北進を食ひ止めようとした。明治二十七年九月十五日、我が軍は四方から之を包圍攻撃し翌十六日に完全に占領した。圖は今清兵が大敗して逃げ去る所である。

(二) 役戦年八七十二治明 四



戦の海黃

東祐東伊



判談和講關下



章鴻李



伐征灣臺



王親久能



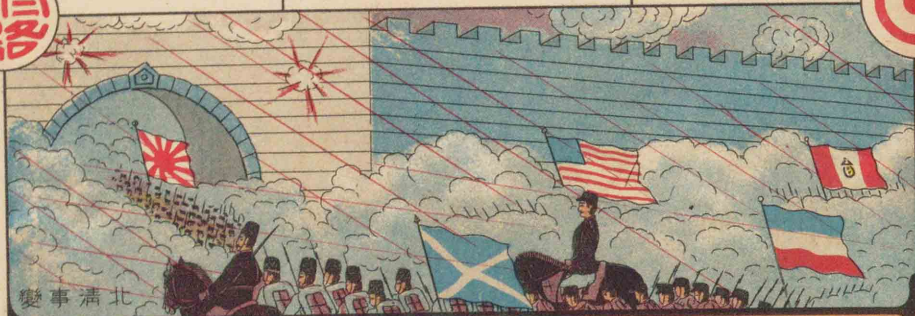
圖地戰伐征灣臺

**黃海の戦**  
明治二十七年九月十七日我が海軍は敵艦隊と黃海の沖に戦つた。我が艦は十一隻で敵艦は十二隻であつた。激戦の結果敵艦五隻を撃沈し三隻を焼いた。我が艦は全部無事であつた

**講和談判**  
本圖は下關に於て講和談判を開いてゐる所である。日本側では伊藤博文陸奥宗光等で清國側では李鴻章李經芳等であつた。

**臺灣征伐**  
下關條約の結果臺灣は我が領地となつたが劉永福等兵を募て抵抗した。北白川宮能久親王は親ら御征討遊され二十八年十月全島を平定した。圖に於て先に立ち給ふは親王である。

六 明治三十三年七八年戦役 (一)



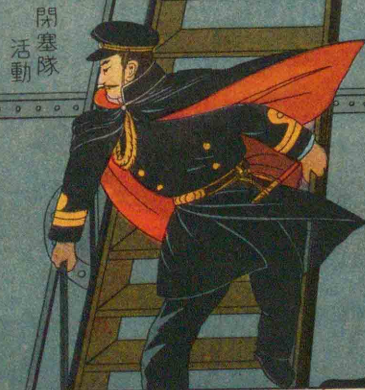
北清事變



明治三十三年七八年戦役要地



日英同盟



開塞隊活動



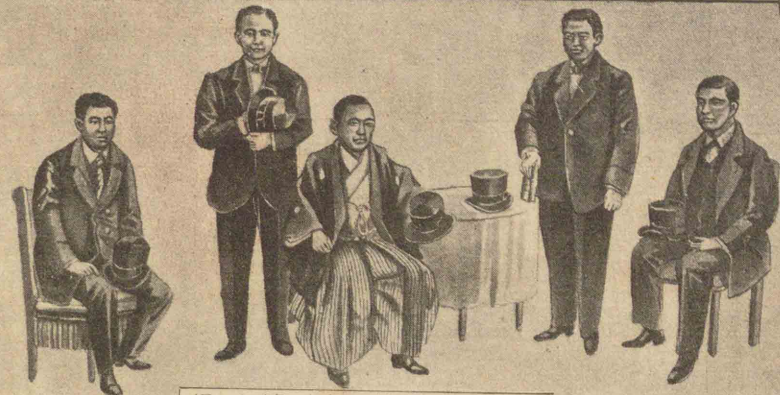
旅順港口の閉塞船

**北清事變**  
 明治三十三年清國に義和團といふ暴徒起つて北京の各國公使館を圍んだ。よつて我が國を初め英米露佛獨等の聯合軍は北京に攻入つて之を救うた。清國は罪を謝し和を結んだ。圖は今聯合軍が北京に攻入る所である。

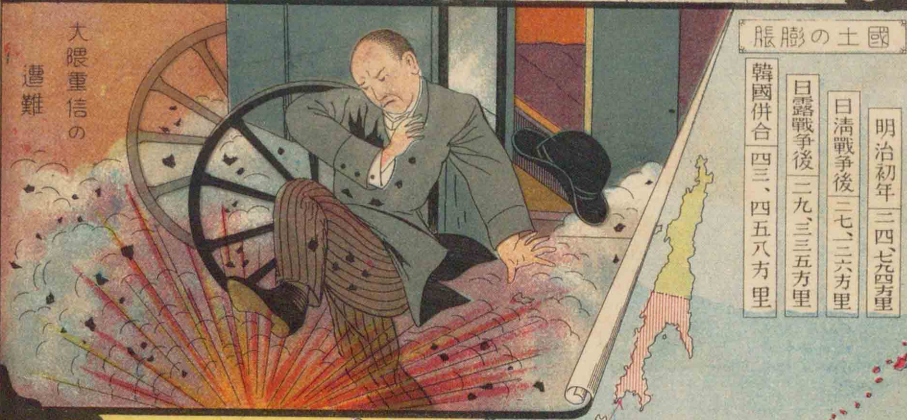
**日英同盟**  
 我が國は東洋平和と清國の領土保全とについて英國と意見を同うした。三十五年一月同盟を締結した。本圖は當時の締結の儀式である。

**開塞隊活動**  
 日露戦役の時我が海軍は決死隊を募つて三度旅順港口を閉塞した。圖は第二回に於ける廣瀬中佐の勇しい活動ぶりを描いたのである。

五 條約改正

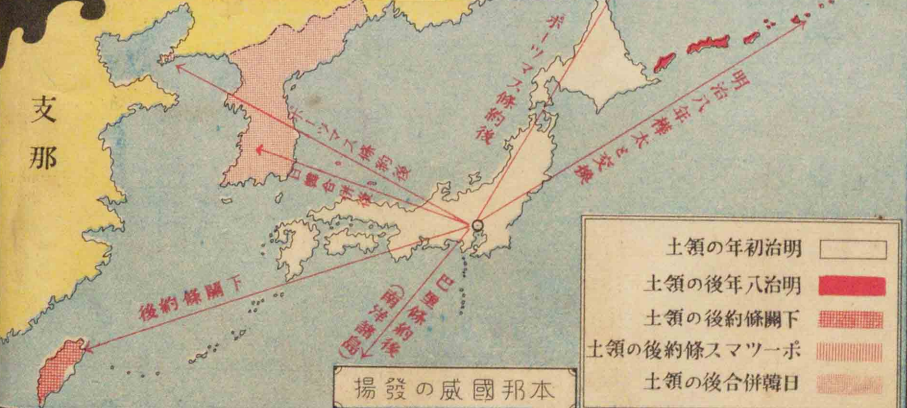


岩倉具視の大使一行



大隈重信の遭難

明治初年 三四七五里  
 日清戦争後 二九三三五方里  
 日露戦争後 四三、四五八方里  
 韓國併合 四三、四五八方里



土領の年初明治  
 土領の後年八明治  
 土領の後約條關下  
 土領の後約條スマツ一ホ  
 土領の後合併韓日

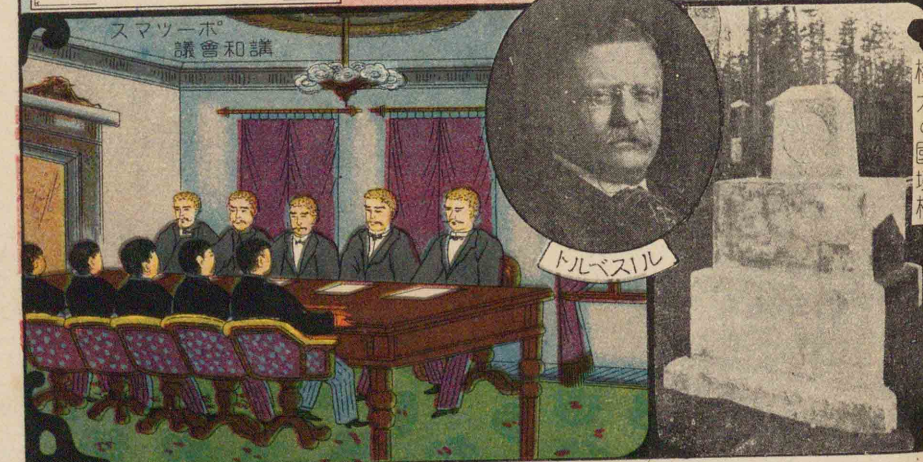
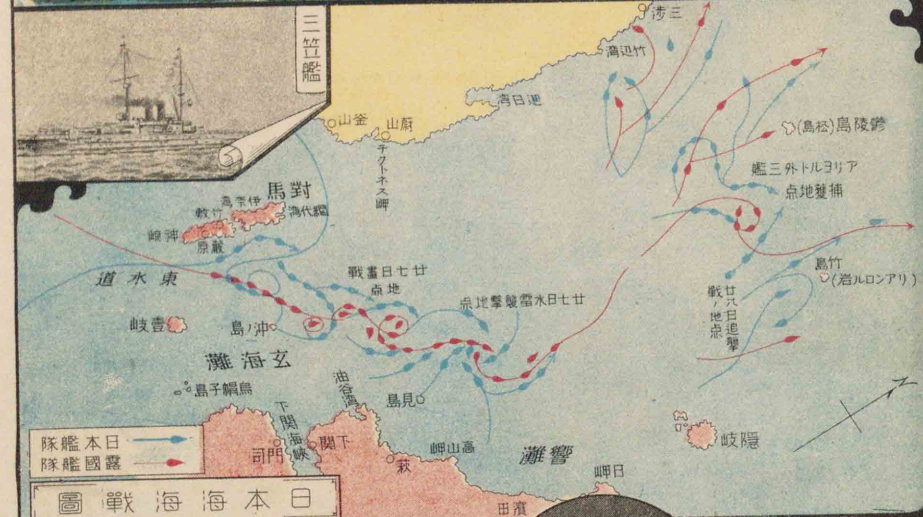
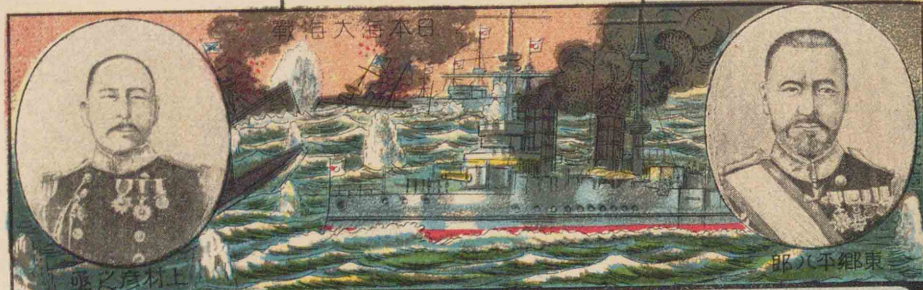
本邦國威の發揚場

**大使の一行**  
 明治四年岩倉具視を特命全權大使とし木戸孝允・大久保利通・伊藤博文等を副使として歐米諸國に派遣し國交を修めると共に彼の國の文物制度を視察させた。圖はそれである。

**大隈重信の遭難**  
 明治二十二年十月外務大臣大隈重信は閣議を終へ馬車で外務省の正門に入らうとした時一兇徒が重信に向つて爆裂彈を投じた。彈丸は幸に命中しなかつたが彈片のために負傷し右足を失ふた。圖は其の場面である。

**國威を發揚**  
 圖は明治初年から今日に至る帝國々威の發展を示したのである。

(三) 役戦年八七十三治明 六



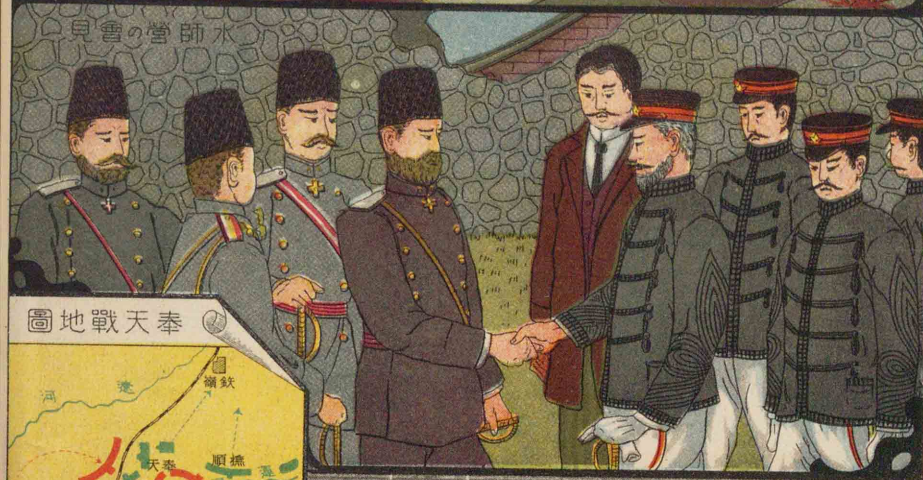
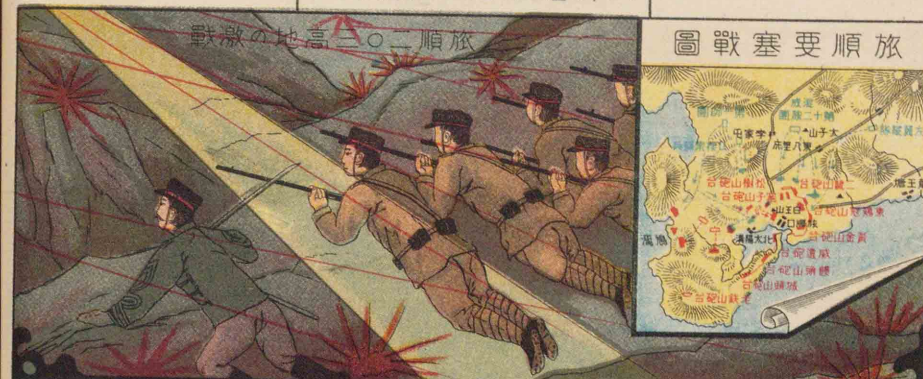
**日本海大海戦**  
 本國は明治三十八年五月二十七日に於ける日本海大海戦の光景である。此の戦に於て敵艦の撃沈されたものは十九隻捕獲されたものは五隻捕虜者は司令長官ロジエストウエンスキエを始め無慮六千餘人であつた。

**三笠艦**  
 日本海大海戦の時に東郷司令長官の坐乗せし旗艦である。

**ルーズベルト**  
 日露戦役當時に於ける米國の大統領で世界平和の爲に盡力した大偉人であつた。

**講和會議**  
 明治三十八年八月米國のポーツマスに於て彼我の全權委員が會合し九月に平和條約が成つた。本圖は其の會見の光景である。

(二) 役戦年八七十三治明 六

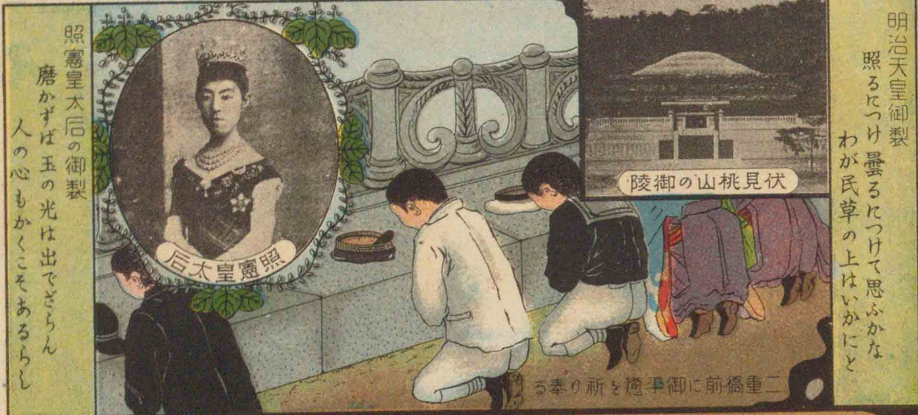


**二〇三高地**  
 露國のバルチック艦隊が應援のため東洋に向つて来たにつれては二〇三高地を占領するこゝが最も大切なことであつた。で卅七年十一月二十七日から犠牲にづくに犠牲を以てし苦戦悪闘の結果十二月五日に遂に之を占領した。

**水師營の會見**  
 三十八年一月旅順開城の約が成立つて兩國の將軍が今水師營で會見して居る所である。握手してゐる右方は乃木大將左方はステッセル將軍である。

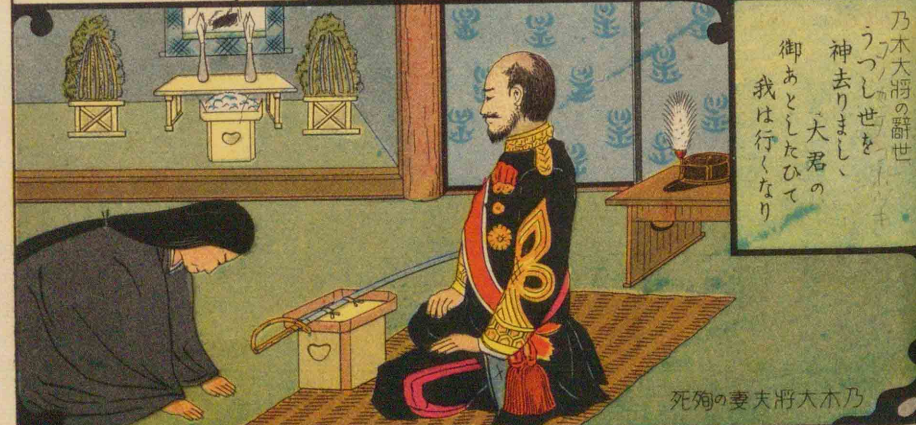
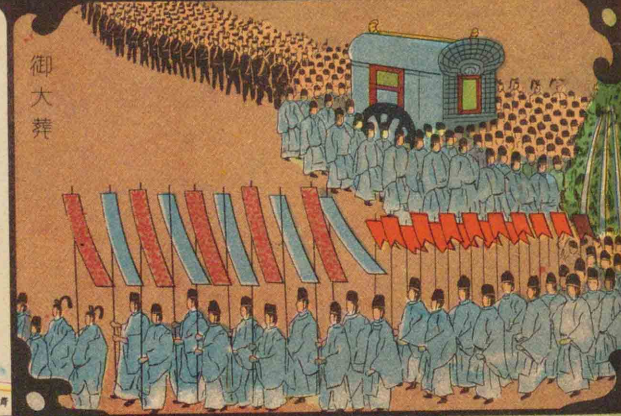
**陸軍司令部**  
 明治三十八年七月奉天府に於て撮影したもので、右より川村・兒玉・乃木大將・大山・山縣兩元帥・野津・黒木大將。

八 明治天皇の崩御



照憲皇太后の御製  
 磨かざれば玉の光は出でざらん  
 人の心もかくこそあるらし

明治天皇御製  
 照るにつけ曇るにつけて思ふかな  
 わが民草の上はいかにと



乃木大将の辭世  
 うつし世を  
 神去りまし、  
 大君の  
 御あとしたひて  
 我は行くなり

乃木大将の死

**御大葬**  
 明治大帝は國民の熱誠な御祈りも其の効なく遂に三十日に崩れさせ給うた。國民の悲痛はたさへんに物なく世界列國も亦大に惜み奉つた。圖は其の御大葬の有様である。

**乃木大将の殉死**  
 本圖は彼の誠忠無類の乃木大将が夫人と共に殉死される所である。

**御平癒を祈る**  
 明治四十五年七月明治天皇は御病にかり給うた。御病狀の發表せらるるや國民の心配一方ならず上下ござつて眞心をこめてひたすら御平癒を祈り奉つた。本圖は二重橋の前で小學兒童が眞心をこめて御平癒を祈り奉つてゐる所である。

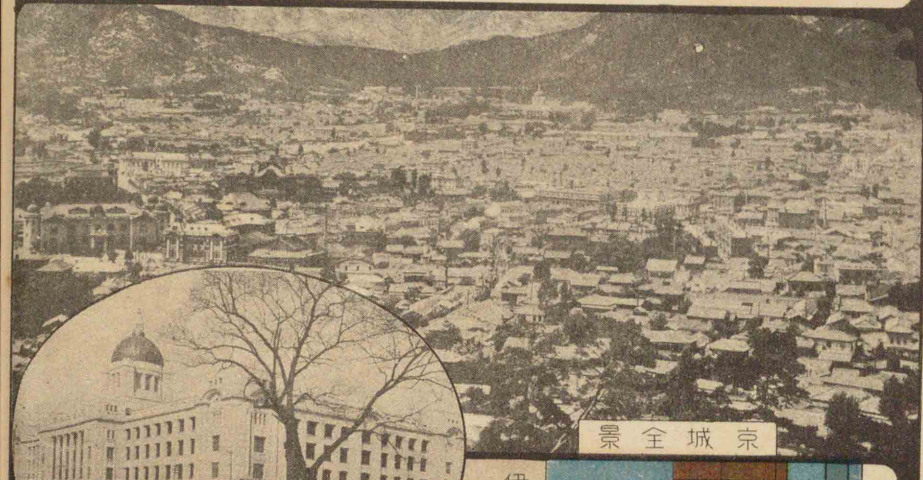
七 韓國併合

合

併



下殿王李宮德昌



京城全景



伊藤博文の遭難

朝鮮總督府

**京城の市街**  
 京城は李朝五百年間の王都で今は我が總督府の所在地である。本圖は總督府附近の臺地から北面して瞰下したものである。交通よく開け商業盛大で、百貨が輻輳して居る。

**伊藤公の遭難**  
 明治四十二年十月伊藤博文が統監をやめて滿洲視察の途につき旅順の古戰場を視遼陽・奉天を経て長春に赴き更に露國大藏大臣コラゾウに會見する爲哈爾濱に至つた時韓人安重根の爲に狙撃され遂に其の場で斃れた。本圖は其の場面を描いたのである。博文は山口縣萩の人で明治天皇をたすけて國家に大功勞のある偉人であつた。

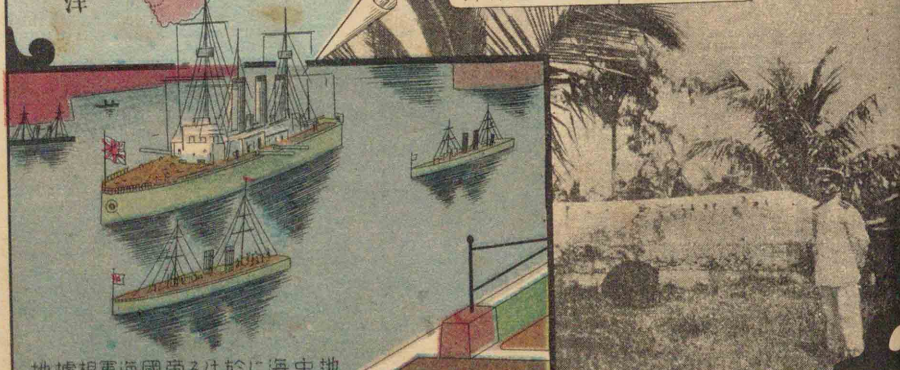


(一) 國が我と戦大の洲歐二



圖地係關戰大洲歐

洋南るたし領占の軍が我



地據根軍海國帯るけに海中地

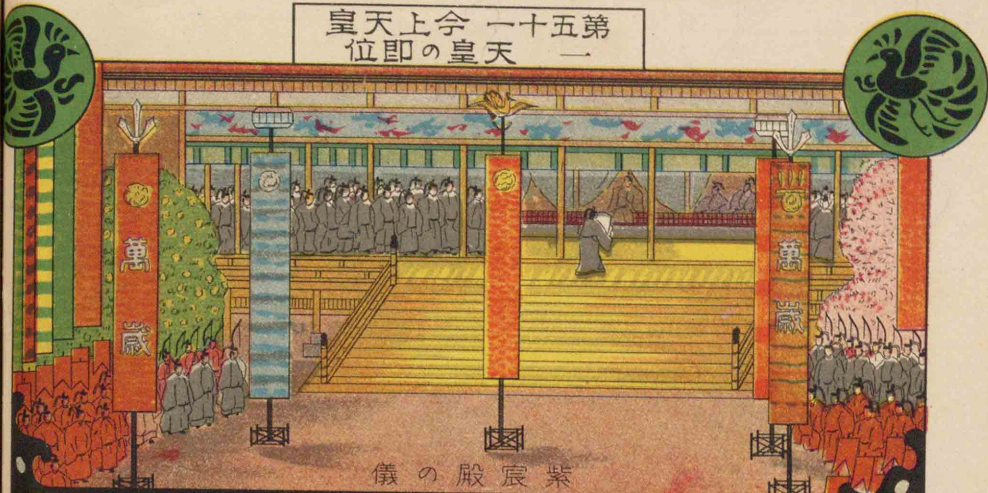
**青島の攻圍**  
大正三年十月三十日天長節祝日を以て我が陸海軍は共同して青島を攻撃し、堅固を以てはこつた要塞も十一月に遂に陥落した。圖はその總攻撃の光景である。

**カイゼル**  
歐洲大戰亂を起せし親玉ともいはれた獨逸の皇帝である。

**占領した南洋**  
我が艦隊が占領した群島の風景である。その主なるものはマニヤル・マリヤナ・カロリンの諸島である。

**海軍根據地**  
我が地中海派遣艦隊は英領マルタ島を根據地として警戒護衛に當り、敵の暴行をおさへて聯合國の作戦に盡した圖はマルタ軍港内の帝國軍艦である。

皇天上今一十五第  
位即の皇天

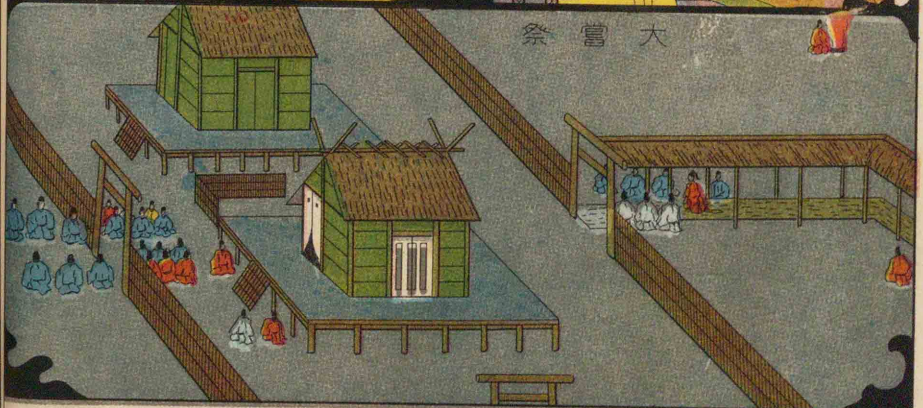


儀の殿宸紫



座御高

禮子太立



祭嘗大

**紫宸殿の儀**  
今上天皇陛下は大正四年十一月十日紫宸殿に於て即位の禮を行はせ普く之を臣民に宣し給うた。圖は大隈總理大臣が臣民を代表して壽詞を申上て居る所である。

**高御座**  
即位の禮を行はせ給ふ時の天皇の御座で紫宸殿の中央に飾られる。

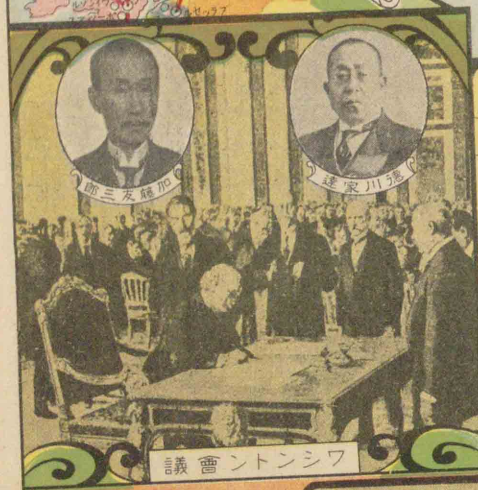
**大嘗祭**  
天皇が御即位の後始めて行はせられる新嘗祭の事である。今上天皇陛下は大正四年十一月十四日の夜に行はせ給ひ露しげき一夜を皇祖皇宗に仕へさせ給うた。

**立太子禮**  
本圖は裕仁親王殿下が皇太子に立たせ今壹切の劔を親ら受けさせ給ふ所である。

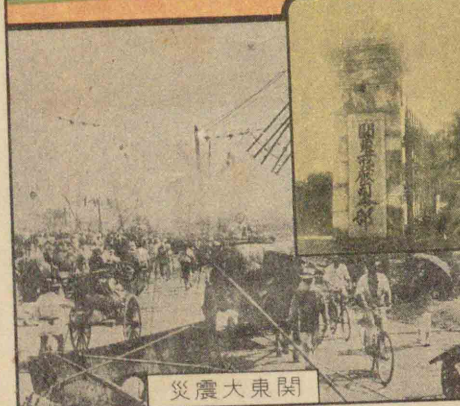
(一) 事後重要な出来事



皇太子殿下御外遊地圖



ワシントン會議



關東大震災



ニコライアス近地地圖



尼港事件

**東宮殿下御外遊**  
大正十年三月三日、軍艦香取に召して英、佛、白、伊に遊ばれ、歐洲大戰の跡を見學せられ、同年九月三日歸朝せられた。

**尼港事件**  
ロシアのニコライエフスキで過激派バルチザンの爲に邦人二百五十餘名が殺された。時に大正九年五月廿四日。

**ワシントン會議**  
米國の首府ワシントンで日、英、米、伊、佛の諸國が代表者を遣はして軍備縮少の會議を開いた。日本代表は徳川家達、加藤友三郎等であつた。

**關東大震災**  
大正十二年九月一日正午、東京横濱を中心として、大地震が起り、死者十餘萬、負傷者數十萬に及んだ。圖は其の一部を示したもの。

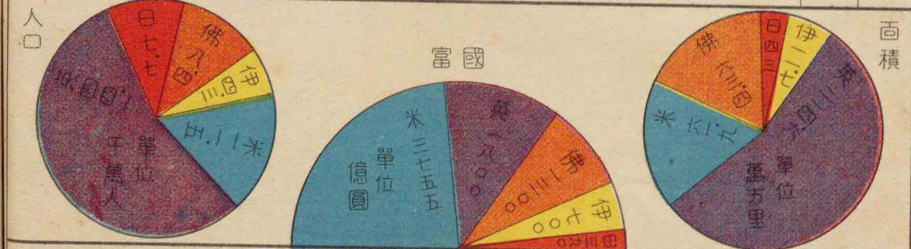
(二) 二歐大戦と我が國



パリ平和會議

世界五大強國

| ヤリタイ       | スラフ        | 國家合カリメア    | スリギイ      | 本日        | 國旗       |
|------------|------------|------------|-----------|-----------|----------|
|            |            |            |           |           |          |
|            |            |            |           |           | 主力艦 (率比) |
| 17.5       | 17.5       | 52.5       | 52.5      | 31.5      | 万噸       |
|            |            |            |           |           | 汽船       |
| 211.8      | 296.3      | 1457.4     | 2014.3    | 299.5     | 万噸       |
|            |            |            |           |           | 鐵道       |
| 11.722     | 25.62      | 253.62     | 23.7      | 0.8       | 万哩       |
| 25,331,031 | 22,757,914 | 15,031,759 | 8,476,334 | 4,254,569 | 千圓       |
|            |            |            |           |           | 貿易       |
|            |            |            |           |           | 日英米佛伊    |



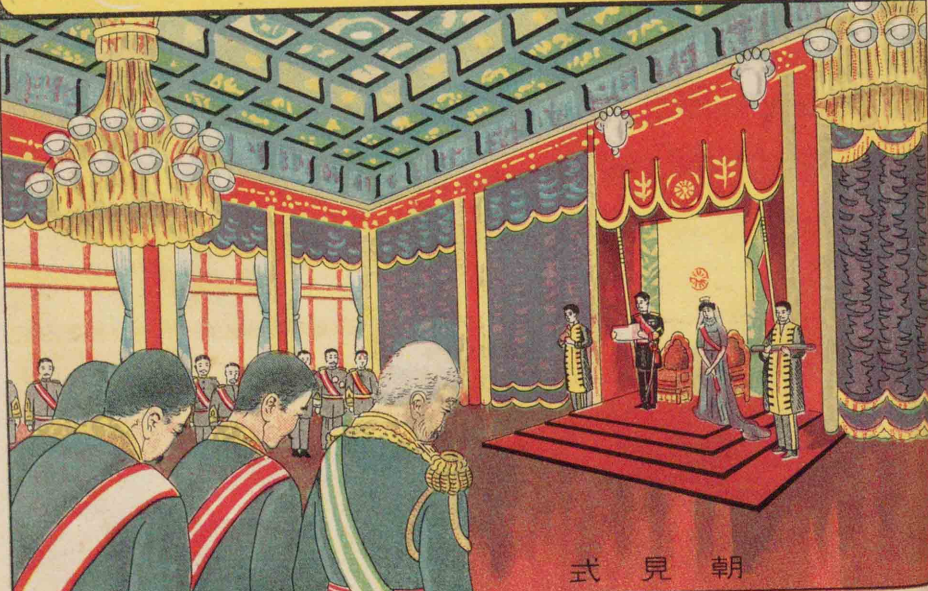
**我が國勢**  
我が國は世界無比の國體を有し、國民の多數は忠勇な大和民族より成り、教育は普及して文明の實をあげ、立憲の制をとり國勢大に充實するに至つた。されど上圖が示す様に面積・人口・富力・兵力・貿易等多くは五大強國の末位にあるではないか。文明も同様である。

**國民の覺悟**  
今や我國は五大國の重要な地位を占めて居る故に吾等國民はよく國運發展の由來を詳かにし、おのおの其の業を勵み、一致共富強をはかり、進んで世界平和の爲に力を盡し、以て我が國史に一層の光輝を加へねばならぬ。



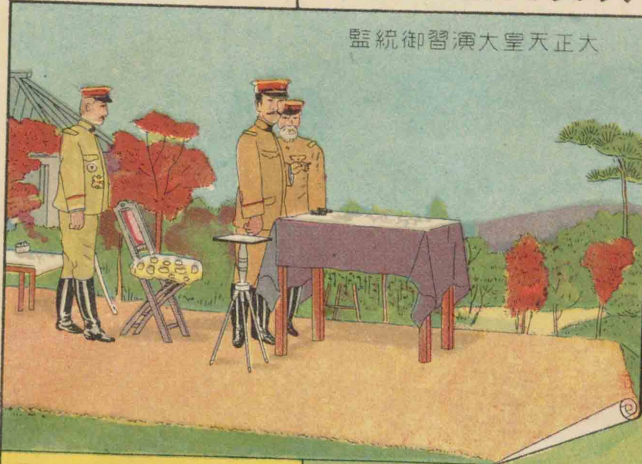
勅語
朕は皇祖神代より皇位に在りて、先づ國體を尊ぶ。...

昭和元年二月二十八日朝見式勅語



朝見式

今上陛下
今日陛下が御臨幸に際して、御座の所に御座りて、...



大正天皇御葬儀



大正天皇御葬儀

大正天皇
多摩陵
大正五年拾貳月貳拾五日
午前壹時貳拾五分崩御
昭和貳年貳月八日斂葬

聖上崩御
宣稱後、陛下は御座りて、...



誠至の民國



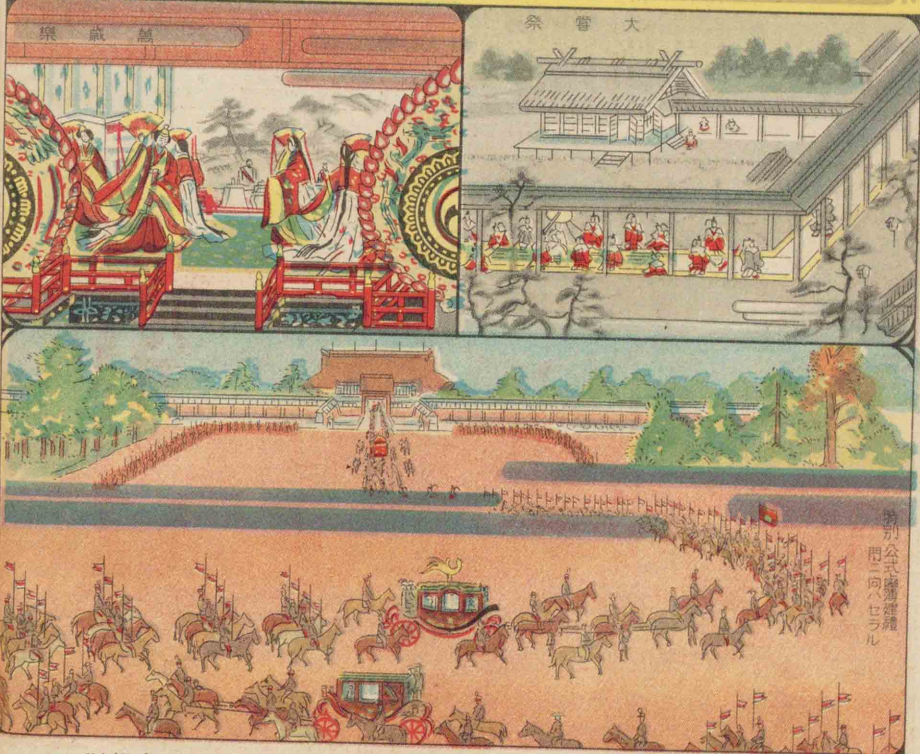
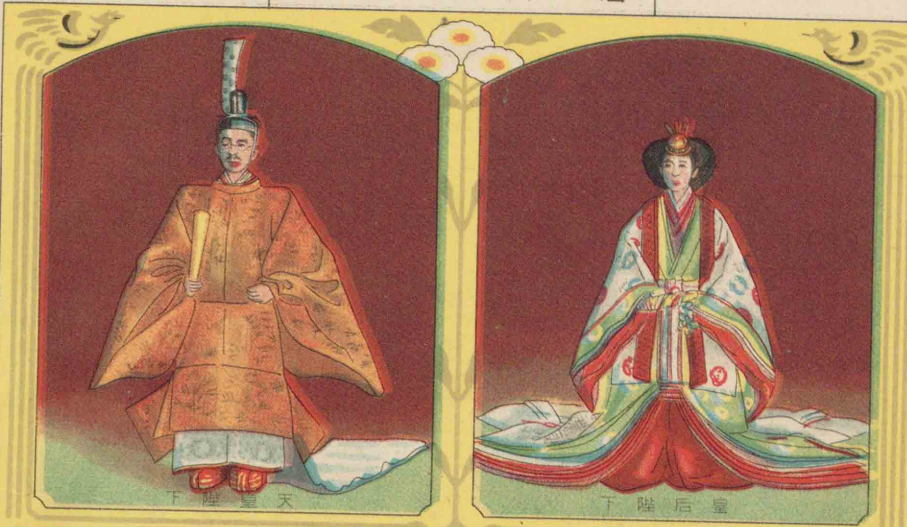
靈輦引送



東山御車

大正天皇崩御
天皇は明治天皇の御孫として、...

昭 和 御 大 禮



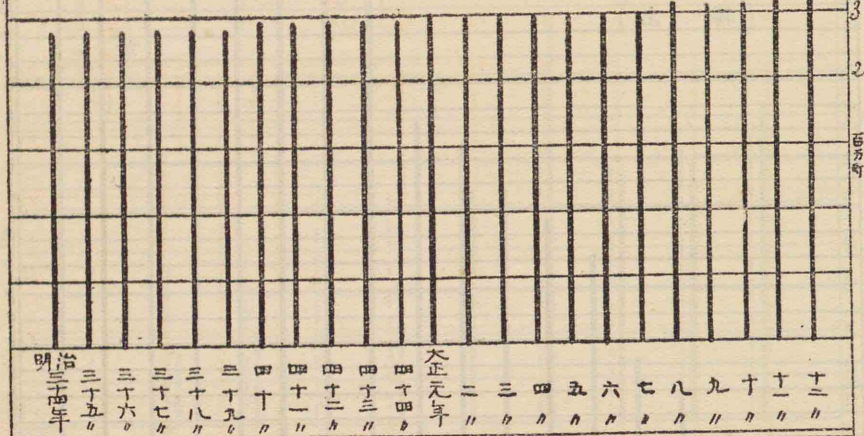
今上天皇御即位  
 昭和三年十一月十日京都皇宮紫宸殿ニ於テ今上天皇御即位ノ大禮ヲ舉ケ給フ。  
 大嘗祭  
 今上天皇陛下ニハ昭和三年十一月十四日大嘗祭ヲ親修シ給フ。  
 萬歳樂  
 天皇陛下御即位後内外臣僚ヲ召シ大饗宴ヲ開カセラレ五節ノ舞、萬歳樂等ヲ舞ハシメ給フ。圖ハ昭和三年十一月十六日今上天皇陛下御即位大饗、萬歳樂ノ有様。  
 天皇皇宮ニ入り給フ  
 昭和三年十一月七日今上天皇、皇后兩陛下ニハ御即位大禮御舉行ノ爲京都市皇宮ニ行幸啓特別公式鹵簿ニテ今ヤ建禮門ヲ入り給フ。

我國の發展より面積より人口

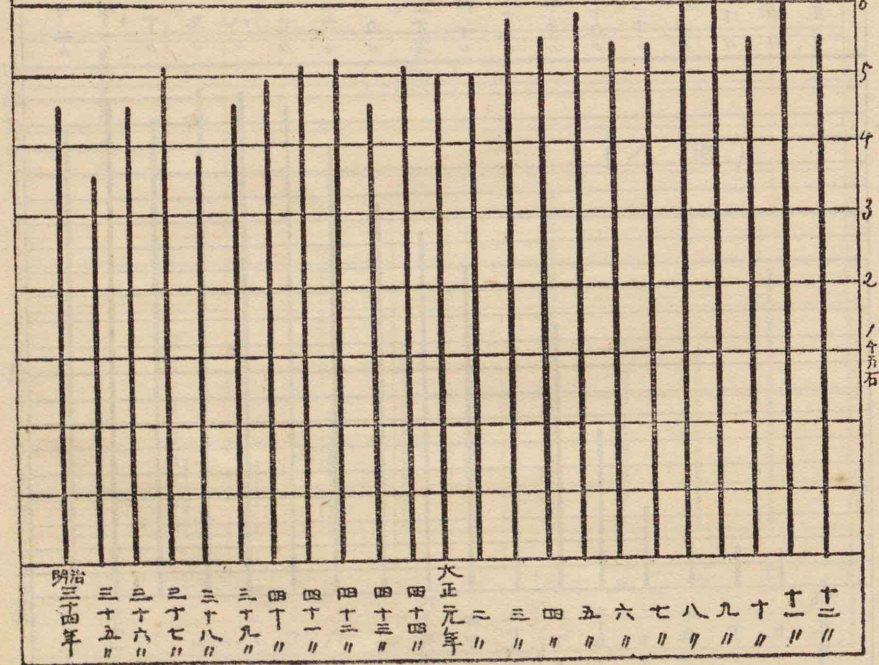
| 明治五年       | 明治十年       | 明治十五年      | 明治二十年      | 明治二十五年     | 明治三十年      | 明治三十五年     | 明治四十一年     | 明治四十二年     | 大正三年       | 大正八年       | 大正十一年      | 大正十二年      |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 11,131,336 | 13,670,000 | 19,100,000 | 24,110,000 | 31,330,000 | 40,400,000 | 48,820,000 | 67,030,000 | 73,070,000 | 77,430,000 | 79,310,000 | 80,700,000 | 84,700,000 |
| 100,000    | 1,000      | 10,000     | 100,000    | 1,000      | 10,000     | 100,000    | 1,000      | 10,000     | 100,000    | 1,000      | 10,000     | 100,000    |

米産額の作付般別より見たる我國の發展

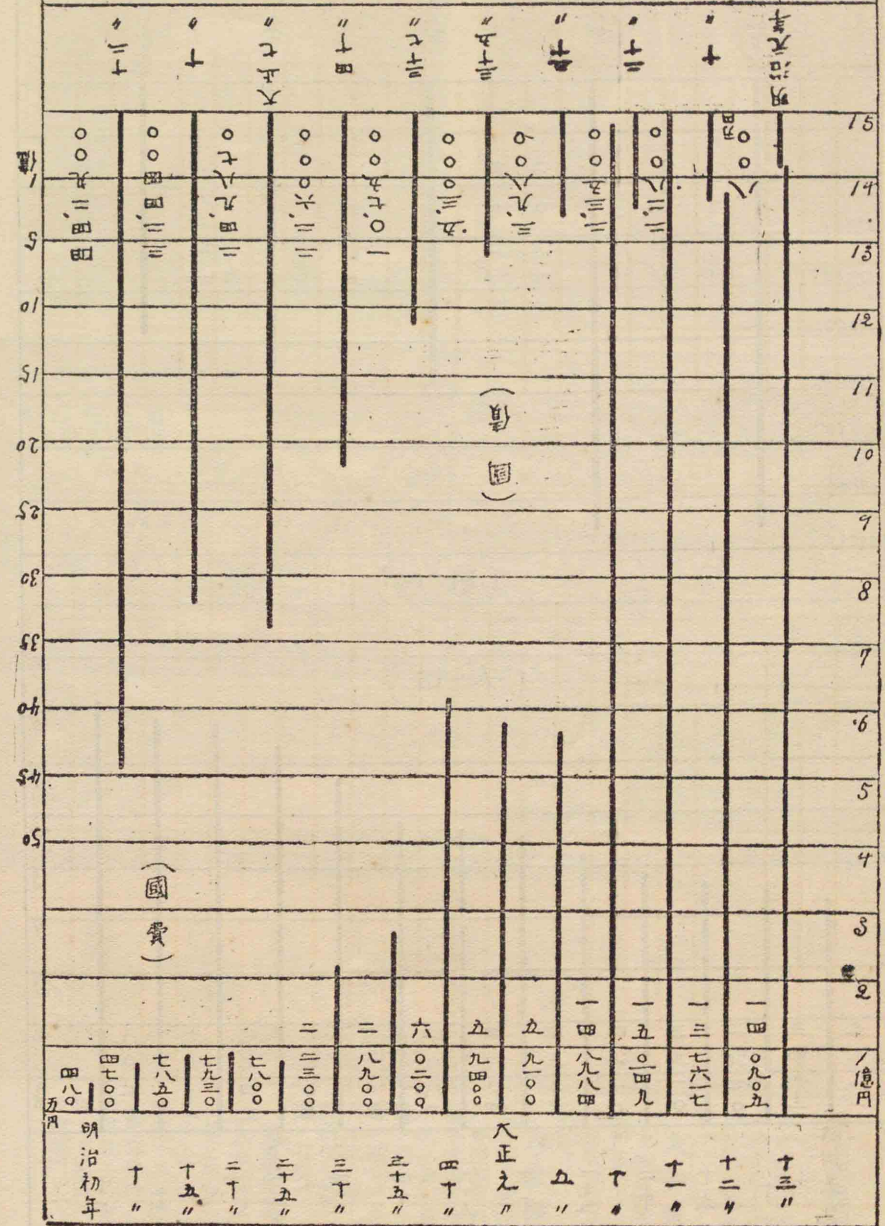
(作付般別)



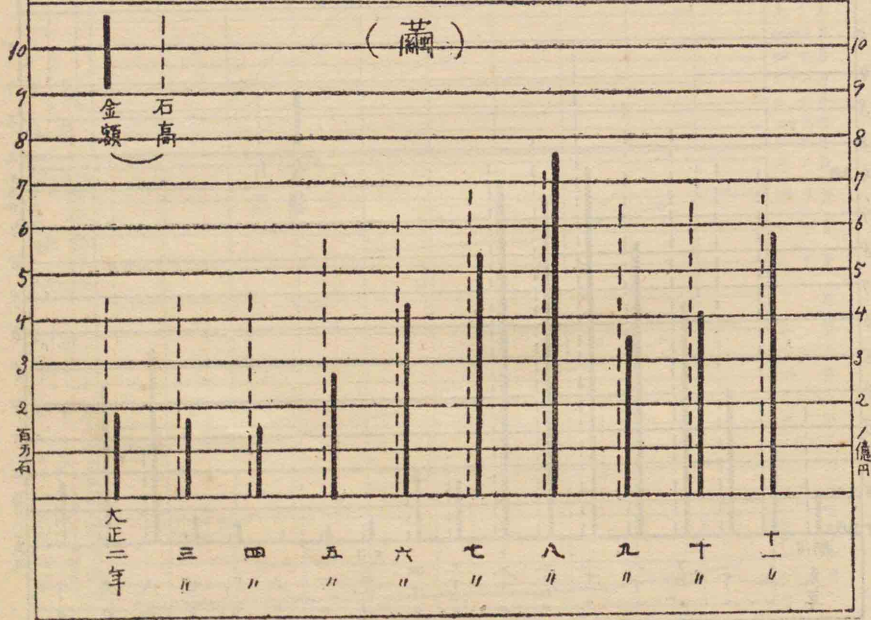
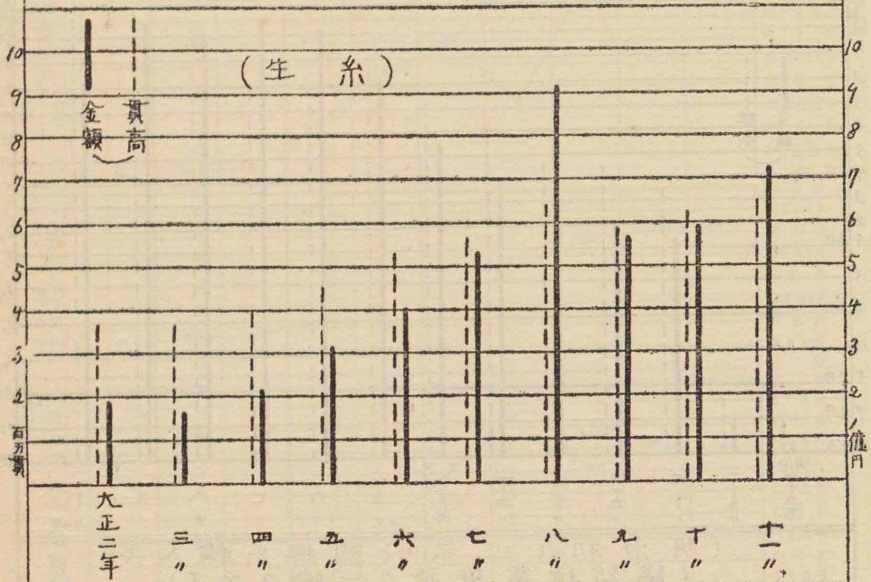
(米収獲高)



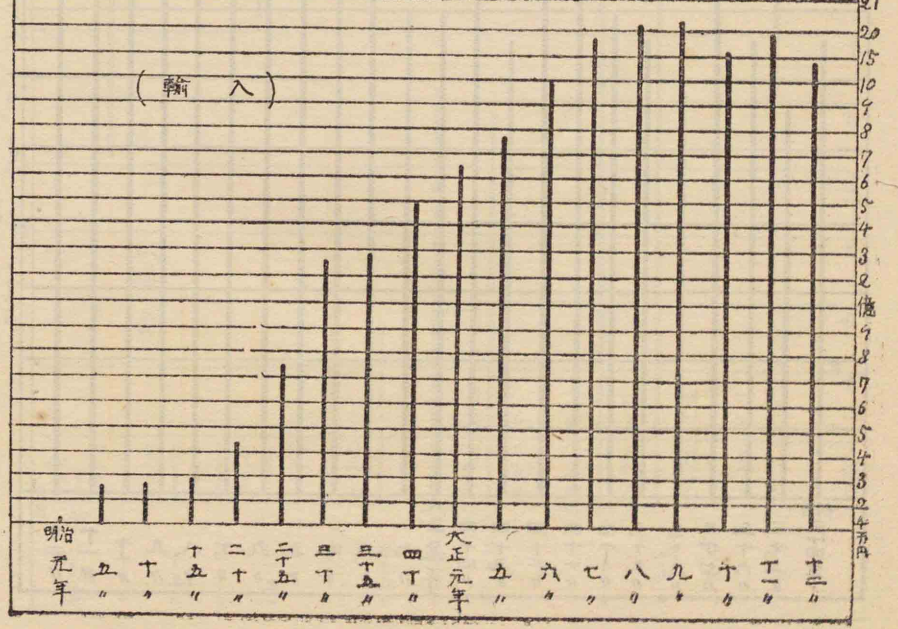
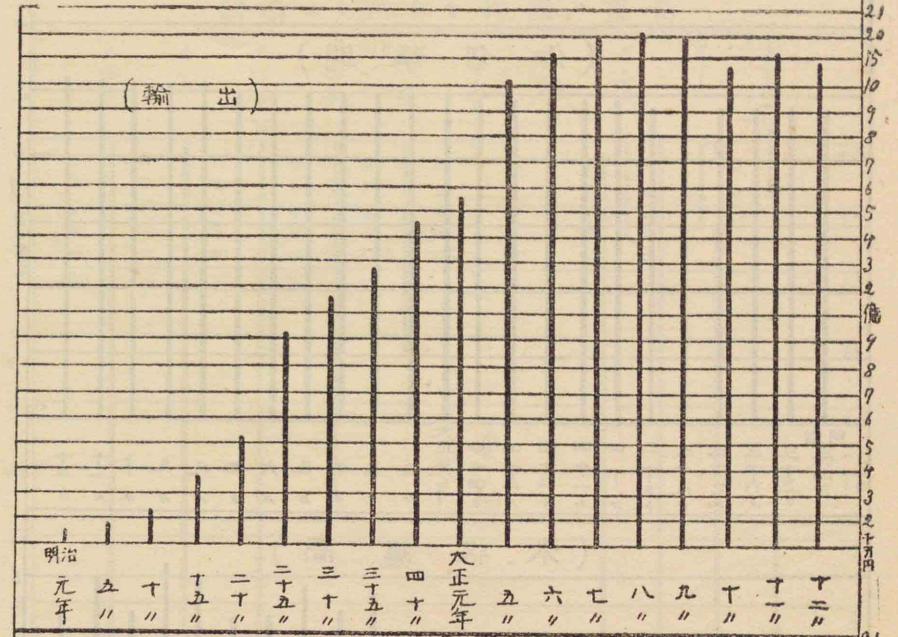
我國の發展より見たる我國の重費

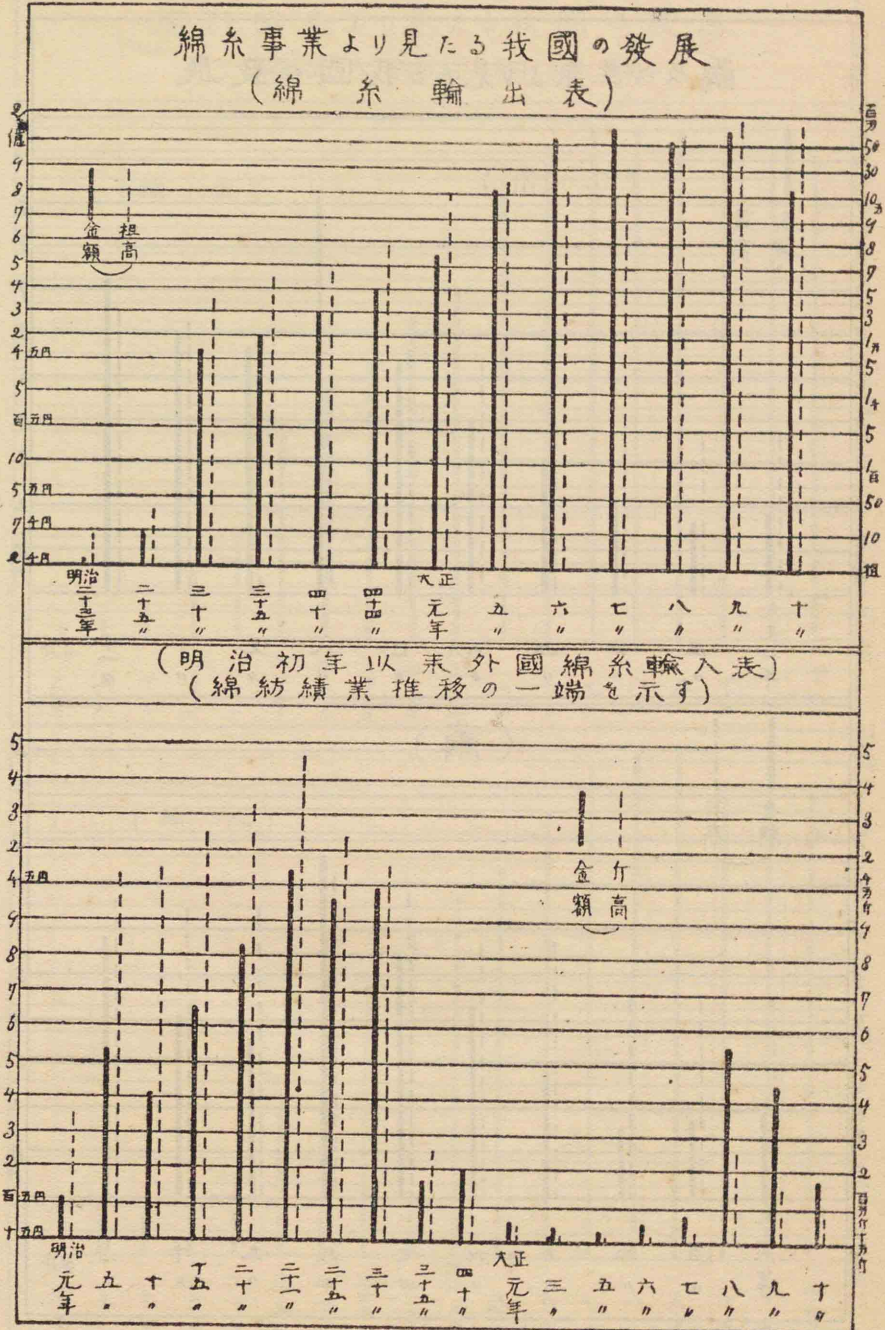
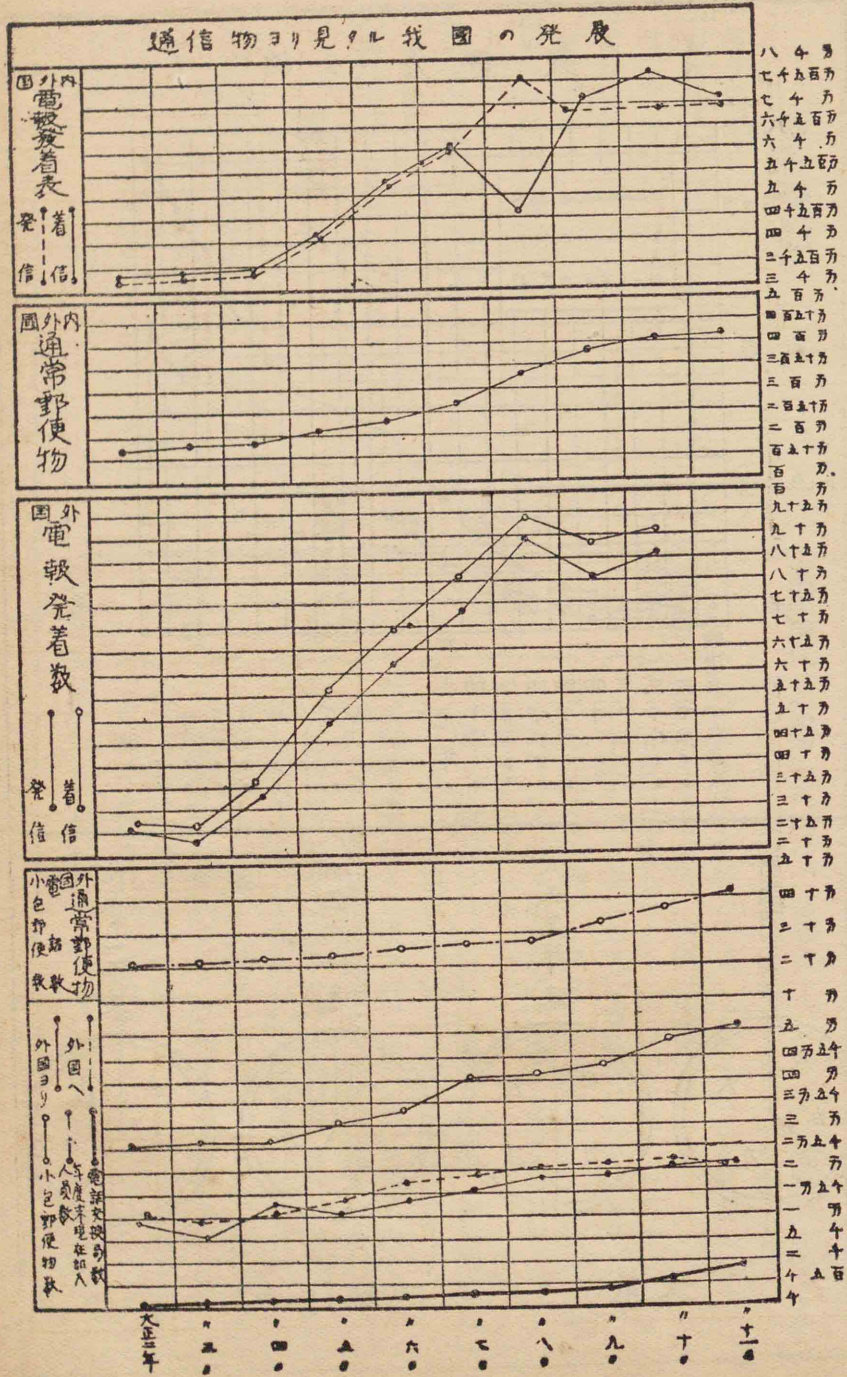


蕪及心生糸より見たる我國の發展

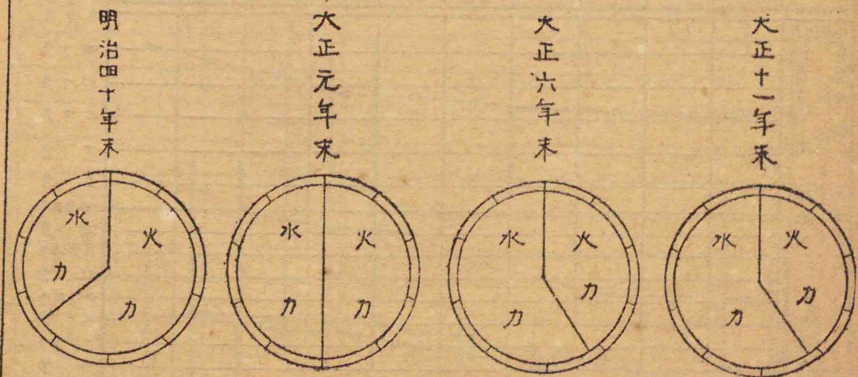
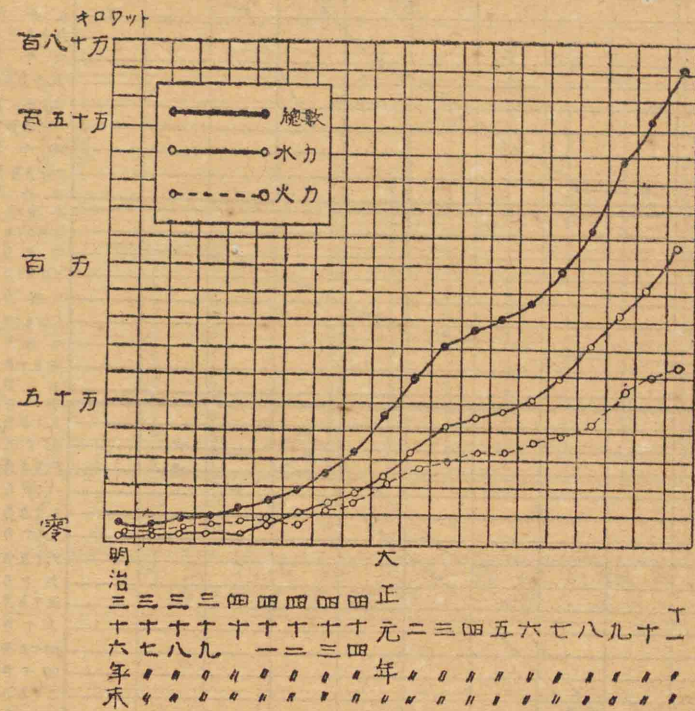


海外貿易より見たる我國の發展  
輸出入物品總價額





發電力(全國)



發電力の水力、火力別(全國)

自習問題

- 一 信長の生立について語れ。
- 二 桶狭間の戦に於ける信長の膽力と、其の戦況について述べよ。
- 三 信長は如何なる決心を以て忠勤をばげんだか。
- 四 信長は如何に天下を統一しようとしたか。
- 五 信長が本能寺に戦死するに至つた顛末を語れ。
- 六 信長が後世慕はれるのはどの點か。

難語句

戦國時代 足利時代の末世に於て地方の豪族が各其の地方に割據して大は小を併せ強は弱を呑みし時代 御料地 天皇の勅し天皇が親しく命を賜はるる地 近畿 宮城所在地 叡慮 天皇の御慮を以て

織田信長

戦國時代の諸國の英雄は、京都に上つて天下に號令しようとしたが、織田信長が始めてその目的を達した。

信長の幼時 一、信長は平重盛の子孫で、其家は代々尾張に居り、武勇な父信秀は、近國に領地を廣めた。

信長の勤王 一、信長は幼時あらししい行が多かつたので、家臣平手政秀が自殺して之を諫め大に之を改めさせた。

足利將軍の滅ぶ 一、駿河の今川義元は織田氏を滅さうとして尾張に攻め入つた。義元が桶狭間で酒宴を開いて居たとき、急に攻めて之を滅した。

本能寺の變 一、信長は京都を回復させ、近畿を平げた。義昭は信長を除かうとして追出され足利將軍は滅んだ。

信長は天下を平げて朝廷に盡し京都の建勳神社にまつられた。



自習問題

- (一) 秀吉の立身出世した生立を述べよ。
- (二) 清水宗治が高松城に奮戦した其の有様を語れ。
- (三) 秀吉は如何にして主君の仇を討つたか。其の後の勢力は如何。
- (四) 賤ヶ嶽の戦況について語れ。
- (五) 何故に大阪の地を選んで築城したか
- (六) 聚樂第に行幸を請うた次第を語れ。
- (七) 小田原攻圍の有様を述べよ。

難語句

草履取くわいやくくわい 部將ぶしょう 一方いっぽうの 自刃じじんから  
 死しぬること 變報へんぱう 信長しんちやうが死しに 關白くわんぱく  
 昔むかし天皇てんかうをたすけて 天下てんか 御料ごりやうを 獻けんじ 皇  
 の政治せいざいを行つた 大臣だいじん 公卿こうけい 御即ごち 攝政せつせい 關白くわんぱく 大臣だいじんと  
 てまつて 公卿こうけい 御即ごち 參議さんぎ 大中納言ちゆうなごん 及  
 び三位さんい以上の 殿上人でんじやうにんをいふ

自習問題

- (一) 秀吉は何故に朝鮮征伐を企てたか。
- (二) 第一回朝鮮征伐の有様を述べよ。
- (三) 碧蹄館に於ける小早川隆景の武勇について語れ。
- (四) 何故に再び朝鮮征伐を企てたか。
- (五) 蔚山籠城と泗川の戦に於ける我が軍將士の武勇を語れ。
- (六) 秀吉の人物について知る所を記せ。
- (七) 秀吉が後世慕はれるのはどの點か。

難語句

講和かうわの 使しに復かへすことを 相談さうだんする 使明しめい  
 使し明めいの國こくの 君主きんしゆから 遺言いごん ぬると  
 きに言いひの 豪傑ごうたつ 智力しちりや 勇氣ぶいきのす 優待ゆうたい  
 ことば 侍じせざりしを かついておな  
 あつくもて 侍じせざりしを かついておな  
 なすこと

豊臣秀吉

秀吉の 出世しゆけいのしゆせの  
 一、秀吉は尾張の貧しい農家に生れ、八歳の時小僧となつたが十六歳で松下氏の僕となり、更に信長に仕へて木下藤吉郎秀吉と名のつた。  
 二、草履取から一方の武將となり羽柴筑前守と稱した  
 一、信長の命を受けて中國の毛利氏を攻め、其の將清水宗治を高松城に水攻にした。輝元は大軍を以つて救はうとしたが不成功なのを見て和談を申込んだ。  
 二、和議中に本能寺の變を聞き和をまごめ、すぐ軍をひき返して光秀を山城の山崎で滅し主の仇を討つた  
 三、秀吉の威勢がひとり盛んなのをねたみ、柴田勝家は之を除かうとしたが、かへつて賤ヶ嶽の戦で敗れ越前で滅された。之から信長の部將は秀吉に従つた。  
 一、天下を定める目的で大阪に堅固な城を築いた。  
 二、朝廷ではその功を賞し、關白太政大臣に上せ豊臣の姓を賜うた。  
 三、聚樂第を京都に營み、後陽成天皇の行幸を仰ぎ御料を獻じ親王公卿の領地を定め、諸大名に皇室の尊ぶべきことを誓はせ、また皇居を造營し奉つた。  
 小田原の北條氏政その子氏直等を亡して、應仁の亂後百餘年間も亂れてゐた日本國中を平定した。

豊臣秀吉(きびつ)

明と修交しようとして朝鮮からその意を通じさせたが、應じないので朝鮮に道をかりてこれを討たうとした。朝鮮では明を恐れてこれに従はなかつた。  
 一、朝鮮を定め明に及ばうと、秀吉自ら肥前名古屋に行つて指圖し、諸兵は釜山に上陸し加藤清正は東北へ小西行長は國王を追ひ、三箇月で朝鮮を従へた。  
 二、朝鮮王は明の救を請ひ、その大軍は行長を平壤に破り京城を取らうとしたが碧蹄館の戦で破れた。  
 三、明は恐れて和を乞うた。秀吉は兵を引上げた。やがて明使が來たが國書に「秀吉を日本國王となす」とあつたので秀吉は無禮を怒り再び出兵の命を下した。  
 四、清正・行長がまた先手となつて進んだ。明の大軍が淺野幸長を蔚山城に圍んだ。清正は之を救ひ城に入つたが兵糧なく頗る苦戦したが援兵が來て大勝した  
 五、秀吉が薨じたので諸將は兵をかへした。明軍が島津義弘を泗川に攻めたが之を破り無事引上げた。  
 秀吉は智勇を以つて國內を平げ、皇室を尊び國威を揚げ、又一方には母に孝養を盡した忠孝兼備の豪傑である。  
 朝廷ではその功を賞しその社に正一位と豊國大明神の號とを賜うた。京都の豊國神社は秀吉を祀る。

自習問題

- (一) 家康の生立と其の人となりについて語れ。
- (二) 家康は如何にして立身出世するに至つたか其の次第を述べよ。
- (三) 關原の戦について其の戦況を述べよ
- (四) 鳥居元忠の忠死した次第を言へ。
- (五) 石田三成の人となりについて知る所を記せ。

難語句

國內統一の業 國內を一つにひかごに入れて石をなべて  
 石合戦 戦ふこと  
 部下 部下  
 虚に 虚に  
 西軍の中 西軍の中  
 乗じて 乗じて  
 早川秀秋 早川秀秋

徳川家康

家康の生立  
 一、家康は秀吉の後をうけて國內統一を完うした。  
 二、家康は新田氏の後であるといふ。父廣忠は岡崎の城主で今川氏と織田氏の間にはさまつてゐたので、今川氏に六歳の家康を人質として領地を保つた。  
 一、人質となつてゐたとき、學問をばげんた。  
 二、幼時から難儀をした家康は辛抱強く、生れつき賢かつた。

家康の人となり  
 一、始めは今川義元に従つたが義元が死に、子氏眞の愚を見て信長と結び、遠江を取つて濱松に移つた。  
 二、本能寺の變後信長の子信雄と秀吉とが不和になり助を家康に乞うた。家康は之を助けて長久手で秀吉の軍を破り大いにその威名を揚げた。  
 三、のち秀吉に仕へ北條氏の領地を得て江戸に移つた

家康の出世  
 一、秀吉が薨する時秀頼を助けるやうに、前田利家と家康に遺言したが、利家薨して家康獨り勢を得た。  
 二、石田三成は秀頼の爲に不利であるを見て、毛利輝元・上杉景勝等と共に家康を除かうとした。  
 三、美濃を界に全國の大名は二つに分れ東は家康に西は三成に味方して關原に戦ひ、西軍は破れ三成以下諸將は多く殺された。世に之を天下分目の戦といふ。

關原の戦  
 一、徳川氏は豊臣氏の上となつたが秀頼は堅固な大阪城に居て舊恩を思ふ大名も少くなく、家康は將軍職を秀忠に譲つても安心することは出来なかつた。  
 二、かつて秀吉が京都に方廣寺を建てたが地震の爲に損じたので家康は秀頼に造りかへさせた。ところが大鐘を鑄た銘に「國家安康」の句のあるのを見て家康は自分をのろふのであると言つて大いに怒つた。  
 一、片桐且元は辯解したが徳川氏をにくんでゐた淀君等は秀頼にすゝめて兵を擧げさせた。  
 二、家康は秀忠と大兵を以つて攻めたが城が堅く容易に陥らぬので和睦した。(慶長十九年)

自習問題

- (一) 關原の戦後に於ける家康と秀頼との間柄について語れ。
- (二) 方廣寺の鐘銘事件と大阪冬の陣について述べよ。
- (三) 大阪夏の陣の起りと其の結果について語れ。
- (四) 家康が天下太平の偉業を開くに至つた所以を言へ。
- (五) 信長・秀吉・家康の性格を比較せ。

難語句

賞罰を行ふ 賞をあたへて罰をあたへる  
 實權 實権  
 銘 銘  
 落成の式 落成の式

徳川家康

關原の戦の後、家康は大いに賞罰を行ひ、天下の實權を握り慶長八年征夷大將軍に任せられ江戸幕府を開いた。

家康と秀頼との争ひ  
 一、徳川氏は豊臣氏の上となつたが秀頼は堅固な大阪城に居て舊恩を思ふ大名も少くなく、家康は將軍職を秀忠に譲つても安心することは出来なかつた。  
 二、かつて秀吉が京都に方廣寺を建てたが地震の爲に損じたので家康は秀頼に造りかへさせた。ところが大鐘を鑄た銘に「國家安康」の句のあるのを見て家康は自分をのろふのであると言つて大いに怒つた。  
 一、片桐且元は辯解したが徳川氏をにくんでゐた淀君等は秀頼にすゝめて兵を擧げさせた。  
 二、家康は秀忠と大兵を以つて攻めたが城が堅く容易に陥らぬので和睦した。(慶長十九年)

大阪冬の陣  
 一、此の和議の中に總堀を埋める條件があつたが、家康は内堀まで埋めさせたので秀頼は又兵を擧げた。  
 二、家康父子又之を攻め木村重成等が防戦したが要害を失つた城は遂に陥り豊臣氏は滅んだ。(元和元年)

大阪夏の陣  
 一、此の和議の中に總堀を埋める條件があつたが、家康は内堀まで埋めさせたので秀頼は又兵を擧げた。  
 二、家康父子又之を攻め木村重成等が防戦したが要害を失つた城は遂に陥り豊臣氏は滅んだ。(元和元年)

太平の基  
 一、家康は翌年太政大臣に任せられ間もなく七十歳で死んだ。朝廷ではその功を賞し家康を祀つた社に東照大権現の號を賜ひ、更に東照宮と賜うた。

### 自習問題

- (一) 家光はどんな考で諸大名に威權を示したものか。
- (二) 當時の國民が如何に海外に發展して居たかを言へ。
- (三) 何故にキリスト教を禁じたか。
- (四) 島原の亂の顛末を述べよ。
- (五) 家光のとつた鎖國の方針と、それが後世に及ぼした影響を語れ。

### 難語句

豪氣ごうきの人ひと 意氣いぎのさ 同輩どうはい位の者もの 待遇たいごなき 兵馬へいばの用意用意 出兵しゅつべいの者もの 通商つうしょう 國こく 一定いぢやうの 禁絶きんぜつ してしまふこと 海外かいがい 外國がいこく 目的てきひつ 禁絶きんぜつ してしまふこと 海外かいがい 外國がいこく 布教ふきやう 宗敎しゆきやう をひろ 洋書やうしよ 西せい 洋やう の

## 徳川家光

家光は秀忠の子で生れつき豪氣な人であつた。二十才で將軍となり諸大名を集めて「祖父は諸君の力で天下を取つたから諸君に同輩の禮を用ひたが自分は生れながら將軍である故家臣として待遇する、不平な者は國に歸つて兵を擧げ給へ」と大いに幕府の威光を示した。

#### キリス

ト教弘まる 一、後奈良天皇の御代にポルトガル人が來て、ついでイスパニヤ・オランダ・イギリス人が來て通商を開き、我國人も海外に渡り盛んに通商した。

#### 島原の

亂 二、西洋人が來てからキリスト敎も傳はり織田信長はこれを保護したのでキリスト敎は次第に弘つた。

#### 鎖

國 一、キリスト敎信者の中には我國風にそむくものがあるので秀吉は之を禁じた。家康も禁じたが貿易は許して居た。しかし尙外國宣敎師がひそかに入り信者が絶えぬので信者を嚴刑に處し外國行きを禁じた。

二、九州には信者多く幕府の禁を怒り寛永十四年島原半島の原城にこもつて亂を起した。家光は之を討たせたが容易に降らず、翌年やうやく平げた。

一、家光は遂にオランダ人以外は長崎に來ることを禁じ、國民の海外に出ることを嚴禁した。

二、國民は外國の事情にうとく世界の進歩に遅れた。

### 自習問題

- (一) 家光は幕府の權勢を如何に京都に振つたか。
- (二) 後水尾天皇は幕府の專横を如何に憤り給ひしかを語れ。
- (三) 後光明天皇が幕府の權勢をおさへて皇威をはらんとせられし次第を言へ。
- (四) 後光明天皇の御性質について語れ。
- (五) 天皇が上下に惜まれ給うた點はどこにあるのか。

### 難語句

所司しやし 代だい とをつかさどる役所 外戚ぐわいせき 母はは のしん 專横せんごう まま こぼみたる人ひと じな あし原あしはら たのはら 皇威くわい 朝廷てうてい のこと いちおうほり せんすべなくしかた

## 後光明天皇

幕府京都に威を振ふ。家康は朝廷を敬ひ皇居を造り御料を増し奉つたが所司代を京都に置いて朝廷・公卿を抑へ、秀忠は皇室の外戚となつて政治の實權を握つた。

#### 後水尾

天皇 一、後水尾天皇がある僧たちに紫衣を賜うたところが家光は勝手に之を取上げさせた。

#### 後光明天皇

は嚴格な御性質にまし、御英明に渡らせられ、幕府をおさへて皇威を張らんとし給うた。

#### 天皇所

司代しだい の言こと をしりぞく 一、所司代板倉重宗は天皇が後水尾上皇の御病を見舞ひ給ふのをさへ奉つた。天皇は「若し朕の外出を氣遣はば、皇居より上皇の御所に通する長廊下を造るべし。」と仰せられ遂に上皇を見舞ひ給うた。

二、天皇が擊劔を好み給ふのを重宗が止め奉り「陛下若し止め給はずは臣切腹せん」といつた。天皇は「朕未だ武人の切腹を見たることなければ切腹して見せよ。」と仰せられたので重宗はいたく恐れ入つた。

天皇は早く崩じ給うたので上下これを惜しみたてまつつた。

自習問題

- (一) 徳川の初世學問の大いに興つた譯を述べよ。
- (二) 光圀が國史を著はさんと志した動機について語れ。
- (三) 大日本史は如何なる考で、如何なることを述べたものか。
- (四) 光圀が朝廷を尊ばれたことを語れ。
- (五) 光圀が特に質素儉約をすゝめられた事について語れ。
- (六) 光圀の晩年について知る所を記せ。

難語句

出版しゅつぱん 書物にして世に  
孔子こうしの廟べう 靈れいをまつる  
國體こくたいの國くにから名分めいぶん父ちちは父ちち子こは子こ  
といふ明あきら尊王そんわうの心こころつとぶ心こころ碑ひひ

徳川光圀

學問興がくもんきよる  
光圀こうくわんの人ひととなりる  
大日本だいじっぽん史し成なりる

一、島原の亂後西洋の學問は全く傳はらなくなつたが、我國の學問(漢學・國學)は益發達した。  
二、家康は武力で平定して學問で治めようと漢學者林道春を招き書物を出版した。五代將軍綱吉は幼時から學問を好み自ら書を講義し江戸の湯島に孔子の廟を建て道春の子孫に之を祀らせ生徒に教授させた。  
一、諸大名も之にならうたが水戸の光圀は最もいちじるしく、光圀は家康の孫で生れつき頗る賢明であつた。  
二、六歳の時將軍の命により兄の頼重をこえて世嗣と定められたが支那の伯夷叔齊の歴史を讀んでその義に感じ、兄の子を世嗣と定めようと決心した。  
三、光圀は儉約を守り大名のものはんとなり後年兄の子に家を譲つた。  
一、當時國體を辨へぬ者があつたので之をなげき世人をみちびくには歴史によらねばならぬと決心した。  
二、四方から學者を招き、廣く書を集めて國史をしらべて大日本史を作り名分を正し國體を明かにした。  
三、光圀は尊王の心深く皇室を尊び時々家臣に「我主君は天皇である。將軍は我家の本案である將軍を主君と思ひあやまつてはならぬ。」と戒め又忠孝を唱導した。

自習問題

- (一) 元祿の頃世の中が一般に武勇の氣風が衰へて華美になつた理由を述べよ
- (二) 長矩が義央を城中に傷つけるに至つた顛末を語れ。
- (三) 大石良雄の人となりについて言へ。
- (四) 良雄等が復讐を謀つて結束の堅かつた事について語れ。
- (五) 赤穂義士討入について語れ。
- (六) 赤穂義士が後世人々にはめはやされて居る點はどこにあるか。

難語句

能樂のうがくの一種の藝術で  
淨瑠璃じやうるり合あせてうた  
ふ一種のかかたき  
復讐ふくしやうの心こころつとぶ心こころ節せつ節せつ  
接待さうたいなし  
自首じしゆてでることをいふ  
義ぎを

大石良雄

士氣衰しきすいへる  
淺野長矩あさのながたけ  
良雄りやうゆうの人ひととなりる  
良雄等りやうゆうらうの忠節ちゆうせつ

一、綱吉は學問を盛にしたが、後には政治に倦み能樂などに耽けり全く政治をかへり見ぬやうになつた。  
二、其の頃久しく太平が續いて上下の士氣は衰へ淨瑠璃・芝居等が流行し風俗がはでになつた。  
幕府では毎年正月には年賀の使を京都に上せ、勅使又江戸に下るのを例とした。  
元祿十四年勅使東下の接待役は赤穂の藩主淺野長矩で指圖役は吉良義央であつた。義央は進物が少いのので長矩を辱めたので長矩は憤つて義央に傷つけた。  
幕府その仕業をせめて切腹を命じ領地を取上げた。  
良雄の人となり良雄は長矩の家臣で幼時山鹿素行に兵學を習ひ伊藤仁齋に漢學を學び、頗る謙遜であつた。  
一、主家の變を聞いた良雄はその再興を謀り、若し出來なければ義央を殺し主の仇を報いようと決心した。良雄と志を同じくする者は直ちに事を起さうとしたが之を止め、主家の再興せぬと見て愈決心した。  
二、元祿十五年冬同志四十六人と義央の邸を襲ひ之を殺し首を主の墓前にをなへ幕府に自首した。年十五の子良金も事を共にした。幕府は禁にそむいた事をした爲め死を賜うたが上下共にその義節に感泣した。

### 自習問題

- 一 白石は幼時如何に苦學したかを語れ
- 二 白石が特に友情に厚かつた話を言へ
- 三 白石がどんな考で皇族の出家をお止めになつたかを述べよ。
- 四 どんな考で朝鮮使者のもてなしを改めたか。
- 五 白石はなんの爲めに貨幣を鑄直したか。
- 六 白石の著書二三をあげよ。

### 難語句

目課(めくわ)仕事をすること 睡氣(すいけ)を催(もよほ)せば  
ねむけが 和漢(わかん)の學問(がくもん)の學問(がくもん) 友情(ゆうじやう)  
すると ともだちに對(たい)して 體面(たいめん)よく 心(こころ)をそ  
するなさい 財政(ざいせい)と支拂(しはらひ)をいふ  
のみそいで他(た)を 國(くに)の金(かね)の收入(しゆい)  
かへりみぬこと

### 新井白石

#### 白石の苦學と出世

- 一、綱吉薨じ家宣・家繼が相ついで將軍となり新井白石がこの二代に仕へて政治上の改革をした。
  - 二、白石は上總の人で生れつき賢く三歳の時にはもう字を書いた。九歳の頃から日課を定めて勉強し夜睡くなるこ水をかぶり家が貧しくなつてもますく勉強をつづけ和漢の學に精通した。
  - 三、木下順庵の門人となり後家宣に重く用ひられた。
  - 一、これまで朝廷では皇太子に立ち給う御方の外は皇族は出家し給ふ習はしであつたのを御止め申した。
  - 二、將軍の代がはりには朝鮮の使者が來て非常に厚くもてなして居たが、白石は國の體面を損するといつてそのもてなし方を改めた。
  - 三、綱吉が奢にふけり幕府の財政困難を來し貨幣を悪くして數を増して費用をおぎなつたが、その爲に物價がたかくなり人民が苦しんだ。又外國貿易の爲に金銀が外國に出た。家繼の時貨幣を鑄して質を良くし貿易額を制限して金銀の外國流出を防いだ。
- 政治上の改革をしたが吉宗が將軍となるや、幕府を退いて有益な書物を澤山に著した。

#### 白石の改革

書を著す

### 自習問題

- 一 吉宗の幼時について語れ。
- 二 大岡忠相の裁判について知る所を述べよ。
- 三 吉宗が特に儉約武事及び産業を奨励した事實をあげよ。
- 四 どんな考で洋書の禁を解かれたか。
- 五 吉宗が徳川中興の英主と呼ばれる點はどこか。

### 難語句

曾孫(そうそん) 鑢箱(ろくわう)刀(た)のつばを入れたるはこ 遠慮(えんりよ)か  
へめにす 大膽者(だいだんじや) 下民(かみん) 馬術(ばじゆつ)  
のちりばめたる 農工業商業(のうぎやうしやうぎやう) 中興(ちゆうきゆう) 一たん  
にのる 産業(さんぎん) 産物(さんぶつ) 産物(さんぶつ) 産物(さんぶつ)  
じゆつ へたのをなかがごろに再び さかんになつたのをいふ

### 徳川吉宗

#### 吉宗の幼時

吉宗は家康の曾孫で紀伊家に生れた。幼時から頗る賢明で父が諸子を集めて鑢箱を出し何れでも宜しいから取れといふたが吉宗は箱のまゝ残りをもらうてお附の人々に與へた。

#### 藩の善政

吉宗は末子なので小藩の主となつたが、下民をいたはり自ら儉約を守つてよく藩を治めた。二人の兄が死んだので紀伊家に歸つて藩主となつた。

#### 吉宗の善政

- 一、伊勢山田奉行に大岡忠相といふ人があつた。山田の農民と紀伊の農民と田地を争うた時、これまでの奉行は山田が小藩なので不正な紀伊方を勝としたが忠相が奉行となつて山田を勝としたので吉宗はその公平に感じ江戸町奉行にあげた。
  - 二、吉宗が將軍となつた頃はまだ元祿の風が残つてゐたので、自ら儉約をすすめ武藝をすすめたので武士は大いに活潑となり士風が盛んになつた。
  - 三、産業に意を用ひ青木昆陽に甘藷の作り方を研究させて書を著させ、又甘藷の苗を取寄せて砂糖を作る方法を研究して諸國にすすめた。尙キリストに關係のない洋書の禁を解いて後世の洋學の基を開いた。
- 吉宗は善政をしいたので世に徳川幕府中興の英主と言はれる。

### 自習問題

- (一) 定信の生立について語れ。
- (二) 特に勤儉と文武の道を奨励されたことについて述べよ。
- (三) 皇居の御造營に特に意を用られたことについて語れ。
- (四) 何故に當時海防の必要が生じて来たか。
- (五) 定信の晩年について知る所を記せ。

### 難語句

洪水こうすい 大水のこと。飢饉きげん 不作のために食物のなにかまをくんで世の中を亂すこと。暴動ぼうどう なかまをくんで世の中を亂すこと。新調しんてう こしらへる。遊惰ゆうだ あそびなま。道場だうじやう 武藝のける。海防かいぼう 海岸の野にやど。巡視じゆんし まはる。風月ふうげつ を友とも としを眺めて楽しんで

### 松平定信

定信の人とな

一、十一代將軍家齊は一時緩んだ政治を松平定信に回復させた。  
二、定信は吉宗の孫で十三の時既に書を著した。生れつき短氣であつたが自ら改めた。  
一、其の頃しきりに天災が起り一般の人心がおだやかでなく暴動が續いた。定信が幕府に入つて上下の奢を禁じ勤勉貯蓄をすすめ天下がおだやかになつた。  
二、當時の人々が遊惰に流れたので道場を開いて武藝を盛んにし、柴野栗山などの學者を招き、湯島の學問所を擴げ漢學を盛んにした。

定信の善政

三、火災の爲皇居が焼けたので昔の法式の通りの美しい宮殿を御建て申したので第百十八代光格天皇は深く御満足に思召した。天皇は御なさけ深くおはしまし、定信は善政を布いたので「西に聖天子東に名臣出づ」と天下の人々は喜んだ。  
意を海防に用ふ。その頃始めてロシアの使が来たが通商を許さなかつたので、形勢おだやかでなかつたので定信は海岸を巡視して日夜海防の事を憂へた。  
定信は職を辭して樂翁と號して風月を友とし文學に親しみ多くの書を現はし七十二歳で卒した。

### 自習問題

- (一) 宣長以前に於ける國學者をあげよ。
- (二) 宣長の生立について語れ。
- (三) 古事記傳は如何なることを書いたものか。又如何なる苦心になつたか。
- (四) 「大和心」の歌を書いて其大意を言へ
- (五) 尊王論の起つた主なる原因を述べよ
- (六) 國學とはどんなことを研究する學問か。

### 難語句

國語こくご 國民一般に使用する。國文こくぶん わが國語を我が國の言語。國學こくがく わが國の國史國章。古事記こしき 傳でん 古事記として我が國の古い歴史を詳しく説明した書物の名。書齋しよさい よむへや。敷島敷島 日本國の別名。こゝはやまと。大和心たごころ 日本人の血統をいふ。萬世ばんせい 一系いつけい てかはらない

### 本居宣長

國學起

一、外には外國との關係繁くなり、内には學問進むにつれ尊王論が大いに起つた。  
二、今までは漢學が盛んであつたが僧の契沖が國學を起し寛政の頃本居宣長が之を大成した。  
宣長の生ひたち 宣長は伊勢松坂の人で八歳で學につき、後契沖の著書を見て國學に志し、ついで賀茂眞淵の弟子となつて研究し遂に大學者となつた。

古事記傳を著す

一、此の頃漢學者の中にはみだりに支那を尊び我國を卑しむの風があつたので宣長は國體の萬國にすぐれてゐることを明らかにしようとする書を著した。  
二、中にも古事記傳は、我國で最も古い歴史を説明したもので三十五年の間四疊半の部屋にこぢこもり日夜筆をおかずに著した有名な本である。  
三、宣長は常に櫻を愛し、自ら書いた自分の像に「敷島の大和心を人間はば、朝日に匂ふ山櫻花」と題した。この歌は最もよく大和魂をよんだ歌である。  
尊王論大いに起る 宣長は多くの書を著し、日本全國に五百人以上の弟子を持つた。弟子は宣長の志をつぎ我が國體を説いたので、人々は我國は天皇が政を自らし給ふものでなければならぬとさとり尊王論が起つた。

自習問題

- (一) 當時に於ける主なる尊王論者をあげよ。
- (二) 彦九郎の生立について語れ。
- (三) 彦九郎が諸國をめぐつて尊王の大義を説きしことを述べよ。
- (四) 君平の生立について語れ。
- (五) 山陵志は如何なる考で如何なることを書いたものか。

難語句

大義たぎの道みちをさす 喪さうに服ふくす 人が死んでうれひに沈しづんで 武者修行ぶしやうしゆぎやうに諸國しよこくの道場だうじやうをまはつてしあ 德行とくぎやうの行ぎやうをいふ 御ご天皇てんかうの 畿内きないの附近きんじゆで天子てんしに屬ぞくし 和わ・河内かふち・和泉わいせん・攝津せつじん 表章へいしやうあらはしてあきの五ヶ國ごこくをいふ 表彰へいしやうらかにすること

自習問題

- (一) 林子平の生立について語れ。
- (二) 海國兵談は如何なる考でどんなことを書いたものか。
- (三) 何故に子平は罪されたか。其の後國の内外の形勢はどうか。
- (四) 尊王攘夷論とは如何なることを唱へたものか。
- (五) 徳川齊昭の生立と其の政治について述べよ。

難語句

三奇人さんきじんは三人さんにんのか うごしうごしないこと 版木はんぼく文字ぶんじをほ 追賞おしやうすること 先見せんけん 攘夷じやういの論ろんつて外國がいこくと交際かうさいせ 御忌日ごきじちなつた日ひ 遙拜ちやうはいにをがむ

高山彦九郎と蒲生君平

朝威の衰微

をなげく者出づ竹内式部・山縣大貳等が尊王の大義を説いて幕府に罪せられたが、高山彦九郎・蒲生君平等は朝威の衰へたのをなげいた。

高山彦九郎

彦九郎は上野に生れ、生れつき豪氣で孝心が深かつた。晝は農に勵み夜は師に通ひ怠らなかつた。育てた祖母が死んだ時は悲しみにたへないので墓の側に小屋を建てねんごろに祭り三年の喪に服した。

彦九郎尊王論を説く

- 一、十三歳の頃太平記を読み楠木・新田等の忠臣の行に感じ忠義の志厚くなり皇居が火災にかかつた事を聞いた時には心配の餘り日夜京都に馳せのぼつた。
- 二、全國の學問・德行ある人を訪ひ尊王の大義を説き京都を過ぎては御所の門前で地に跪き之を拜した。筑後の久留米で世をなげくのあまり自殺した。

蒲生君平

は下野の人で幼い時、祖母に其家柄を聞いて大いに志を立て日夜勉學に耽つた。

山陵志を著す

君平和漢の書を讀むにしたがひ朝威の衰へたのをなげき殊に御歴代の御陵のすたれたのを悲しみ自ら諸方御陵を取調べ山陵志を著して朝廷と幕府に奉つた。もて家が貧しいので日夜按摩をして僅かの金を得つつ遂に其の書を著した。

攘夷と開港

子平海國兵談を著す

- 一、林子平は君平・彦九郎と共に寛政の三奇人と呼ばれ仙臺に生れ學問・武藝に勵み非常に地圖を好んだ。
- 二、子平は北海道・長崎までもめぐつて實地を調べ、長崎でオランダ人から外國の形勢を聞き海國兵談を著して西洋諸國の寇する事を説いた。當時西洋諸國は東洋に勢力を引げ日本に近づかうとして居た。

攘夷論と徳川齊昭

- 三、鎖國の爲外國の事情にうとい幕府は子平の論は世人を迷はすものとして其の書物も版木も取上げ子平を罪した。病にかかつた時「親もなく妻もなく子なく版木なし、金もなければ死にたくもなし」と歌をよみ六無齋と號した。後に罪を許された。
- 一、子平が罪せられて間もなくロシヤの船が樺太・千島に寇しイギリス船が長崎に來て騒がしたので攘夷論が起り 仁孝天皇の御代外國船のうちにはらひを命じた。
- 二、水戸の徳川齊昭は幼時から學問・武術を修め藩主となつて弘道館を建て盛んに攘夷論を唱へ大砲七十四門を鑄て幕府に獻じ國防に備へさせた。
- 三、齊昭は又尊王の志厚く家臣にもその道を唱き、攘夷の論起るや進んで之を唱へ國威を損せぬことにつとめたので尊王攘夷論は大いに起つた。

### 自習問題

- (一) 開港論とは如何なる事を主張したもののか。
- (二) 渡邊華山・高野長英について知る所を述べよ。
- (三) 米國使節の來航した次第を語れ。
- (四) 當時結んだ和親條約と通商條約との内容をあげよ。
- (五) 櫻田門外の變について其の顛末を述べよ。

### 難語句

使節しせつ 國のつつ 由よし 開港かいこう の論ろん いて外ぐわい 國こく と通商つうしょう しようといふ議論ぎろん とのやくやく 通商條約つうしょうじょうやく といふ所のやくやく とすそくそく 勅許ちやくきょ 天皇のおお せうせう さいさい せませま 猶豫しゆうよ のば

### 攘夷と開港(きわつ)

**開港論者出づ** 洋學を修めた三河の渡邊華山・陸中の高野長英は攘夷論と反對に開港論を唱へ幕府に罪せられた。府に命じ給うた。

**孝明天皇** 一、紀元二千五百十三年アメリカ合衆國の使節ペリーが軍艦四隻を率ゐて浦賀に上陸し幕府に通商を請うたが翌年を約して去つた。これから攘夷・開港の論がいよ／＼騒がしく上下共に頗る迷うた。

**ベリール來航と通商條約** 二、幕府は朝廷・諸大名に方針を聞いたが定まらぬうちにペリーが再び來たので遂に下田・函館を開き必要品だけを給することにした。

**井伊直弼の變** 三、間もなく米國のハリスが來て通商を幕府にすすめたので幕府はその勅許を請うたが御許しがないうちに神奈川・長崎・新潟・兵庫を開く事にした。ついでオランダ・ロシア・イギリス・フランスも條約を結んだ。

一、時の大老井伊直弼は專斷であると非難された。二、直弼は反對者を皆或は流し或は殺し或はおしこめて國論をおさへようとしたり。之を安政の大獄といふ志士吉田松陰も壯烈な最期を遂げた。水戸の浪士等が憤りの餘り櫻田門外に直弼をさし殺した。

### 自習問題

- (一) 當時朝廷と幕府との關係はどうなつて來たか。
- (二) 何故に朝議が一變するに至つたか。
- (三) 蛤御門の變について其戰況を語れ。
- (四) 長州征伐の顛末について知る所を述べよ。
- (五) 孝明天皇の御德について語れ。

### 難語句

剛毅こうい 氣がしつかりしてゐる物 うなが  
 勅命ちやくめい 天皇のご いかめしく  
 勅命ちやくめい 天皇のご いかめしく  
 さきさき かけをな いばんはじ  
 親征しんせい 天皇御自 つみがな  
 親征しんせい 天皇御自 つみがな  
 追討おいうち むけること しんはつ  
 願文がんぶん 天皇がご おき

### 孝明天皇

#### 朝威高まる

一、直弼が殺されて幕府の威勢は次第にくじけた。二、孝明天皇は朝威の衰へたのを常になげき給うたがたま／＼長門藩が速に幕府に攘夷の議を決せしめる事を朝廷に請ひ奉つたので天皇は之をいれ給うた。三、文久三年勅命によつて將軍家茂が京都に上り天皇に從ひ攘夷を賀し神社に祈り攘夷を實行する事を上下に知らせた。これから政治の中心は京都に移つた。

#### 蛤御門の變

一、長門藩は下關海峡で攘夷のさきがけをし、その御親征を請ひ奉つた。二、朝廷では攘夷親征の詔を下し給はうとしたが薩摩會津等の溫和論をいれ朝議は一變した。三、長州藩士等と薩摩藩士等京都に戰を起し蛤御門で最もはげしく戦ひ彈丸がしば／＼宮中に飛來した。

#### 長州征伐

一、長州兵は敗れて歸つたが朝廷は長州追討の命を幕府に降し給ふたが藩主が謝罪したので之を許した。二、幕府は再び長州征伐の兵を出したがかへつて敗れ將軍家茂も薨じ幕威はますます／＼衰へた。三、孝明天皇の御德 まもなく御年三十で天皇は崩御遊された。天皇は内外多事の時に當り大御心を政治になやまし給ひ大政の朝廷にかへる氣運を開き給うた。



### 自習問題

- (一) 慶喜が大政を朝廷に還し奉つた次第を述べよ。
- (二) 當時の主なる功臣をあげよ。
- (三) 鳥羽伏見の戦況について語れ。
- (四) 慶喜江戸城を開け渡して恭順の意をあらはしたことに付いて語れ。
- (五) 其の後如何なる變遷を経て、全國が悉く平定するに至つたか。
- (六) 彰義隊・白虎隊・五稜廓等について知る所を述べよ。

### 難語句

王政ていせい 天皇が國の政治を  
 王政ていせい 天子が國の政治を  
 恭順きんじゆん ことつし  
 單身たんしん 自分ひ  
 會見かいけん けんくわい  
 周旋しゆせん 道理にしたがつて正し  
 順逆じゆんぎやく 道理にもどつて正しくな  
 いふの

### 武家政治の終

#### 王政古に復る

孝明天皇御崩御遊ばして第一百二 明治天皇即位し給うた。公卿岩倉具視等は薩摩藩士大久保利通・西郷隆盛・長門藩士木戸孝允等と幕府を倒さうと謀つた。土佐前藩主山内豊信は後藤象二郎を幕府に遣して將軍慶喜に大政奉還をすゝめさせた。慶喜は時勢を見ず、めに従ひ、凡そ七百年で王政は古に復つた。

#### 鳥羽伏見の戦

一、慶喜は領地返上の朝命が下つたので官を辭して事變の起るのを恐れ京都から大阪に退いたが會津・桑名の藩士は不平をいだいて再び慶喜を京都に入れようとしたが鳥羽・伏見の戦で官軍に敗られ江戸へにげた。

二、朝廷では有栖川宮熾仁親王を東征大總督とし西郷隆盛を參謀とし慶喜追討の軍を出した。慶喜は前非を悔ひ恭順の意をあらはし、家臣山岡鐵太郎・勝安房等の周旋で戦争せずに事はおだやかにすんだ。

#### 全國平定す

一、慶喜の恭順を喜ばぬ幕府の舊臣等は彰義隊を組んで上野にたてこもつたが官軍に破られた。

二、會津藩主松平容保は奥羽の諸藩と共に若松城によつたが官軍に敗られ白虎の一隊は全部討死した。

三、榎本武揚が軍艦數隻を率ゐて函館の五稜廓に據つたが官軍に敗られた。

### 自習問題

- (一) 明治天皇の御幼時について語れ。
- (二) 天皇は大政を如何に統べ給ひしか。
- (三) 天皇の御偉業を輔翼し奉つた明治維新の功臣をあげよ。
- (四) 五箇條の御誓文を暗寫して其の大意を述べよ。
- (五) 東京に遷都し給うた主なる理由をあげよ。
- (六) 維新の際行はれた新政について知る所を述べよ。

### 難語句

剛毅かうぎ 心がしつかりしてゐて  
 剛毅かうぎ 心がしつかりしてゐて  
 萬機ばんき 國家の  
 萬機ばんき 國家の  
 庶民しよみん 國民  
 庶民しよみん 國民  
 陋習ろうしゆ わる  
 陋習ろうしゆ わる  
 公道かうどう のみち  
 公道かうどう のみち  
 皇基かうき 基礎  
 皇基かうき 基礎  
 鳳輦ほうねん 輦  
 鳳輦ほうねん 輦  
 天皇のおのり  
 天皇のおのり

### 明治維新

#### 明治天皇

孝明天皇の第二の皇子にまし、嘉永五年にお生れ遊ばし英明剛毅にわたらせられ、御幼時はげしい演習を御覽になり人々は恐れても天皇は御平靜に熱心に御覽遊ばした。

#### 大政を統べ給ふ

一、天皇は御年十六で御位に即き給ひ、慶喜が大政を奉還し奉つたので、三條實美・岩倉具視・西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允等をあげ用ひ天下の大政を統べ給うた。

#### 東京を都とし給ふ

維新の政を盛にし萬民を安ずる爲明治元年三月三日紫宸殿に百官を召し五箇條の御誓文を示し給うた。つたが江戸を東京と改め宮城をこゝに定め給うた。

#### 廢藩置縣

一、大政は奉還されても大名の領地はもとのまゝであつたので木戸孝允は大名の土地人民の奉還を唱へ長門・薩摩・肥前・土佐の藩主がまつさきに之を實行し他の諸藩主も之になつた。

#### 内外の政整ふ

朝廷では新に學制を定め徴兵令をしき諸外國とは和親を結び條約國に公使を置き岩倉具視等に歐米を視察せしめ給ひ維新の大業はいよゝゝ固まつた。

自習問題

- (一) 征韓論の行はれた譯を語れ。
- (二) 西南の役の顛末を述べよ。
- (三) 其の後何故に隆盛の賊名を除かれ、其上贈位せられたかを言へ。
- (四) 西南の役當時皇室が特に傷病兵をいたはられたことについて語れ。
- (五) 我が國赤十字社の起りについて知る所を述べよ。

難語句

好を修むよしをきよむつてゆく 朝議てうぎ相談さうだんの少すく  
 壯の徒たけなげのども 要害やうがいとくはし 突貫とつぐんつ  
 激戦げきせんたたかふ 追撃おひうつ 憲法けんぽう  
 發布はつぷの日 明治二十二年 傷病兵しやうびやうへいのつ  
 いた兵や病氣びやうきの兵をいふ

自習問題

- (一) 如何なる考で衆議による政治を採用せられたか。
- (二) 國會開設の勅を下された御精神について語れ。
- (三) 皇室典範と大日本帝國憲法とは如何なることを定められたものか。
- (四) 帝國議會の開設について語れ。

難語句

憲法發布けんぽうはつぷ 大日本帝國憲法をあらま衆議院の多數の人 輿論うろんとみとめる議論 政黨治てうとうちの評議 制度せいどを定められ 歸朝きてう外國から 自治制じちせいの和氣わきむつまじ 召集しゆしゆびあつめ 帝國議會ていこくぎかいいて相談する會で貴族院と衆議院とから 御趣意おんしゆいがかへ

西南の役

征韓論

我國が外國と和親する方針を定め先づ朝鮮に之をすすめたが我が好意をしりぞけかへつて禮を失したの隆盛は征韓論を唱へ朝議も之に決した。明治六年岩倉具視等が歐米から歸り内治を整へることの急を説き外征に反對したので事止み隆盛は官を辭した。

西南の役

- 一、隆盛は鹿兒島に歸り私學校を開いたが集る生徒多く政府に不平をいだいて明治十年隆盛をおし位てて兵を擧げ熊本城を圍んだが谷干城が固守した。
- 二、朝廷では有栖川宮熾仁親王を征討總督として隆盛を討たせ給うた。賊軍は田原坂に據り十數日激戦し遂に破つた。一隊は海路八代から賊軍の後を突き熊本城の圍は始めて解けた。五十餘日の間萬苦をしいで城を守つた谷干城の功は偉大である。
- 三、賊軍は鹿兒島に退き城山に據つた。官軍が四方から之を攻め遂に力がつき隆盛以下悉く戦死した。朝廷では維新の當時の勳功を思召し後に隆盛の賊名を除いて正三位を贈り給うた。

皇室の御めぐみ この役に天皇は大坂陸軍病院に行幸し傷病兵をいたはり給ひ、皇太后、皇后は御自ら繻帶を作り給ひ、佐野常民等は赤十字社の前身博愛社を起した。

憲法發布

西南の役後はまた内亂なく政治はますます平和の内に發達した。五箇條の御誓文中の「廣く會議を興し萬機公論に決すべし」との御趣意に基いて、輿論を採用する道を開き給ひ政府は東京に地方官會議を開き、府縣會を設け始めて民間から議員を選出せしめ給うた。

二、國民の政治思想も發達し國會開設を願ふ者が多くあらはれた。明治十四年天皇は勅を下し來る二十三年に國會を開くと告げ給うた。板垣退助、大隅重信等は各政黨を組織して國會開設の時の用意をした。

一、伊藤博文は天皇の仰を受けて歐洲に赴き各國の制度を視察し、歸朝して熱心に取調べた、新に内閣の制度が定まり、地方自治制しかれ明治二十二年には我が國體に基いて皇室典範・大日本帝國憲法が制定され紀元節の佳辰に御發布になつた。

二、我帝國憲法は天皇が國民幸福のために定め給うたもので上下喜びあうて之が發布を見た。

帝國議會開かる 翌二十三年憲法の定むるところによつて貴族院・衆議院の兩議員を東京に召集し第一回の帝國議會は開かれた。以後毎年議會は召集され萬機公論に決するの御趣意はいよ／＼實地に行はれることゝなつた。

自習問題

- (一) 天津條約について知る所を記せ。
- (二) 日清戦争の原因について述べよ。
- (三) 日清戦役の主なる経過について順次述べよ。
- (四) 下關條約の結果について其の主要をあげよ。
- (五) 臺灣平定の次第を語れ。
- (六) 北白川宮能久親王について知る所を語れ。
- (七) 日本が大勝を得た理由を言へ。

難語句

征韓の論せんかんのろん 朝鮮をうつしやせん 損害のつく  
支拂しはい 居留民きりゅうみん 外國にすんで 償金しょうきん のひととして  
ふ金ふきん 大元帥陛下だいがんすい 戦時せんじ に大元帥陛下  
戰端せんたん かひ 大本營だほんえい のまします本營  
後援こうえん たすけること

明治二十七八年戦役

朝鮮事變

朝鮮には黨派の争があつて明治十七年清國にたよらうとする派が我が國にたよらうとする派を破り我公使館を焼き官民を殺したが天津條約で事は止んだ。

日清の戦

一、清國は朝鮮を屬國のやうに見て自分にたよらうとする派を助けたので二十七年に亂が起つた。清國は其難を救ふといつて兵を出し我國でも兵を出した。七月豊島沖で戦端開かれ八月宣戰が布告された。

下關條約

二、我陸軍は平壤の清兵を破り海軍は黃海で敵艦を破りついで二十八年になつて大山巖と伊藤祐亨と力を合せて敵の海軍根據地威海衛にせまつた敵將丁汝昌は遂に敗れたので毒をのんで死んだ。

臺灣の平定

破竹の勢で遼東半島を占領し北京にせまつた。清國は大いに恐れ李鴻章を我國に遣して和を請うた。伊藤博文・陸奥宗光と下關で談判し朝鮮を獨立國と認め遼東半島・臺灣・澎湖島を譲らせ二億兩の償金を出すことを約させた。然るにロシア・フランス・ドイツの三國は遼東半島の還附をせまつたので止むなく返した。

臺灣は我國の領地になつても従はぬものがあつたので北白川能久親王が之を討ちたまうた。上下一致大戦に當り遂に大勝を得我國は東洋の強國となつた。

自習問題

- (一) 徳川幕府が先に結んだ條約はどんなものであつたか。
- (二) 維新以來如何に條約の改正をはかつたか。
- (三) 改正條約は如何にしてなつたか。
- (四) 改正條約が如何に行はれる様になつたか。其の後の日本は如何。

難語句

條約改正じょうやくかいせい 國と國との間に於ける 面目めんぼく  
を損ずをそんず おとす 領事りやうじ 條約國にとどま  
ける自國の居留民を保護し取りしまりをす  
る自國の居留民を保護し取りしまりをす  
役やく しばししばし 同意どうい 實力じりき  
さいの 服ふく 輸入品ゆにひん 外國から我  
ちから 多年たねん の望のぞみ かけたの望み  
をいふ

條約改正

二十七八年戦役によつて國威を擧げた我國は之と前後して諸外國との條約を改め歐米諸國と等しい地位に立つことを得た。

一、其頃までの條約は徳川幕府が外國にすすめられて結んだもので我國の面目を損じ、利益を害する箇條が多かつた。外國居留民は外國領事が行ひ、輸入品には課税することが出来なかつた。

二、維新以來國民はその改正を望み外國に談判したが同意を得ることは容易でなかつた。

改正成る

憲法布かれ議會は開かれ法律制度が整うたので陸奥宗光が先づ英國に談判して條約改正の同意を得た。二十七八年戦役が終り我國の實力が大いに現れたので他の諸外國もつづいて改正に同意した。

改正條約行はる

改正條約は三十二年に始めて行はれ外國人も我が裁判に服し輸入品の税金も自由に課し得て多年の希望は達せられた。

自習問題

- 一 北清事變について述べよ。
- 二 日英同盟は如何なる理由で結んだか
- 三 露國と國交斷絶するに至つた次第を述べよ。
- 四 日露戦争の主なる経過について語れ
- 五 特に旅順の開城、奉天の大戦、日本海の決戦について其の大意を述べよ。
- 六 ポーツマス條約の結果について言へ
- 七 日本が大勝を得た理由をあげよ。

難語句

宣教師 宗教をひ 聯合ふこと 列國 各國に 功績が 威壓へつけること 同盟 或同一の行動をなすべく約すること 宣戰の詔 敵國に對して戰ふといふこと 攻不落 落ちないといふ

明治三十三年七八年戦役

北清事變

さきに三國が我國に遼東半島を還さして各清國から各地を借りた。清人中には外國人を嫌ふ者多く遂に義和團が暴動を起した。各國から出兵して之を救ひ清國は各國にわびて事治り、我軍は最功績を上げた。

日露開戦

この事變に露國は兵を滿洲に送り韓國も威壓しようとした我國は日英同盟を結んで之に備へたが露は我國の談判を退けたので三十七年二月宣戰した。

陸軍の活動

- 一、我軍は韓國から滿洲に進み大山巖總司令官となり遼陽を破り沙河で破り奉天にせまつた。
- 二、陸軍大將乃木希典は海軍と共に旅順を攻め難攻不落と世界にはこつた要害を遂に陥落した。
- 三、旅順軍は滿洲軍に加はり四十萬の大軍はクロバトキンの率ゐる六十萬の兵と奉天に戦ひ大に破つた。

海軍の活動

- 一、海軍は旅順を攻め廣瀨武夫等の決死隊が港口を塞ぎ、敵艦を黄海や蔚山沖に破つた。
- 二、露國の全艦三十八隻が對馬海峡に現れたが東郷大將の率ゐる我艦隊の爲に全滅してしまつた。

ポーツマス條約

北米合衆國大統領ルーズベルトの仲裁で我全權小村壽太郎等と露國全權ウキッテ等はポーツマスで談判し樺太の南半と南滿鐵道等を讓られた。

自習問題

- 一 韓國を保護國とした理由を述べよ。
- 二 韓國を併合するに至つた次第を述べよ。
- 三 伊藤博文の功績と其の最後について語れ。
- 四 前韓國皇帝並に王族方は如何なる待遇を受けられて居るか。
- 五 朝鮮民族はこの併合に如何なる考を有つて居るか知る所を記せ。

難語句

協約 國と國との交際 内政 國の内なること 壓迫 他人の力によること 統治の權 國家を治むる權 兇徒 悪人 暗殺 人の死を謀る 三位以上の人の死去

韓國併合

韓國を保護國とす 韓國は獨立の實を擧げ得ず、ために外國の壓迫を受け東洋の平和を害するのでポーツマス條約で韓國に於ける特別な權利を認められたので韓國と協約して我保護國として京城に統監府を置き伊藤博文が統監に任せられ韓國の内政を改めた。

韓國の併合

- 一、國韓は我が保護國となつても多年の弊政は全く除くことは難い。國民民福を進めには日韓併合がよいといふことを韓國人も我國人も知つた。
- 二、そこで四十三年八月日韓併合は成り韓國皇帝は統治の權を天皇に讓つて王となり皇族として待遇され、國名を朝鮮と改め我が國の總督が政務を總べることとなり、東洋の平和の基はいよゝ固くなつた。

伊藤博文は日韓併合に先だち統監をやめて滿洲に旅行したが、ハルビンで兇徒に暗殺された。博文は維新の前後から國家の爲に盡し、憲法の制定韓國の統治にも大功を樹てた。

### 自習問題

- (一) 天皇御病にかからせ給うた際國民は如何なる有様であつたか。
- (二) 明治天皇の御盛徳について語れ。
- (三) 天皇の御製の二三を掲げよ。
- (四) 國民は天皇の御盛徳を如何に慕ひ奉つたかを語れ。
- (五) 照憲皇太后の御徳について知る所を記せ。
- (六) 照憲皇太后の御歌を二三掲げよ。

### 難語句

崩御 ほろお 崩御 おかくれ 御平癒 ごへいゆ 御平癒 おなほりに 跪き ひざま 跪き つ 國家多難 こくかたなん 國家多難 おなほりに 難多 なんた 難多 おなほりに 儀奉 ぎほう 儀奉 おなほりに 大喪に服す たいさうにふくす 大喪に服す おなほりに 儀奉 ぎほう 儀奉 おなほりに 大喪に服す たいさうにふくす 大喪に服す おなほりに

### 明治天皇の崩御

#### 天皇の崩御

一、維新以來國運益々盛んになつた折、畏れ多くも四十五年七月天皇御病にかからせ給うた。國民は日夜御病の御平癒を祈つたが三十日遂に崩御あそばされた。

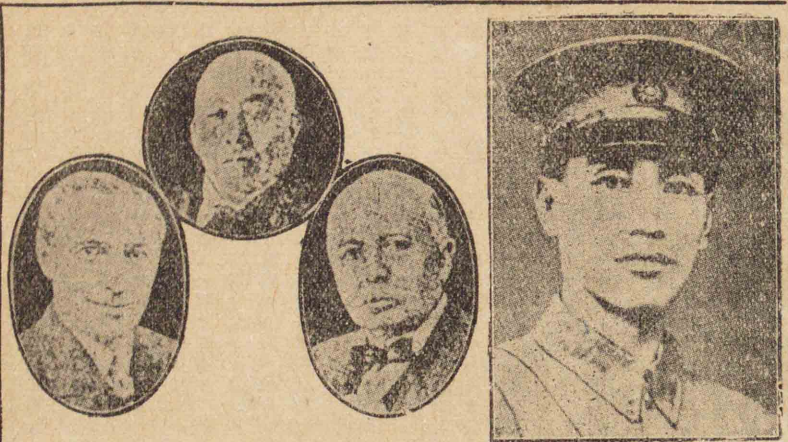
二、天皇崩御の日皇太子嘉仁親王たゞちに御位をつぎ給うて年號を大正と改め給うた。九月御大葬の儀を擧げ給ひ伏見桃山の御陵に葬り給ひ東京代々木に明治神宮を建て奉つた。

#### 天皇の御盛徳

一、天皇は御幼少の御身を以つて國家多難の折に御位に即かせ給ひ、四十六年の御在位中維新の大業を開き給ひ憲法を布き内治に外交に其御政治最もよく行き届き遂に我國を世界の一大強國たらしめ給うた。

二、天皇は御自ら節約を守り給ひ、御座所等は極めて質素な御つくりであらせられた。常に萬民の上に御心をかけさせられ「照るにつけ曇るにつけて思ふかな、わが民草の上はいかに」とよみ給うた程である。

昭憲皇太后は皇后に立ち給うてから常に内に於て天皇を助け給ひ御仁慈の御心深く學校・病院等に行啓して學藝をすすめ慈善の事業を勵まし給うたが大正三年四月崩じ給うた。先帝御陵の東に葬り奉つる。



日英米三國全權

蔣介石

最近の出來事(五)

#### 一、支那事件問題

##### 1. 南京事件

支那共和國は大革命以來常に戦亂が絶えなかつたが昨二年に入つてから全國的に戦亂興り蔣介石張作霖馮玉祥各派あり楊子江沿岸地方殊に亂れた各國居留民の生命財産の安全を奪はれ三月二十四日には南軍は南京の我領事館を襲ひ婦女子供に迄侮辱を加へ掠奪するに到つた

南京事件によつて我國は支那に陸軍を派遣したが濟南に於て三年五月三日南軍はまた大掠奪慘殺をなし邦人の害を蒙る者甚だ多く非常な損害と國辱とを蒙つた

大動亂の支那は北方の張作霖死して南軍全國を統一し昭和三年南京に蔣介石を主席とする政府を立つることとなつた

##### 2. 濟南事件

##### 3. 南京政府の創立

#### 二、モラトリアム發布

臺灣銀行が支拂不能に陥つた爲め此救濟問題から昭和二年四月十九日内閣交迭し全國銀行界に非常な危期が迫り四月二十三日から三週間支拂延期令が發布された

#### 三、ゼネヴァ軍縮會議

昭和二年六月ゼネヴァに第二回軍縮會議が開かれ我國から齋藤實、石井菊次郎等が出席したが何等まとまる所なかつた。

朕惟フニ我カ皇祖皇宗惟神ノ大道ニ遵ヒ天業ヲ經綸シ萬世不易ノ丕基ヲ肇メ一系無窮ノ永祚ヲ傳ヘ以テ朕カ躬ニ遠ヘリ朕祖宗ノ威靈ニ頼リ敬ミテ大統ヲ承ケ恭シク神器ヲ奉シ茲ニ即位ノ禮ヲ行ヒ昭ニ爾有衆ニ語ク

昭和三年十一月十日即位當日宸祭日

今上天皇

即位の大禮を擧げ給ふ。

御即位大禮は昭和三年一月十七日に始まる即ち同日天皇陛下には昭和三年十一月十日皇宮に於て大禮御奉行之儀を實所及伊勢大廟に御申告ありついで悠紀主基の大田を御勅定(悠紀は滋賀縣三上村大田主榮川春治主基は福岡縣藤山村大田主石津新一郎)

自習問題

- 一、シベリヤ出兵のわけをいへ。
二、尼港事件の結果をかたれ。
三、東宮殿下御外遊によつて我國に如何なる利を得たるか。
四、攝政について知つてゐる事をかけ。

難語句

過激派は政治上の一領事外國に居つて在留邦人の權利利益を保護し取締をなす 虐殺方法を殺すこと 官吏 諸所をめぐり 御巡遊あそぶこと 攝政 天皇に代り政治を行はれる位

最近の出来事(一)

一、シベリヤ出兵

ロシアには歐洲大戰亂中に革命がおきて大正六年にレーニンといふ過激派が政治をするやうになつて國內が大に亂れた。我國はシベリヤへ出兵して過激派軍やオーストリヤ捕虜軍を打ち破つた。

二、尼港事件

ロシア過激派のバルチザンといふ暴徒が我が守備軍兵の少いサガレン洲の首府ニコライエフスクを急に襲うて領事以下三百五十餘名の在留邦人をことごとく虐殺した。時は大正九年五月二十四日から二十七日迄の事であつた。我國はロシアに完全な政府が出来た迄此事件の保證としてサガレン洲を占領した。

三、東宮殿下御外遊

歐洲大戰亂の跡を御視察かた／＼各國を御巡遊の御目的で我が皇太子殿下は大正十年三月三日軍艦香取に召して國民歡呼の内に横濱を御出帆。五月二十七日英國ボーツマスに御上陸後は英、佛、白、伊、和を御巡遊各地に於て歓迎を受けさせられ七月十九日ナポリ港御乗艦九月三日御歸朝あらせられた。

四、東宮殿下御政行

天皇陛下御病氣の爲大正九年以來東宮殿下は御名代として御儀式等行はせられてゐたが十年十一月二十五日攝政におつき遊された。

自習問題

- 一、ワシントン會議は何をきめたか。
- 二、我國と太平洋との關係を考へよ。
- 三、關東の大震災について如何なる感じを持つたか。

難語句

全權委員 ぜんけんいん すべてをまかされたもの。  
 主力艦 しりきかん 最も強い軍艦。  
 内帑 ないとう 天皇陛下御手許のお金。  
 災者 さいしや 災にあつたもの。  
 普通選挙 ふつうせんきよ 公民権のあるものは別に定められた規則にかゝらぬ限り皆選挙の権利があること。

最近の出来事(二)

一、ワシントン會議

米國首府ワシントンで大正十年十一月一日から十一年二月六日まで開かれた會で我國からは徳川家達、加藤友三郎、幣原喜重郎等が全權委員として他の八ヶ國の代表者と議して次の事を定めた。  
 一、海軍々備の制限 主力艦を英米は各五二・五萬噸日本三二・五萬噸佛、伊一七・五萬噸とする事。

(二) 太平洋防備の協定 日本本土を除いた太平洋諸島に日英米佛等の各國は現状以上の防備をせぬこと。

(三) 其他太平洋沿岸の諸國間に種々の問題の協定。

二、關東地方大震災

大正十二年九月一日正午東京・神奈川・千葉・埼玉・静岡等の各府縣を中心として關東地方に大震災が起つた。損害百億圓、死者十餘萬、負傷者數十萬人で其慘状は目もあてられぬ程であつた。しかし朝廷では内帑金を下賜され國民も亦金品を送つて罹災者を救つたので復興も着々進んだ。

三、東宮殿下御成婚

東宮殿下はかねて御婚約のあつた久邇宮邦彦王殿下の第一王女良子女王殿下と大正十三年一月廿六日御成婚あらせられた。

四、日露交渉

ロシアとは度々國交復興の交渉を開いてゐたが大正十四年一月漸く修好條約の締結が出来た。

五、大正天皇崩御

大正十五年十二月二十五日午前一時二十五分天皇葉山御用邸に於て崩御即時皇太子裕仁親王殿下踐祚せられ昭和と改元あり二十八日朝見式を行はせられ勅語を賜ふ昭和二年一月二十日 大正天皇と追號せられ越えて二月八日御大喪儀舉行せられ東京府下横山村淺川村の地域に奉葬し多摩陵と申し奉る。

今上天踐祚

皇太子裕仁親王殿下踐祚せられ昭和と改元あり二十八日朝見式を行はせられ勅語を賜ふ昭和二年一月二十日 大正天皇と追號せられ越えて二月八日御大喪儀舉行せられ東京府下横山村淺川村の地域に奉葬し多摩陵と申し奉る。

昭和五年一月五日印刷  
 昭和五年一月十日發行

五、六年、高一、高二用

定價 參拾五錢

著作  
 所  
 有

著者 菊地勝之助

發行者 立川熊次郎

印刷者 大阪印刷株式會社

大阪市南區安堂寺橋通三丁目四十五番地

大阪市東區和泉町二丁目三十一番地

發行所

大阪市南區安堂寺橋通三丁目四十五番地  
 電話 丁目 四一五番  
 振替口座 大阪一四六一番

立川文明堂

◇ 類書考參の生學 ◇

|  |  |  |  |   |  |  |   |   |  |
|--|--|--|--|---|--|--|---|---|--|
| <p>廣島高等師範學校前訓導 中野恭一監修<br/>                 學習と 算術の新研究 尋五、六、高一、二<br/>                 送料各三十五錢</p> | <p>廣島高等師範學校前訓導 菊地勝之助著<br/>                 學習と 地理の新研究 尋五、六、高一、二<br/>                 送料各三十五錢</p> | <p>廣島高等師範學校前訓導 柴田 來著<br/>                 學習と 地理の新研究 高一用 三十五錢<br/>                 高二用 三十五錢<br/>                 送料各四錢</p> | <p>廣島高等師範學校前訓導 菊地勝之助 正木逸語共著<br/>                 學習と 國史の新研究 尋四、五、六、高一、二<br/>                 送料各三十五錢</p> | <p>廣島高等師範學校前訓導 中山榮作著<br/>                 學習と 國史の新研究 高一、二、用<br/>                 定價各三十五錢<br/>                 送料各四錢</p> | <p>廣島高等師範學校前訓導 野澤正浩 北川若松共著<br/>                 學習と 理科の新研究 尋四、五、六、高一、二、用<br/>                 定價各三十五錢<br/>                 送料各四錢</p> | <p>廣島高等師範學校前訓導 野澤正浩著<br/>                 學習と 國語讀本の新研究 尋四、五、六、高一、二、用<br/>                 定價各三十五錢<br/>                 送料各四錢</p> | <p>廣島高等師範學校前訓導 菊地勝之助著<br/>                 尋常小學國史附圖 尋五、六、年用<br/>                 定價各三十五錢<br/>                 送料各四錢</p> | <p>廣島高等師範學校前訓導 菊地勝之助著<br/>                 高等小學國史附圖 高一、二、年用<br/>                 定價各三十五錢<br/>                 送料各四錢</p> | <p>廣島高等師範學校前訓導 關原吉雄監修<br/>                 理科新辭典 定價壹圓五十錢<br/>                 送料十二錢</p>                              |
| <p>廣島高等師範學校前訓導 菊地勝之助著<br/>                 地理新辭典 定價壹圓八十錢<br/>                 送料十二錢</p>          | <p>廣島高等師範學校前訓導 菊地勝之助著<br/>                 國史新辭典 定價壹圓五十錢<br/>                 送料十二錢</p>          | <p>廣島高等師範學校前訓導 山上操監修<br/>                 算術新辭典 定價壹圓五十錢<br/>                 送料十二錢</p>                                     | <p>白井康治先生著<br/>                 模範自習辭典 定價九十二錢<br/>                 送料二十錢</p>                             | <p>廣島高等師範學校前訓導 五先生共著<br/>                 綴方の學習 尋五、六、年用<br/>                 定價各四十錢<br/>                 送料各四錢</p>      | <p>西垣曉則先生著<br/>                 イソツプ物語二百話 定價八十錢<br/>                 送料八錢</p>  | <p>笹山準一先生著<br/>                 ロビンソン 漂流記 定價八十錢<br/>                 送料八錢</p>  | <p>奈良女子高等師範學校教諭 松本龍之助撰<br/>                 全國優良文集 五、六年用 嫩草の巻<br/>                 定價各六錢<br/>                 送料各六錢</p> | <p>奈良女子高等師範學校教諭 松本龍之助撰<br/>                 全國優良文集 五、六年用 早蕨の巻<br/>                 定價各六錢<br/>                 送料各六錢</p> | <p>奈良女子高等師範學校教諭 松本龍之助撰<br/>                 全國優良文集 高等用 石楠の巻<br/>                 定價六十錢<br/>                 送料八錢</p> |

大阪市南區安立川書店發行



尋六  
中村

375.9  
K

広島大学図書

0130458333

